

JFA news

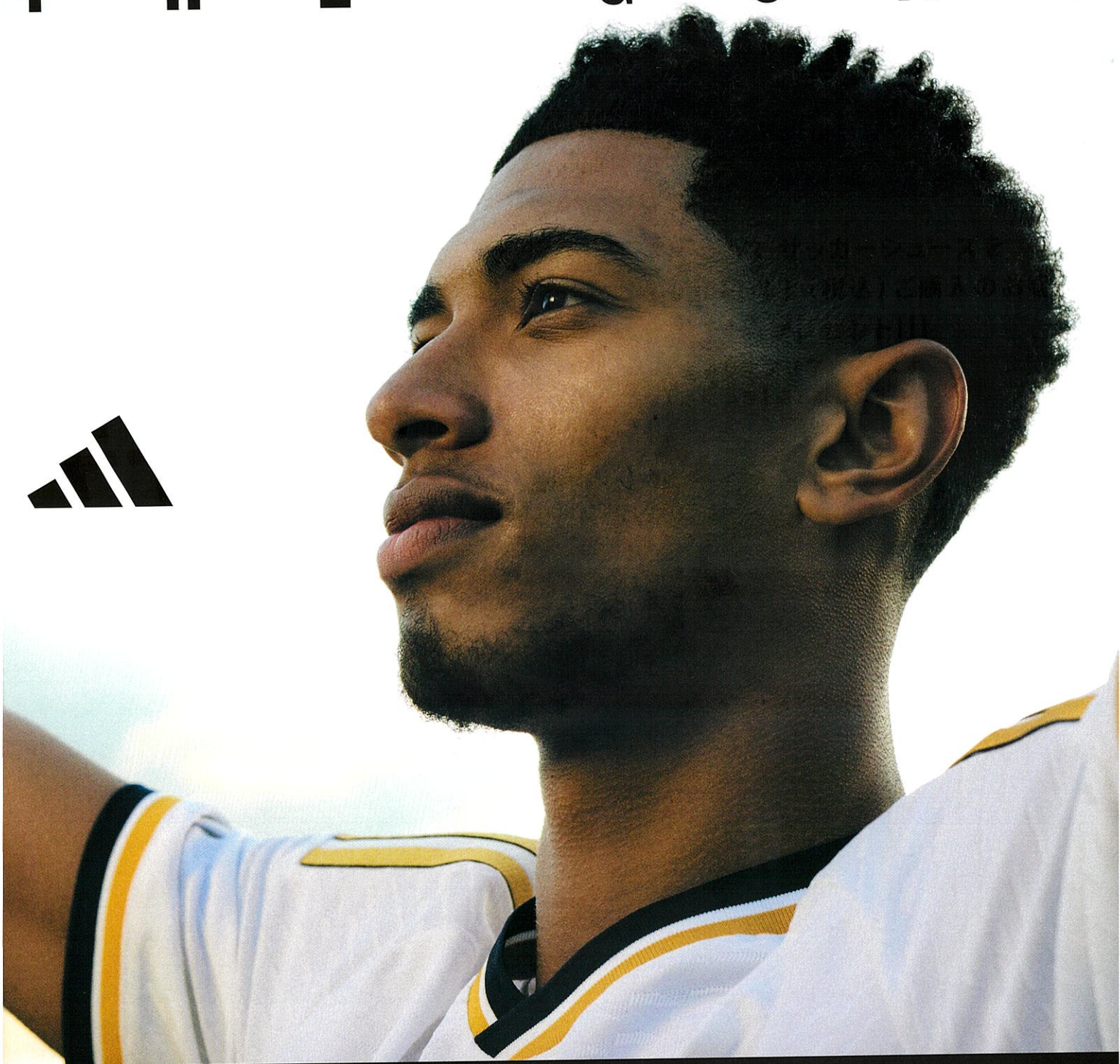
特集

高校サッカーの価値

高校サッカー出身選手に聞く
～小川航基選手 (NEC ナイメヘン)
事例紹介：名古屋高校、近江高校

4 NO.480
2024.
月 情報号

T H E G O A L



ジュード・ベリンガム
特大ポスターがもらえる
キャンペーン
実施中

アディダス サッカーシューズを
5,000円以上(税込)ご購入のお客様に
先着で1点プレゼント!!!

※なくなり次第終了となります
※1足につき1点となります



JFA No.480 news

2024 4月情報号

特集

高校サッカーの価値



※本誌の記事・写真・図表などの無断転用を禁じます。
表紙・目次および本誌内のクレジットの記載のない写真は
©JFA、©JFA/PR、©J.LEAGUE、©WE LEAGUE、
©F.LEAGUE、©Walrix



JFAは社会課題解決に向けた活動「アスパス」に取り組んでいます。これは「地球(earth)の未来(明日)のために私たち(us)がつなぐパス」の意を込めた造語でサッカーファミリーが世代や時代を超えて「パスを繋いでいく」という強い決意を表現しています。

JFAの理念

サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する。

JFAのビジョン

サッカーの普及に努め、スポーツをより身近にすることで、人々が幸せになれる環境を作り上げる。

サッカーの強化に努め、日本代表が世界で活躍することで、人々に勇気と希望と感動を与える。

常にフェアプレーの精神を持ち、国内の、さらには世界の人々と友好を深め、国際社会に貢献する。

JFAのバリュー

エンジョイ◎スポーツの楽しさと喜びを原点とすること
プレーヤーズファースト◎選手にとっての最善を考えること
フェア◎オープンかつ誠実な姿勢で公正を貫くこと
チャレンジ◎成長への高い志と情熱で挑戦を続けること
リスペクト◎関わりのあるすべてを大切に思うこと

CONTENTS

004 林義規 JFA競技会委員長／JFA副会長

008 高校サッカー出身選手に聞く
小川航基選手 NEC ナイメヘン

011 事例紹介
名古屋高校～山田武久監督インタビュー
近江高校～前田高孝監督インタビュー

日本代表

066 SAMURAI BLUE (日本代表)
FIFAワールドカップ26アジア2次予選
兼 AFCアジアカップサウジアラビア2027予選

068 U-23日本代表
国際親善試合 vs U-23マリ代表、U-23ウクライナ代表

070 U-20日本女子代表
AFC U20女子アジアカップウズベキスタン2024

大会・試合

072 JFA 第35回O-40女子サッカーオープン大会

073 JFA 第35回全日本O-30女子サッカー大会

074 JFA 第29回全日本フットサル選手権大会

075 第26回日本フットボールリーグ開幕

076 2024プレナスなでしこリーグ(1部・2部)開幕

連載

019 隔月連載 JFAホットスポット
「JFAクラウドファンディングの開設」

020 日本全国FAコーチ巡り
東京都サッカー協会
「Happy Life with Football in Tokyo」

022 隔月連載 メディカルROOM
福島理文 JFA医学委員会スポーツ救命部会員
「熱中症予防(1)
～メカニズムと予防の重要性」

023 隔月連載 サッカー心育論
中山雅雄
「子どもたちの可能性を信じて」

024 隔月連載 フットサル語り場
陶山輝佳 高松北高校サッカー部監督
「香川県と四国のフットボールをさらに盛り上げたい」

025 いつも心にリスペクト
大住良之
「『異議』をゼロにするために」

REPORT

026 第1回JFA部活動地域移行カンファレンス

039 JFA新体制発足

078 アディダス・JFA HER TEAM CUP 2024

017 JFA情報発信局

018 能登半島地震復興支援プロジェクト

027 月刊レポート

033 蹴球通信

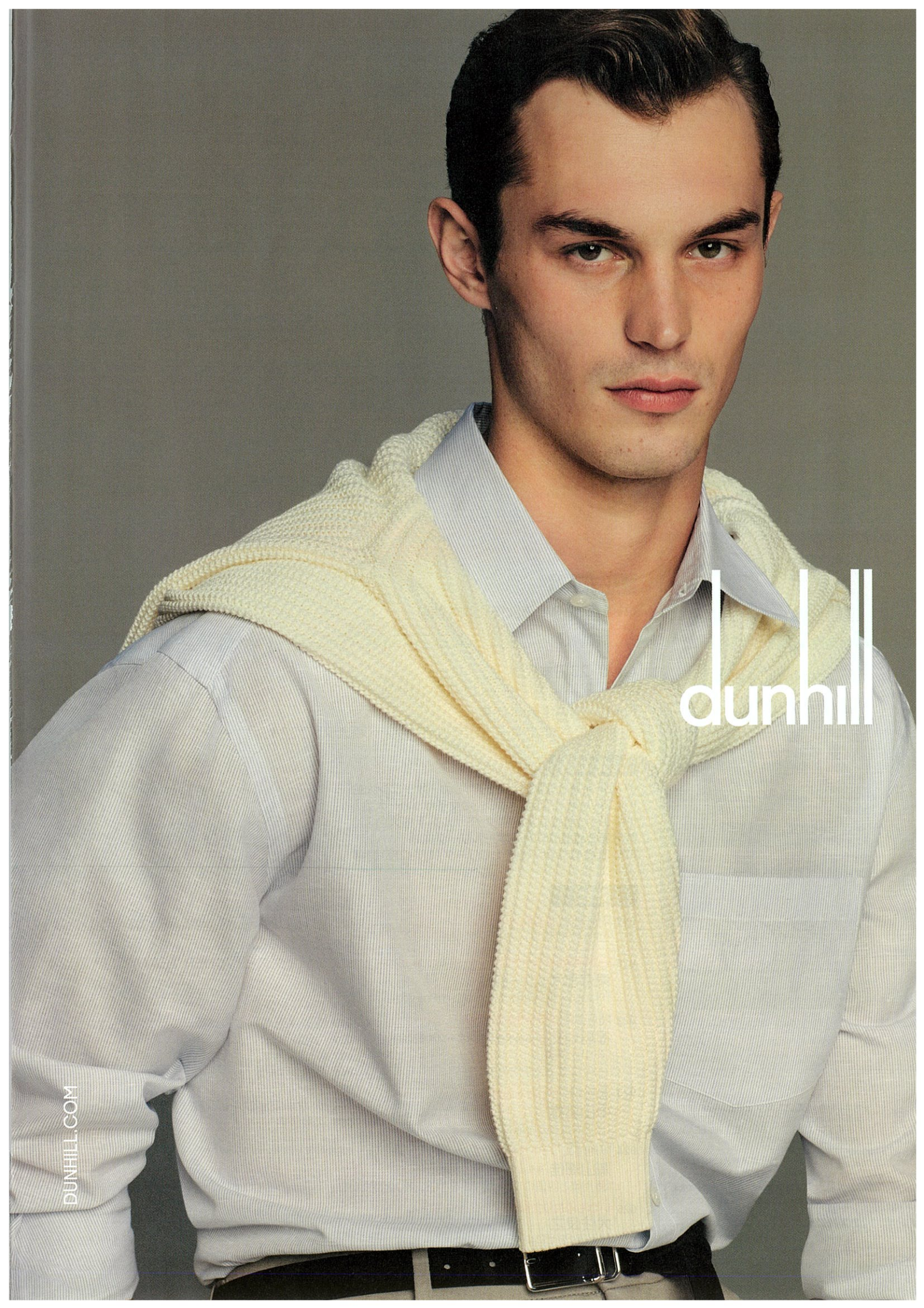
040 会議レポート

051 データボックス

064 サッカーファミリー広場

080 次号予告

※役職は2024年3月22日までのものです



dunhill

DUNHILL.COM



特集 高校サッカーの価値

どこで自分を磨くか、 選択肢があることが重要



高校サッカー部の日本一を決める全国高等学校サッカー選手権大会は、今年で第103回を迎える。

長い歴史の中でさまざまなドラマがあり、

その中から将来を嘱望される選手や、育成のスペシャリストと言える指導者らを送り出してきた。

今号では、日本サッカー協会（JFA）の競技会委員会をけん引してきた林義規委員長（取材当時）をはじめ、桐光学園高校サッカー部出身の小川航基選手、名古屋高校の山田武久監督、近江高校の前田高孝監督にインタビューを実施。

日本高校サッカーの役割や価値について考える。



高校サッカーは 敗者によって 支えられてきた



特集 高校サッカーの価値

林義規

JFA競技会委員長／JFA副会長

U-18年代において高校のサッカー部に所属する選手は圧倒的多数を誇る。
高校サッカーの長所やこれからの課題について、
日本サッカー協会（JFA）の
林義規競技会委員長（副会長）に話を聞いた。

○取材日：2024年3月21日 ※役職は取材時

地に足を着けた指導が
やがて独自性を生む

——部活動を通して得られること、その
メリットをどのようにお考えですか。

林 全国高等学校サッカー選手権大会には100回を超える歴史があり、全国およそ4000校、15万人のサッカー部員にとって憧れの舞台になっています。自分に通う学校のサッカー部に入れば、誰もが高校選手権を目指すことができるという点は、一つの価値でしょう。

近年、強豪校のサッカー部員の数が大幅に増えています。一昔前は、強豪校だとポジション争いがあるから別の高校にしようとなりがちでしたが、最近、状況が変わってきました。例えば、青森山田高校はトップチームがU-18プレミアリーグ、セカンドチームがプリンスリーグ、サードチームが青森県リーグに参加し、その全てのリーグで優勝を争っています。リーグ戦が整備されたことによって部活動に属する意義がより深まっています。選手たちが学校の伝統の重みを感じながらその哲学をつなぐところにも、部活動の価値があると感じています。

——特に私立の高校では、勉強もサッカーも、一人の先生が腰を据えて指導できます。

林 その通りで、公立高校の教員は異動がありますから、同じ高校で長く教えることはできません。一方、私が暁星（暁星学園／東京）で43年間、教員を務めたように、私立高校ですとそこで長く指導を続

けることができます。普段はクラスを担当している先生が、放課後はサッカーの指導にあたる点も高校サッカーのメリットですよね。部活動で一生懸命サッカーに取り組んでいる選手が教室ではどんな生徒なのか分かりますし、心身が変化することが高学年代に間近でその成長を見ることが出来ます。教員同士の横のつながりがあれば、「あの選手は勉強も頑張っている」「この選手はクラスメートに信頼されている」と、さまざまな角度から一人の選手の情報を得ることもできる。これも学校でサッカーをやることの長所です。

——文武両道を実践する選手が理想ですね。

林 スポーツに打ち込む生徒と勉強が好きな生徒をそれぞれ集めて「文武両道をやっている学校もあります。個人的には、学業とスポーツの両方に打ち込む生徒が多い学校が「文武両道」を実践している」と捉えています。

両方に本気で取り組むことによつて、大学や社会に出たときに「いいこと」があるかもしれません。例えば、高校サッカー選手権の予選は11月半ばに行われますよね。大学受験があるからと、3年生の多くが夏にサッカー部をやめる中で、高校サッカー選手権予選にチャレンジしてから一般受験で大学に進学する生徒、中には浪して大学に行く生徒もいます。こうやって、学業にもスポーツにも本気で取り組むということが、後々の人生を価値あるものにします。大学を卒業した22、23歳の青年が社会に出たとき、会社の大先

輩から「この若者も自分と同じように頑張つて受験したんだな」と共感してもらえたら、何かとプラスに働くとおもいます。

——青森山田高校の正木昌宣監督は、「社会に出て大成している元サッカー部員に共通して言えるのは、負けず嫌いかつ人の話をきちんと聞けること」と話しています。

林 そういふ人格は環境によつて培われるのではないのでしょうか。近年、高円宮杯JFA U-18サッカープレミアリーグでは、EASTは青森山田、WESTはサンフレッチェ広島F.Cユースが優勝の常連になっています。この2チームに共通しているのは、決して恵まれた環境にいてのではないということ。青森山田は雪深い地域で、広島も中心地から離れたところに位置しています。いずれもサッカーに集中して結果を残し続けたことにより、子どもに憧れられる存在になっています。「負けてはいられない」という芯から湧いてくるものが彼らのエネルギーになり、それが後輩に受け継がれているのです。

——ブランド力のあるチームがその存在感を示す一方で、近江高校や名古屋高校など新しいタイプのチームも躍進しています。

林 高校サッカーのレベルは年々上がっていますが、さらなる向上が必要です。コロナ禍にいた2022年、われわれはそれまで東西10チームずつだったU-18プレミアリーグの参加チーム数を12チームずつに増やしました。日本は極東の島国なの

で、海外のチームとは気軽に試合ができない。いかに国内の試合のプレー強度を高めるかが大事であるとは度度も議論し、実現にこぎつけました。

——現在、U-18プレミアリーグでは高体連のチームもJクラブのアカデミーと渡り合っています。

林 選手も指導者も「負けてたまるか」という気持ちになりますし、高体連対Jクラブの図式が生まれることでプラスの影響が大きく出ます。特に、高校サッカー勢のJクラブアカデミーへの対抗心は、サッカーをより白熱させます。また、高校サッカーの監督は時間をかけて着実に自身の指導哲学を落とし込み、それを継続させることができます。地に足を着けて指導することによつて、近江や名古屋、早稲田実業のように異なるタイプのチームが台頭するといえます。

名將の教え子の台頭は「素晴らしさ」のひと言

——高校サッカーでは指導者の世代交代も行われている印象です。

林 尚志高校の仲村浩二監督や昌平高校の玉田圭司監督、藤島崇之前監督もそうですが、3人とも習志野高校時代の本田裕一郎監督の教え子です。西日本でも、鹿児島実業高校の松澤隆司監督(故人)の下でプレーした有村圭一郎さんが現在、神村学園の監督として手腕を発揮しています。また、なでしこジャパン(日本女子代表)の池田太監督や、昨年までJFAユ-

ス育成ダイレクターを務めた西川誠さんは、武南高校時代に大山照人監督の下で成長しました。かつて高校サッカーをけん引した監督の教え子たちが今こうして指導者として頑張っていることは「素晴らしさ」のひと言に尽きます。

——選手たちにとつてもプラスですか。

林 高校選手権の出場経験者やプロサッカー選手だった人に教わるのは、ひと味違います。話はそれますが、私は22年のSBSカップ国際ユースサッカーでU-18日本代表の団長を務めました。チームには、川口能活さんがGKコーチとして、内田篤人さんがJFAロールモデルコーチとして参加し、約一週間、一緒に過ごしま

東京都予選で躍進し、第102回全国高等学校サッカー選手権大会に出場した早稲田実業。高校サッカー選手権初出場ながら開幕戦では堂々たる戦いを見せた





仲村浩三監督率いる尚志は昨年、U-18プレミアリーグEASTで上位争いを繰り広げるなど、東日本の強豪校に成長している

した。そこで二人が選手に与える影響力の大きさを見せつけられました。川口さんはFIFAワールドカップを4度経験していますが、U-18日本代表の活動では選手よりも先に練習場に来て、コーンを並べるなど準備していました。そういう姿を見た選手は、自分たちもサッカーに全力を注ぐという気持ちになります。一方、内田さんは全体ミーティングのとき、自身が膝を手術した際の写真を見せて、プロ生活が順風満帆ではなかったことを伝えてくれました。選手たちは二人の苦勞や、練習に臨む姿勢を直接感じとれる

わけですから、何よりも実になったと思います。

——これから先、強豪と呼ばれるような高校と、それ以外の高校はどのように交わるとお考えですか。

林 それは各都道府県が抱えている大きな悩みでしょうね。夏のインターハイ(全国高校総体)を例に取ると、約4000校のうち各都道府県の予選でベスト8に残るのはおよそ400校です。つまり、残りの3600の学校でプレーしている選手たちは、6月にはもう部活動にひと区切りをつけ、受験勉強にシフトチェンジするわけです。これはまきれもない事実です。

——最終学年になってわずか3カ月で選手生活に別れを告げる選手が多いということですね。

林 その一方で、高校サッカーには敗者によって支えられてきた歴史があります。高校選手権がなぜ100年以上続いているか、なぜ決勝に5万人を超える観客を動員できるのか。それは、大会を支援してくださる企業やメディアはもちろん、学校の存在があるからなんです。各都道府県の予選で敗れたチームの選手たちがボール拾いを受け持つと、先生(監督)は審判員を務めたり、試合の運営を請け負ったりと、陰に陽に大会をサポートしてくださっているんです。自分のチームが敗れたとしても、大会の運営という形では支えてくれるからこそ、高校サッカーは成り立っているといえます。

中高生の教員はこの上なく楽しい職業

——ご自身はこの3月をもって競技委員長の座を退かれます。後進に引き継ぎたいことはありませんか。

林 高体連には、選手が他チームに移籍した際、新チームへの登録が完了してから6カ月、高体連主催・共催の大会に出場することができないという規約が存在します。例えば、FC東京U-18に優秀だけど公式戦のメンバーには入れない選手がいるとしましょう。高校の指導者がこの選手をサッカー部の即戦力としてプレーさせようとしても、先ほどの規約があると半年は公式戦に出場できず、FC東京U-18としても宝の持ち腐れになってしまいます。ここ数年、選手の移籍をポーターレスにしてほしい、選手が移籍先で活躍しやすい環境にしてほしいと高体連とかけあつてきましたが、まだ実現できていません。

もう一つは、青森山田や前橋育英といった強豪校の県予選を免除し、インターハイや高校選手権の本大会に出場させる施策です。全国大会の常連校の予選を免除すれば、その県の新たな代表を目指そうと地域が活性化されます。また、5月、6月、10月、11月といった比較的涼しい時期にプレミアリーグを行うこともできるようになります。この二つは、私の後任の方に託したいと考えています。

——近年、日本では働き方改革が叫ばれています。教員として働きながら高校サッカーの指導に携わる人たちにもその流れ

が押し寄せています。

林 職場環境の改善や外部指導員の招聘など、働きがいのある職業にするための課題は山積しています。同時に、教員や指導者を志す人はその意義について考える必要があるのでは、とも思います。若い教員になぜ学校の先生になったかを聞くと、「子どもが好きだからです」と返ってくる場合があります。個人的には、中高生の指導に携わる者は生徒の成長を見ることが好きでないと務まらないと思っっています。中学1年から高校3年の6年間は、体、考え方、言葉の使い方など、人生で最も変化して成長します。ですから中高生の教員には、人が最も大きく成長する時期に関わることができる、この上なく楽しい職に就いているということをお忘れないうでほしいのです。

——それを自覚することが、今後の高校サッカーの成長にもつながりますね。

林 少子化をはじめ、さまざまな問題がありますが、みんなで協力して改善していけば、次の新たな100年を迎えられると信じています。部活動は日本独自の文化です。22年のFIFAワールドカップカタールに出場したサムライブルー(日本代表)の26人のうち13人が高体連出身で、9人は大学出身でした。さまざまな道筋をたどってトップに上り詰められることが日本サッカーのストロングポイントですし、その長所をさらに伸ばす必要があります。その先にサムライブルーをはじめとする日本代表チームのさらなる躍進が待っているはずですよ。



©2023 adidas Japan K.K. adidas, the Performance Logo and the 3-Stripes mark are trademarks of adidas.

2024 FIFA 主要大会 公式試合球

CONEXT24

コネクト 24

高校3年間は なにものにも代え難い 貴重な時間だった



高校時代にFWとして開花し、サムライブルー（日本代表）や欧州の舞台で活躍する礎を築いた。高校3年間で「素晴らしい時間だった」と語る小川航基選手に、当時のエピソードや自身の取り組みなどについて聞いた。

○オンライン取材日：2024年9月13日

特集 高校サッカーの価値

高校サッカー出身選手に聞く

小川航基 NECナイメヘン（オランダ）

周囲の人々に恵まれ
成長することができた

——小川選手は横浜港北サッカークラブ、大豆戸FCジュニアユースを経て桐光学園高校に進学されました。クラブチームではなく高校部活動を選んだ理由を教えてください。

小川 高校サッカーで活躍したい、全国高校サッカー選手権大会に出場して注目されたいという思いを常に持っていました。神奈川県外も含め複数の高校からオファーをいただきましたが、桐光学園にはかなり早い段階から声を掛けてもらいましたし、神奈川県で桐光学園以上のチームはないと思っていたので、最良の選択だったと思います。もちろん、Jクラブのアカデミーも視野に入れていて、実際に練習にも参加させてもらいましたが、正式なオファーはなかったと記憶しています。

——高校サッカーに対してはどのような印象を持っていましたか。

小川 注目度が高いですね。今もJクラブのユースチームよりも明らかに高校サッカーの方が注目されますし、そういった環境は僕の性格に合っていると思っています。高校サッカーはプレー面だけでなく、精神面も成長できるところが魅力だと考えていたので、そういう意味でも高校での3年間は素晴らしい時間だったと今でも思っています。

——桐光学園では1年生のときから主力

として活躍されました。当時はどのような意識で練習に取り組んでいましたか。

小川 1年生のころは失うものがなかったで、何も考えずに自分のやるべきことだけに集中していました。多くはありませんでしたが、試合で得点もできていたので、先輩たちが1年生の僕に対してリスベクトを持って接してくれていました。思い返すと、ここまでのサッカー人生の中で高校1年時が最も練習したという印象があります。

——特に熱心に取り組んだ練習は何でしょうか。

小川 シュート練習ですね。それしかやった記憶がない、というぐらいたくさん練習しました。

——高校生なので勉強や学校生活も大切ですが、心掛けていたことはありますか。

小川 鈴木勝大監督をはじめコーチングスタッフからはピッチ外のことも厳しく指導していただき、それが精神面での成長につながりました。人としての成長がプレーに良い影響を与える部分もありましたので、そういった意味でも桐光学園を選んで良かったと思っています。

——高校選手権や高校総体、高円宮杯JFA U-18サッカープレミアリーグなどU-18年代のトップレベルを経験し、3年時には世代ナンバーワンストライカーと呼ばれるまでになりました。そこまで成長できた要因はどこにあると考えますか。

小川 一番の理由は、高校に進むときに桐光学園のコーチやスカウトの人が僕を「ストライカーとして見ている」と、熱意を持って接してくれたことだと思います。

僕自身、小学生ではセンターバックも経験しましたが、中学ではトップ下をやっていたので、ストライカーとしてやっていくという考えはなかったのですが、高校では「小川はストライカー一択だ」と、熱心に指導していただきました。だからこそシュート練習などストライカーになるためのトレーニングに集中しました。それが最も大きな要因です。周囲の人々に恵まれたと思っています。

——高校在学中にU-18日本代表に選出されました。同世代のトップレベルの選手たちと切磋琢磨し、世界の選手たちと戦うことで得られたものはありますか。

小川 高校と代表では、求められることも自分のタスクも変わります。高校では、攻撃の組み立てに参加して得点を奪うなど、いろいろなことをする必要がありました。いろいろなかを他の選手がやってくれました。精度の高いパスを出せる選手がたくさんいたので、一緒にプレーすることで動き出しの質がかなり向上しました。代表で学んだことをチームに持ち帰り、「代表のボランチはこういうパスを出してくるし、いつもこういうところを狙っているから、俺と呼吸を合わせてトライしてみよう」という感じでチームメイトに伝え、一緒に練習していました。

精神面での成長がプロへとつながった

——高校卒業後にジュビロ磐田に加入されました。桐光学園に入学した当初からプロ入りを意識していたのですか。

小川 いや、正直、そんなことはなくて。もちろんプロになりたいとは思っていませんが、簡単になれるものではないです。自分はまだまだそのレベルには達していないと分かっていたから。でも、2年生のときでした。思うようにプレーできずに落ち込んでいたら、鈴木監督から「プロになるんだらう？」と言葉を掛けてもらい、そこから明確に「俺はプロになるんだ」という意思を持って練習に取り組むようになりました。初めて年代別の日本代表に選ばれたのが2年生の終わりの時期で、そこでようやくプロが見えてきました。

——鈴木監督とのエピソードがいくつか出てきましたが、特に印象に残っている言葉はありますか。

小川 高校生のころはちよつと尖っていたところがあった、監督やコーチ陣と言葉を交わす中で熱くなってしまふことが何度かありました。そんなときも真剣に向き合ってくれて、我慢強く話を聞いてくれました。先ほどの「プロになるんだらう？」という言葉も含め、常に心に響く言葉をかけてもらったことで、人としての成長につながりました。

——高校サッカーを通して忘れられない

出来事を教えてください。

小川 いくつかありますが、2年時に高校選手権の神奈川県予選で日本大学藤沢高校に負けて、本大会出場を逃した試合は今でも鮮明に覚えています。高校時代は選手権出場を目指してやっていたから、出られないことへのショックは本当に大きかった。ただ、その敗戦が僕らを強くさせた部分もあったと思います。3年時の選手権もよく覚えていますが、特に3回戦の青森山田高校戦は、僕がPKを2回外して負けてしまい、すごく悔しい思いをしました。鈴木監督との普段の会話も含め、数え上げたら切りがないぐらい



目標にしていた全国高校サッカー選手権大会は1年時、3年時と2度出場。写真は3年時の第94回大会3回戦、青森山田高戦



高校時代にU-18日本代表に選出。写真は2015SBSカップ国際ユースサッカーU-18スペイン代表戦

くさんの思い出があります。

——その青森山田戦の後、「(選手権は)人生で一番、楽しかった」という言葉を残しています。

小川 そのときの感情でそういった言葉が出たんでしょうね。高校3年間はなものにも代え難い貴重な時間でした。サッカーを軸に生活が回っていましたね。朝、早起きして電車で1時間以上かけて登校し、朝練をして、授業を受けて、放課

後も練習して、帰宅するのは22時。夕飯を食べてすぐに寝て、また次の朝、早起きして……という生活でしたが、充実していました。自分にとって本当に大切な3年間だったと思います。

——高校3年間を通して、どこが最も成長したと感じますか。

小川 間違いなく、精神面ですね。もちろんプレー面もそうですけど、人としての成長を促す指導をしていただいたり、高校サッカーならではのともいえるピッチ内外での厳しさも経験させてもらったりするなどして、すごくタフになりました。

——高校時代に培ったものが後のキャリアに生かされていますか。

小川 高校時代はけがも多く、試合に出られないこともありました。そういったときに、どのようなメンタリティーでいなければならぬのかを自分なりに考えられたのはプラスになったと思います。ジュビロ磐田に所属していた2017年、左膝の前十字靭帯断裂と半月板損傷という大けがを負いましたが、それを乗り越えることができたのも、高校時代の経験があったからだと思います。

高校時代ほど練習に没頭できる時期はない

——高校サッカーは技術・フィジカルなどあらゆる面で成長を続けています。プロの目に今の高校サッカーはどう映っていますか。

小川 僕らの時代よりも全体的にレベルが上がっていて、うまい選手が増えたと思います。個人の能力でいえばベースとなるテクニックやスピード、チームとしてはビルドアップやプレススタイルの面で、日本サッカー全体の成長に応じて高校サッカーもレベルアップしていると感じます。

——FIFAワールドカップカタール2022のサムライブルー(日本代表)のメンバーを見ると、半数の13人が高校サッカー出身選手でした。今シーズンのU-18プレミアリーグでは24チーム中13チームが高体連チームと、Jクラブのアカデミーを上回っています。高校サッカーの強みはどこにあると思われませんか。

小川 僕も高校での進路について考えていたときに、プロになる選手や日本代表選手は何人が高校サッカー部出身なのかというデータをよく見ていました。当時も高校サッカー部出身の選手が多く、それだけ高校サッカーでは成長や学びが多いと感じていました。個人的な印象ですが、高校サッカー出身の選手は精神的にタフな選手が多い気がします。注目度の高い選手権の舞台で活躍したいという思いや、Jクラブのユースに昇格できなかったという悔しさを持った選手が集まってくるので、諦めない気持ちや反骨心が強くなるのだと思います。

——ご自身の経験も踏まえ、育成年代の選手が今のうちに準備しておくべきことを教えてください。

小川 やはり練習の量ですね。プロになると練習時間が決まっています、中には長時間の練習を嫌う指導者もいますから、いろいろな意味で制限された環境になる可能性があります。高校時代はある程度、自由に自分の練習に取り組むことができます。僕自身も高校時代が一番、練習しました。今の高校生たちにも、自分のやるべきことを明確にし、何度もトライして、大好きなサッカーに全力を注いでほしいですね。



EAFF E-1サッカー選手権2019決勝大会の香港戦で国際Aマッチデビュー。同試合で日本代表史上3人目となる初キャップでのハットトリックを達成した

愛知県内有数の進学校である名古屋高校。サッカー部も文武両道を追い求めている。第102回全国高等学校サッカー選手権大会では初出場ベスト8に進出。長年サッカー部を率いる山田武久監督に、文武両道への思い、その取り組みなどについて聞いた。

○オンライン取材日：2024年3月11日



”サッカーと勉強“を両立する

事例紹介：名古屋高校

山田武久監督 インタビュー



高校では英語を教えている山田監督

高校生のうちから 見聞を広げておく

——2006年から名古屋高校サッカー部のコーチとなり、15年には監督に就任されました。山田監督のこれまでのご経歴を教えてください。

山田 名古屋高校に赴任する前は市立名東高校でコーチをしていました。名東高校のサッカー部は、名将と呼ばれた永曾哲也先生がほぼゼロの状態からつくったチームで、全国大会にも数回出場しました。私もコーチとして全国大会を一度経験したのですが、公立高校は転勤があるのが悩みでした。そんな折、私立の名古屋高

校から声が掛かり、2006年に赴任して現在に至ります。

——名古屋高校ではどのように取り組まれてきたのでしょうか。

山田 本校はスポーツ推薦がなく、特待制度もありません。文武両道が基本で、授業はほぼ毎日7時間目まであって生徒たちは16時頃までは机に向かっていきますので、練習時間も限られます。また、グラウンドはラグビー部と分け合う形で使用していますので、決して恵まれた環境とは言えません。ただ、そうした状況を嘆いても何も解決しませんから、与えられた環境で最大限を尽くそうと。そういう思い



第102回高校選手権では、堅守速攻スタイルでベスト8に進出した

では行くんですが、なかなか勝ち上がれない時期が続きました。高校選手権に出場したいという強い思いもあり、そこで再び堅守速攻スタイルへとかじを切りました。

——外部コーチも積極的に活用されています。

山田 選手全員の満足度を上げるため、コロナ禍にあった20年にチームを変革していこうと見直しました。現在は、チームオーガナイズに長けた猿田公彦コーチ、青森山田高校での指導経験を持つ大久保隆一郎ヘッドコーチに加わってもらい、チームに足りない部分を補っています。

——指導者を含め、選手に関わる人材を増やすメリットとは。

山田 以前から、多くの指導者や大人が関わることで選手の成長を促したいと考えていました。オフ・ザ・ピッチでは、ラグビー日本代表選手や、水素の開発に携わる研究者、タオル販売を行う会社の方などさまざまな分野の方を招いて選手向けの講演会などを行っています。今は理解できない内容だとしても、将来、役立つこともあります。高校生のうちから見聞を広げておくことが大事だと思っています。

——人間力や社会性の涵養ぶくちにも努められているんですね。

山田 そうですね。高校サッカーでよくあるのは、監督の言うことしか聞かないケースです。監督としても「これが全て

だ、これをしろ」と言う方がやりやすいでしょう。ただ、落とし穴として他人の声が入らなくなる可能性があります。いろいろな人の話を聞く姿勢を持つことは、その後の人生が豊かになるかどうかが決まるほど重要なことです。名古屋高校には普段の練習も含めて訪れる人が多いので、大人と自然体で接することができる選手が多い。「名古屋の選手は自分の言葉でしっかりと話ができますね」と言ってもらえますが、それは人と接する機会が多いからでしょう。

責任を持って行動できる人間に

——先の高校選手権では、ハーフタイムにスタンドで応援する選手たちが参考書を開いて勉強している姿も話題になりました。文武両道についてのお考えをお聞かせください。

山田 学校全体の学力が低下した時期もありましたが、私が赴任した頃から上昇し、名門の大学へと進む生徒が増えました。サッカー部からもそうした生徒が出ています。実はサッカーの考え方は、授業と全く変わりません。サッカーの前後半45分にアディショナルタイムを入れると、授業とだいたい同じ50分になります。ハーフタイムが

休み時間。サッカーも勉強も、集中とリラックスをうまく使い分けなければなりません。トレーニングも試合と同じ90分という時間でやりくりしています。その中でどのくらい集中できるか、ということを選択手に意識させています。

——普段のスケジューリングで気を付けているのはどんなところですか。

山田 時間を有効に活用し、良い習慣を身につけられるようにしています。例えば、学校が休みの土日は朝7時15分からトレーニングを始め、他の生徒がまだ寝ているような時間帯に終わらせ、そこからどう時間を使うかを選手自身に考えさせています。指導するこちらが大変ですが、早起きして生活リズムをしっかりと整えた上で、何を積み上げていくかが大事です。早起きするには前夜の過ごし方も変わってきますので、それも利点だと考えています。



チームに加わった大久保隆一郎ヘッドコーチ。「チームを戦う集団としてまとめてくれた」と山田監督は話す

——空いた時間を活用し、勉強を進めていると。

山田 サッカー部のほとんどの生徒が自宅から通っていますので、通学時間をうまく活用するように伝えていきます。先日も遠征で大阪に行ったのですが、マイクروبスの運転席から後ろの選手たちを見たら、みんな勉強していました。普段の練習の前後でも、遠征先の宿舎でも、それぞれ大会期間中も勉強をしている生徒が大勢います。今の世の中で生きていくには、時間の使い方がとても大事です。大人になると、あつという間に時間がたつてしましますよね。良い習慣を身につけていければ、将来にも生きると思っています。



タイバ(タイムパフォーマンス)を常に意識し、時間を管理しながらサッカーに打ち込む選手たち

——選手の自主性を重視されているのですね。

山田 そうなんです、高校選手権を振り返ると、サッカーの面で選手がもう少し主体的に動く必要があると感じました。学力が高いゆえに、情熱というか、パワーが不足しているような気がしています。短期決戦では、指導者が何かを伝えるよりも、選手自身が課題に気づいて遂行した方が早いですし、有効だと思います。それをチームメイトに伝えて実践していきけるように、もつと促していきたいですね。

——主体性を高めるために、どのようなアプローチをされていますか。

山田 強制ではありませんが、試合後に各選手からのフィードバックを私のメッセージアプリに送ってもらっています。約8割の選手が何かしらの連絡をくれるので、一言、二言添えて返しています。サッカーを通じて選手に伝えたいことは、自分にベクトルを向けられるかどうか。ピッチ外でも責任を持って行動できる人間になるようにアプローチしています。新しいチームが立ち上がったばかりの今の時期は、特に主体的に物事を考えられるように指導しています。

良い経験を積めるのはスポーツならではの

——SNSを活用した発信や、公式アプリをリリースするなど目新しい取り組みがされています。

山田 私自身、新し物好きなんです(笑)。SNSでの情報発信も早い時期からやってきたと自負しています。SNSだと注目されればされるほど、それに見合った実力が必要になりますから、結果にこだわら姿勢につながります。サッカーを取り巻く環境を良くするために、スポンサーも募集しています。どうしてもお金がかかるスポーツですからね。

チームの取り組みとして、昨年度比のゼロやマイナスではなく、何かしらのプラスを生み続けたい。ただ、うまくいかないことも絶対にあるので、毎年いくつか新しいことにチャレンジして、うまくいったことを残していく。次の年にまたいくつかプラスして、少しずつチームをスケールアップしていくイメージで取り組んでいます。

——今後は部活動の地域移行も進むなど、これまでとは高校サッカーのあり方が変わる可能性もあります。

山田 高校選手権に初出場して、高校サッカーはすごく魅力的なコンテンツだとあらためて感じました。サッカーの質でいえばクラブチームの方が上かもしれませんが、先人の方々の努力や、スポンサーやメディアが長年携わってくれているおかげで、選手たちにとっては夢舞台になっています。それと同時に、大変な思いや苦労など良い経験を積めるのは、スポーツならではの良さだと思います。そうした経験を積んだ人材が、これからの日本のスポーツ界や社会を担っていくはずですよ。

——最後に今後の目標を教えてください。

山田 私は名古屋高校が「おらが街」のクラブになっていくべきだと思っています。例えばサッカー先進国のドイツには、各地域に必ずクラブチームが存在し、それに付随して天然芝や人工芝のグラウンドがあります。そして、老若男女が集まるクラブとして、100年以上の歴史を刻んでいます。そうした文化を、インフラが備わっている学校でつくっていききたい。地域の人たちが名古屋高校のグラウンドに来て、子どもたちを応援している光景が見られることを目指し、今後も活動を続けていきたいと思います。



今後もサッカーと勉強を両立し、将来活躍できる人材の輩出に努めていく

自身の気つきを大事にされているのですね。

前田 英語の授業では、洋画の字幕を見て文法の解説をすることが多い。その方が覚えやすいですし、リスニングも兼ねているからです。英語に限らず、教えられただけのものは身に付きません。私たち教員は生徒の感性を刺激する作品や物事をいかに提供できるかが大事で、生徒が何を感じてどう行動するかで学習成果が変わってきます。英語も一つのツールですので、それを身に付けるよりも、そのツールを使って目的を達成することにフォーカスしてほしい。英語という切り口から海外の映画を好きになったり、社会に興味を持つたりしてくれたらうれしいですね。

サッカーの素晴らしさを伝えることが指導者の仕事

——部活動をきっかけにサッカーがさらに好きになると、引退という概念がなくなるかもしれません。

前田 そもそも「引退」という言葉が良くないですね。日本では選手生活を終えることが引退と表現されますが、さまざまな形でサッカーに携わっている限り、引退ではないと思うんです。プレーする機会が少なくなっても、サッカーを見るのが好き、教えることが好きならば、サッカーに携わっていると言えます。そのために高校の間にサッカーを大好きになつてほしいですね。

——選手にサッカーを大好きになつても

らうために工夫されていることは何ですか。

前田 サッカーや自分と本気で向き合うきっかけをつくることです。近江高校は選手の多くがプロを目指して入学しますが、自分より上の選手がいる現実から葛藤し、サッカーや自分と向き合うことで一時的にサッカーが大嫌いになるケースも当然あります。でも、そこから一度好きになることができれば、サッカーへの愛は本物になります。私自身、ドイツに行つて選手生活から離れることを決めるときはサッカーが嫌いでしたが、今は大好きです。

——引退というゴールがあるからこそ、頑張る選手もいるのでは。

前田 高校3年生には高校選手権という一つのゴールがありますが、近年の選手たちはそのゴールをイメージしにくいのは、と個人的には感じています。それは彼らが日頃から1カ月単位や1週間単位の目標を設定しており、具体的に見えるところにしか向かわなくなっているからなんです。ですから、身近な目標に到達する達成感を味わいながら、高校サッカー選手権という遠くにあるゴールに向かうことが大事だと考えています。

——どのように目標設定をさせているのでしょうか。

前田 個別に話をしてそれぞれに具体的な目標を設定させています。具体的な方がいいのか、抽象的なものがベターなのか、正直分かりません。「レギュラーになる」という目標を膨らませることができればいいのですが、それを達成して満足してしまう危険もあります。結局のところ、目標は抽象的かつ大胆なものがいいのかな、と。「インターハイ予選で暴れてやる」というざっくりとした意気込みならば、選手も肩肘を張る必要がありませんから。

か、正直分かりません。「レギュラーになる」という目標を膨らませることができればいいのですが、それを達成して満足してしまう危険もあります。結局のところ、目標は抽象的かつ大胆なもの

がいいのかな、と。「インターハイ予選で暴れてやる」というざっくりとした意気込みならば、選手も肩肘を張る必要がありませんから。

——今後、高校生年代の部活動でも地域移行が進み、その在り方が変わりそうです。

前田 教員は日々の業務だけでも大変なのに、部活動での指導に追われているため、休みがほとんどありません。あまりに過酷なため、最近の若い人は教員になりがりません。そのイメージを変えなければ優秀な人材が集まらなくなるでしょう。教員はかつて聖職と言われる魅力的な仕事でしたが、近年はマイナス面ばかりがフォーカスされる傾向にあります。再び魅力的な仕事にして、みんなが幸せになれるといいのですが。

——外部指導者にとつても、魅力的に映る方が優秀な人材が集まります。

前田 現在、アマチュアのサッカー指導者として食べていく方法は教員になることくらいです。少子化が進む今は、クラブ



「選手たちにはサッカーを大好きになつてほしい。そのためにもサッカーと真摯に向き合うことが必要」と前田監督(写真右端)。近江の選手にもサッカー愛を体現することを求めている

チームは運営も大変だと聞きます。「勉強はうそをつかない」「子どもの将来のためには学歴が絶対」と考える保護者が塾にお金を費やす一方、サッカーなどスポーツには使いたがらないというのが現実です。日本におけるサッカーは習いごとの感覚が強く、「将来、何の役に立つのか」と考える人がいるようにも感じます。そういう人たちにサッカーの素晴らしさやスポーツが持つ可能性を伝えることがわれわれ指導者の仕事。サッカーの価値が上がれば、このスポーツに携わる人が幸せになると信じています。

JFA育成年代でのヘディング習得のためのガイド ライン (幼児期～U-15)

JFAは、ヘディングに関わるリスクを避けるため、「禁止」するのではなく、「正しく恐れる」ことによって適切な方法によるヘディングの習得を目指している。そこで幼児期において段階的にヘディングを習得するためのガイドラインを作成。子どもの安全を守るために、全ての指導者がこのガイドラインを理解しておきたい。なお、ヘディングに関わるリスクについては医・科学研究の報告を十分にフォローし、本ガイドラインも常井アップデートしていく。

https://www.jfa.jp/coach/pdf/heading_guidelines.pdf



スモールサイドゲームガイドライン

JFA技術委員会は、小学校4年生以下の年代に応じたゲーム形式を明確に示すため、「JFAスモールサイドゲーム ガイドライン」を作成。「小学校1～4年生のゲーム環境整備」の一環としてガイドラインの普及に取り組んでいる。

●内容

- 1.はじめに
- 2.ガイドラインの基本的な考え方
- 3.各年代での心身の特性とゲーム
- 4.ピッチマネージャーの配置・役割
- 5.8人制との比較
- 6.スモールサイドゲームガイドラインに基づいた事業開催
- 7.指導者の関わりの重要性

https://www.jfa.jp/coach/guidelines_smallsidegame.html



WEリーグ×パーソルグループ ドキュメンタリー動画 「WE LIFE ～WEリーグの主人公たち～」

WEリーグは、WEリーグシルバーパートナーであるパーソルグループと共に、大勢の人々が性別を超えてさまざまな職業や役割で活躍する様子を社会に伝え、キャリア支援にもつなげていくことを目的として、WEリーガーやWEリーグ周辺で働く人々にスポットライトを当てたドキュメンタリー動画を制作・配信している。WEリーグ公式YouTubeやパーソルグループ公式YouTubeなどで順次公開中!

●WEリーグ公式YouTube
<https://www.youtube.com/channel/UCcp4d48-EN9WQRmfX9YQJJA>



●【パーソル】WEリーグ応援特設ページ
<https://www.persol-group.co.jp/special/weleague/>



「サッカー競技規則2023/24 Web版」を JFA.jpで公開中

「サッカー競技規則2023/24 Web版」は誰でも閲覧できる。競技規則の条文内に約140の映像クリップを付加し、映像とともに条文を理解しやすい工夫している。

https://www.jfa.jp/laws/soccer/2023_24/



「2024 Jリーグ レフェリング スタンド」の映像を公開中

JFA審判委員会はJリーグと共に、選手に求めるプレーや2023シーズンの事例に国際サッカー連盟 (FIFA) の競技規則に基づく解説を加えた「2024 Jリーグ レフェリング スタンド」の映像を作成し、「JFATV」で公開している。

この映像は、Jリーグやサッカーに関係する人々が正しい競技規則の解釈と判定基準の認識を高め、同一の理解を得られるように作成したもので、Jリーグ全クラブおよびメディアをはじめとする多くの関係者にも共有されているもの。

【2024 Jリーグ レフェリング スタンド】

- (1) 競技者の安全を守る
- (2) ハンドの反則
- (3) 得点または決定的な得点の機会の阻止
- (4) オフサイド



●映像はこちら
<https://youtu.be/EtiuG3ZzO4M>



ナショナル・フットボール・フィロソフィーとしての Japan's Way

JFAは2022年7月、「ナショナル・フットボール・フィロソフィーとしてのJapan's Way」を策定した。JFAの「2050年までにFIFAワールドカップで優勝する」という夢を実現したとき、日本サッカーはどのような状況になっているのか、その「ありたき姿」から逆算してそこに至る道筋を示したもの。Japan's Wayを全国のサッカーファミリーと共有し、議論を重ね、ビジョンを具現化するアクションプランをまとめていく。

●構成

1. プロローグ～なぜJapan's Wayなのか
2. フットボール・カルチャーの創造
3. 望まれる選手像とは
4. プレービジョン
5. 将来に向けた日本のユース育成
6. フィジカルフィットネスの未来
7. 将来のサッカーコーチとは?
8. フットボール・ファミリーの拡大



●デジタルブック (PDF)

<https://www.jfa.jp/japansway/japansway2022.pdf>

※デジタルブックのページ内「PLAY」マークを押すと動画が再生される



●Japan's Way特設サイト

<https://www.jfa.jp/japansway/>



Happy Life with Football in Tokyo

各都道府県サッカー協会（FA）で配置が進む「FAコーチ」。その活動にスポットを当てた連載企画第17回は、東京都サッカー協会の中田康人FAコーチに話を聞いた。

○オンライン取材日：2024年3月8日

人事を大幅に刷新 仕組みを変えていく

——東京都サッカー協会（FA）のFAコーチとして活動するようになった経緯を教えてください。

中田 以前、東京都内の高校に勤務しながら、指導者養成のインストラクター（現、チューター）として活動していて、2009年からJFAアカデミー福島で指導に長く携わってきました。そうした中で、数年前に、東京都FAの林義規会長に「東京のサッカーを盛り上げたいので、何か力になれることはありませんか」と相談したことがきっかけで話が進み、2021年2月に東京都FAの技術委員長、チーフインストラクター（現、シニアチューター）、FAコーチに就任しました。

——各役職に兼務されて以降、どのような取り組みをされてこられたのでしょうか。

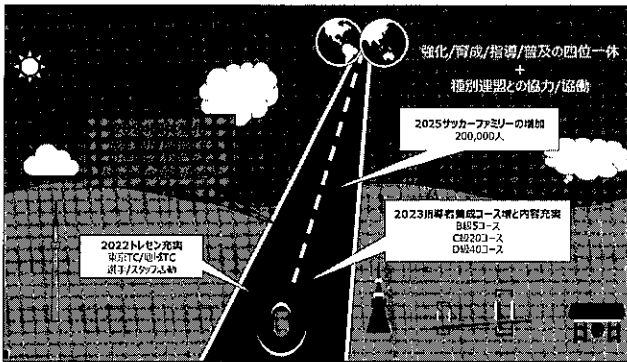
中田 実際に就任してみると、京都のサッカーについて知ってい



JFAアカデミー福島などでの指導を経て、東京都FAで活動する中田FAコーチ

るようで知りませんでした。ただ、活動をしたくても、当時はコロナ禍の真ただ中で身動きが取れない。そこで、技術委員会の組織図などを作りながら、組織の把握に努めました。そうした業務を通じて、オール東京で進めていく「東京発」をキーワードに、「東京から世界で活躍する選手を多く輩出する」というロードマップを打ち出しました（図1参照）。

■図1 東京から世界に向けたロードマップ



——さまざまな制限がある中で、本格的に動き出したのはいつ頃からですか。

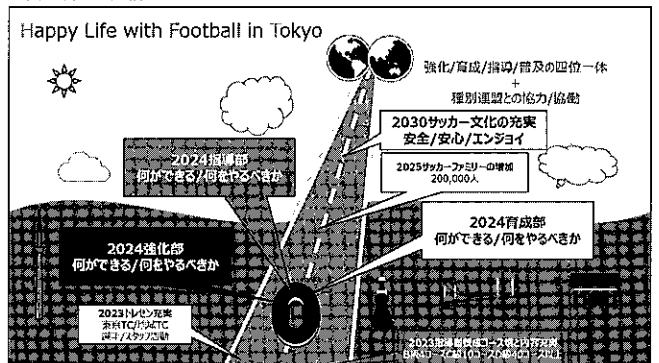
中田 22年から少しずつ動き始め、フルで動き始めたのは23年からです。準備に1年半をかけ

て、23年1月に「2023 TOKYO Football Conference」を開催しました。東京都のサッカーには、選手や指導者、審判員を含めてさまざまな人が携わっていますが、自分たちが所属する種別や団体のことは知っていても、他の種別や団体がどのような活動をしているのか知らないことも多かった。カンファレンスでは、4種から社会人女子やフットサル、障がい者サッカーなどの連盟・団体、審判やキッズ、女子などの各委員会、東京都を代表するJクラブやWEクラブの方々などに活動内容を発表してもらいました。「東京バトン」と名付けてみんなのつながりをイメージする中で、700人もの参加者が集まり、好評の声をいただきました。その後の事業でも種別間の交流が生まれているのはとてもうれしいことです。

——先ほど挙げたロードマップを基にした施策についてはいかがでしょうか。

中田 「プレーヤーを増やす」「指導者を増やす」「レフェリーを増やす」の「3増」を掲げて取り組んできました。それを昨年から「Happy Life with Football in Tokyo」という指針に軌道修正しました（図2参照）。東京から世界に飛び立つだけでなく、東京都でサッカーをやれば幸せになれる、

■図2 新たに発信したロードマップ



みんなが笑顔をつくりたいという思いで生み出した方向性です。

みんなの幸せや笑顔を考えたとくに、重要なのはプレー環境です。特に昨年の夏は非常に暑く、とてもサッカーができるような状況ではありませんでした。選手・指導者はもちろん、応援に来る保護者の方も暑い時期は大変です。そこで、暑熱環境下はサッカーをやめようと。当初、技術委員会から提案することを考えていたのですが、理事会を通して各団体・連盟に発信し、全カテゴリーで7、8月は活動を停止することとなりました。24年度は努力目標で、25年度から完全実施できるように動いています。

——技術委員長、シニアチューター、FAコーチと複数の仕事を並行する難しさは感じられなかったのでしょうか。

中田 さすがに一人では大変だと思いました。三つの肩書のほかに、

技術委員会内の強化部長、指導部長、育成副部長も務めていましたから。現在はその全てから外れ、FAコーチのみになりました。今後は、新たな発想を生むために若い人に担当してもらわないといけません。昨年は従来の仕組みを大きく変えていくと組織づくりを進め、部長などを交代しただけでなく、チューターやトレセンコーチも大幅に刷新しました。トレセンコーチは、こちらから有望な指導者に声を掛けて、地区によってコーチ数がまばらだったものを、全地区1カテゴリーにつき4人のコーチを配置することにしました。

面白いアイデアを しっかりと形にしていこう

——選手育成の中心となるトレセン活動についての改革はどうでしょう。

中田 東京都FAはトレセンが7地区に分かれています。U-15は今年度から地区トレセンを廃止します。トレセンを始めて約30年、さまざまなことが蓄積されてきま

したが、サッカーを取り巻く環境も大きく変わりました。今の中学3年生は関東リーグや東京都リーグ（Tリーグ）など毎週のように試合があり、過密日程は否めません。

働き方改革への配慮もあります。トレセンコーチは自分のチームの指導や仕事も抱えています。大人のためにも活動を精査していく必要があります。いろいろなビルドアップしてきた一方で、スクラップすべき分を見直し、今は新たな仕組みをつくるサイクルに入っていると考えています。

——U-15年代以外のトレセンも見直しが図られているのでしょうか。

中田 東京都トレセンは、U-12、U-15カテゴリーでそれぞれ年8、10回活動しています。クオリティーを担保した上で指導者の過負荷にならないようにと考えた結果、24年度から年5、6回の開催に変更することにしました。また、先ほど話した暑熱環境下の7、8月だけでなく、1、2月は選手も指導者もオフ期を設けるべきだと考え、活動を減らしていく予定です。

活動が少なくなる分、限られた時間の中でいかにクオリティーを上げられるか。選手がトレセンを終えた後、「ここにきて良かつ

た」「楽しかった」と思える場になければなりません。チームに戻ってから選手が生き生きとトレーニングに励んでいけば、チームの指導者も送り出して良かったと思えるはず。選手が楽しくプレーする姿を引き出していきたいですね。

——トレセンのクオリティーを担保するために必要なこととは何でしょうか。

中田 選手に刺激を与えるために重要なのは、迎え入れる指導者がしっかりと勉強し、準備をしておくこと。23年度からはクラウドサービスを活用し、女子を含めた全カテゴリーでトレセンの1週間前までにチーフコーチが指導案をアップする取り組みを始めました。そして、担当するコーチと指導の確認や役割分担を行い、当日、ピッチで選手を迎えるという流れを必須としました。大量の指導案が集まっていますし、前後の年代でどのようなトレーニングをしているのか確認し、担当するカテゴリーでの準備もできます。この仕組みを導入したことは非常に良かったと思っています。

——指導者養成について進めたいことなどをお聞かせください。

中田 C級コーチ養成講習会は23

年度に10コース開催しましたが、1コース24人の定員もほぼ満員で、まだまだニーズがあると思っています。D級コーチ養成講習会も地区やブロックのサッカー協会が多く、コースを開催していただいています。JFA全日本U-12サッカー選手権大会の予選でベンチ入りするための必須ライセンスになりますので、保護者コーチの受け入れも含め、さらにコース数を拡大していきたいと考えています。B級コーチ養成講習会も過去2年間でFAコースを4コース開催し、ライセンス保持者が200人に増えました。今後も、情熱を持ってサッカーの楽しさを選手に伝えられる指導者を養成していきたいと思っています。

——その他の活動についてはいかがでしょうか。

中田 キッズなど普及は大事にしなければならぬ活動で、技術委員会でも三位一体から、普及を含めた「四位一体」に変更しました。精力的に進めてくださっている方が大勢いますので、しっかりとバックアップしていきます。女子も並行して進めています。女性指導者がまだ足りませんが、そのアプローチもできればと考えています。

——最後に、今後の目標や思いを

お聞かせください。

中田 東京には、海外からも多くの人が訪れます。訪れる人たちに、楽しそうにサッカーをやっているなど思われるような場所をたくさんつくっていききたいですね。ハード面の課題はありますが、まずはそうした雰囲気醸成していければと思います。

私は日頃から、「アイデアを出すときに、無難なものではなく、斬新な考えを持つ」と言っています。「それは無理でしょう」というアイデアの中から面白いものは生まれます。そのためにも、いろいろな人たちを巻き込んでいくことが大事です。今後も企画屋としてさまざまなアイデアを出し、それを頑張って実現していきます。

「東京のサッカーファミリーを一つにしよう」多くのサッカー仲間がサッカー活動を楽しんでいることを知る機会を設けよう」という主旨で開催したフットボールカンファレンス



メディカル ROOM

「熱中症予防(1) ~メカニズムと予防の重要性」

福島理文

(JFA医学委員会スポーツ救命部会員/順天堂大学医学部循環器内科学講座)

◎監修: JFA医学委員会

本連載では日本サッカー協会(JFA)医学委員会の監修の下、メディカルに関する情報をお伝えします。

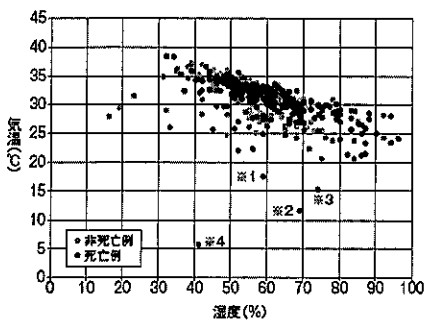
気温だけでなく湿度にも注意 高温でなくても熱中症に

日本はこれから夏に向かっていきます。まだ暑さに体が慣れていない5月末から7月にかけては梅雨の影響で湿度も上がり、熱中症のリスクが高まります。熱中症は死に至る危険性もあるため、正しい知識と情報を確認していきましょう。

熱中症対策で最も重要なのは、予防です。そして予防で大切なことは、体温を上げ過ぎないことです。暑熱環境下で運動により体温が上がる、体は熱を放出して体温を下げる働きをします。体温調整機能の代表的なものが発汗です。汗が蒸発するときに気化熱(*)として皮膚表面の体の熱を奪い、体全体を冷やしてくれます。

通常は汗によって体温の調節機能がうまく働

図1: 運動時熱中症発生時の湿度と気温の関係(1970~2012)



※1 野球 ※2 長距離走(11月) ※3 レスリング 選手 ※4 マラソン(2月)
(出典: 中井誠一, 熱中症の疫学, 日本臨床, 2012; 70: 934-939.)

き、体内で発生した熱とその放出のバランスが取れて体温は一定に保たれます。しかし、気温が高いだけでなく、湿度が高い、風が弱いといった状況下では汗の蒸発が妨げられ、体温は上昇しやすくなります。汗が蒸発できなければ体温を下げられず、体内に熱が溜まって熱中症を発症しやすくなります。

図1を見ていただくと分かる通り、気温が30度以下でも湿度が60%を超えると熱中症で亡くなる人は増えます。こうした事故を防ぐための重要な指標が「WBGT(湿球黒球温度)」です。WBGTは、人体の熱収支(人体と外気との熱のやりとり)に大きな影響を及ぼす温度、日射・輻射、気温などを総合的に考慮した暑さ指数のこと。これが、汗の蒸発しやすさの指標となります。

あるいは31度以上となる場合は試合を中止または延期するなどの原則を示し、こうした環境下でもやむを得ず試合を行わなくてはならない場合は、熱中症対策を講じた上で、「クーリングブレイク」または「飲水タイム」を設けることを推奨しています。飲水タイムは、ライン上で1分間の水分補給をします。クーリングブレイクは、試合の前後半に1回ずつ3分間中断し、水分補給だけでなく積極的に体を冷やす処置を行うためのものです。

日々の体調管理と暑熱順化

熱中症は「熱失神」「熱けいれん」「熱疲労」「熱射病」に分類され、それぞれ段階に応じて重症度が分けられています(図3)。最初はこちら

とした場合でも、対応を怠って放置すると症状は悪化していきます。体調の異変に気づいたら少しでも早く水分を補給し、休息を取るなど適切な対応を取る必要があります。

暑さに慣れるための暑熱順化も重要です。本格的な暑さを迎える前に汗をかく機会をつくって、少しずつ暑さに体を慣れさせましょう。最低でも1週間、可能ならば2週間前か

図2: 熱中症予防運動指針

WBGT	原則中止	特別な場合以外では中止。特に、子どもの場合は中止。
31℃	厳重警戒	激しい運動・持久走は避ける。積極的に休息をとり、水分補給。体力の低いもの、暑さに弱いものは運動中止。
28℃	警戒	積極的に休息をとり、水分補給。激しい運動では30分おきぐらいに休息。
25℃	注意	死亡事故が発生する可能性がある。熱中症の兆候に注意。運動の合間に水分補給。
21℃	ほぼ安全	通常、熱中症の危険は少ないが、適宜水分補給を行う。市民マラソンなどではこの条件でも要注意。

(出典: 公益財団法人日本スポーツ協会「スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック」)

図3: 熱中症の種類、症状

重症度	病型	症状例
I度(軽度)	熱失神 熱けいれん	めまい、立ちくらみ、生あくび、大量の汗、筋肉痛、筋肉の硬直(こむら返り)、意識障害を認めない
II度(中等症)	熱疲労	頭痛、嘔吐、倦怠感、虚脱感、判断力・集中力の低下
III度(重症)	熱射病	意識障害、痙攣発作、呼びかけに対し返事がおかしい、まっすぐ歩けない

ら取り組み、徐々に運動強度を上げていくことが理想です。熱中症予防には、食事、睡眠、水分補給など普段からの「コンディショニング」管理がとても大切です。体調が悪いと体温調整能力も低下し、リスクが高まります。また、食事で栄養をしっかりと取れない場合はエネルギー不足に陥るだけでなく、発汗で失われるナトリウムやカリウムなどミネラルが不足して意識障害や筋けいれんなどを引き起こす可能性もあります。指導者や保護者の皆さんは、選手が無理をして練習や試合に臨むことがないように気を配ったり、水分補給できる環境を整えたりするなど、予防に取り組みましょう。

※次回のテーマは「水分補給とクーリング」を予定しています。

●(公財)日本サッカー協会

「熱中症対策ガイドライン」

https://www.jfa.jp/documents/pdf/other/heatstroke_guideline.pdf



●(公財)日本スポーツ協会

「スポーツ医・科学研究 熱中症を防ごう」

<https://www.japan-sports.or.jp/medicine/heatstroke/tabid523.html>



子どもたちの可能性を信じて

学校単位での運動部活動が、日本の多くのスポーツ種目の普及や競技力の向上に関わっています。同時に、サッカーにおいては地域に多くのクラブが作られ、学校以外でサッカーをするという選択肢がある子どもたちも多くなってきています。一方、少子化に伴ってそれぞれの部活動やクラブの参加人数も減ってしまい、単独では十分な活動ができない状況も見られるようになりました。中学校の部活動では、近隣の中学校との共同チームで大会に参加することも珍しくありません。社会環境は変化します。

部活動の地域移行は、温度差はありますが全国で動き始めています。子どもたちのスポーツをする機会を減らさないこと、その機会をつくってきた人々(特に教員)の負荷を減らすことが一番の課題だと思っています。自治体や教育委員会、企業や大学、地域のクラブやNGOなど、積極的に取り組んでいるところは少なくありません。日本サッカー協会(JFA)でも部活動を巻き巻きさまざまな環境や課題を捉え、より良いサッカー環境の整備に向けて協議・検討を重ねています。

3月に「第1回JFA部活動地域移行カンファレンス」を行い(26ページ参照)、JFAが把握している情報や好事例を発信しました。そこで私自身が「はっ」と思ったことがあります。平日の活動は教員が指導し、週

末は地域がその活動を担うため、指導者が変わります。この状況に子どもたちは戸惑っているのではないかといった意見が出ました。私もその点は気になっていました。しかし、実際には「子どもたちに聞くと多くが『違和感がない』と感じている」そうです。大いに反省させられました。当事者である子どもたちの思いや意見に、われわれはもっと向き合わなければなりません。子どもたちは大人が考えている以上に柔軟で適応力があります。

中学校部活動の指導支援として中学生にサッカー指導をする機会があり、1・2年生の12名(うち女子1名)ほどが参加してくれました。運動能力や体力、サッカーの技能レベルもまちまちです。彼らが部活動でサッカーをする意図や位置付けもそれぞれ違うでしょう。それでも私ができることは、準備していた課題が適切なものが、彼らの反応はポジティブまたはネガティブか、それにどう対処したらよいのかといったことを常に考え、決断し実行することです。約90分間、彼らはよく動いてくれました。しかし全員のニーズに応えられたとは思っていません。あまり彼らの役に立たなかつたかとも思ったりもします。指導には限界があります。だからこそ、選手を中心とした練習環境をつくり、選手の主體的な学びを引き出す働きかけが大切なのです。「教える」「強くする」は

隔月連載

サッカー心育論 Vol.85

～指導者は何を考えるべきか～

中山 雅雄 (JFA技術委員会普及部会会長/JFA普及ダイレクター/JFAキッズプロジェクトメンバー/筑波大学体育系教授)



第1回JFA部活動地域移行カンファレンスの様子

指導者の自己満足に過ぎません。

身近なサッカークラブであればあるほど、そこに集まる子どもたちはさまざまです。ゲームをするよりも、自分が満足できるキックができるようになりたいと思っている子どももいれば、ゲームで自分が中心になって活躍して勝ちたいと思っている子どももいます。サッカーへの思いは違っても、それぞれの思いを達成するには一緒に練習する仲間が必要です。自分がやりたいことだけでなく、時には仲間のために動いたり、助けたりすることの大切さに気づくように仕向けることも指導者の大切な役割です。当然ここでも指導者は脇役でなければなりません。

育成年代の指導者の役割や評価は、選手個々の成長への手助けが第一であるべきです。少し言い過ぎかもしれませんが、

せんが、試合での勝利は選手へのご褒美であって、指導者の榮譽ではありません。そのように考えることができれば、勝利至上主義といわれる問題は起こらないはずです。いろいろな大会競技会があり、そこで子どもたちが必死に勝ちを目指して頑張っている姿をたくさん見たいと思います。結果ではなく、過程が選手の成長を促してくれ

ます。

部員やメンバーが少ないから強いチームが作れないとか、単独で大会に出場することが難しいといった声を聞くことがあります。サッカー指導へのモチベーションに大きく関わる事態で

あることは十分に理解できます。しかし、ここまで述べてきたように、育成年代の指導者の役割は、チームやクラブといった組織としての結果を出すことが第一ではないはずです。そこに集っている一人一人の選手とサッカーを楽しみ、いろんな意味での成長に貢献することです。だからこそ、スモールサイドゲームやセルフジャッジ形式のゲームなど、大会の在り方を変えていく必要があります。さらに、クラブやチーム単位で参加する大会だけでなく、個人レベルで参加できる大会がもっとあっても良いのではないかと考えています。

大人になると、一年くらいでは人として大きな変化はほとんどありません。一方中学生はいろいろな成長します。実は前述した中学校には昨年も指導に行きました。2年生はサッカーも上手になっていましたが、練習中の態度や私との会話からも、大人になってきているのを感じました。私たちが大人が、自分たちの力で子どもを成長させなければならぬと、少し空回りしているのかもしれない。子どもたちの持っている力をもっと信用してよいのかもしれない。少し肩の力を抜いて、社会の変化をしっかりと捉え、それに応じた適切なスポーツ環境に変えていけたらと思っています。頑なに現状を維持しようとする歪みが生じます。もっと柔軟に、そして大胆にサッカーとの向き合い方をアップデートする必要がありますように感じています。

フットサル 語り場

日本サッカー協会(JFA)は、フットサル日本代表が2036年までにFIFAフットサルワールドカップで世界一になることを目標に掲げている。

本連載では、フットサルの代表強化、選手育成、指導者養成、普及に携わる面々が登場し、リレー形式で情報をお届けする。

陶山輝佳さん (香川県立高松北高校サッカー部前監督)

香川県と四国のフットボールをさらに盛り上げたい

さまざまなトライの一つがフットサルの導入

2006年にフットサル日本代表のセルジオ・サッポ監督(当時)を香川県に招いて講習会を行ったのを機に、前任の高松商業高校サッカー部にフットサルを導入しました。当時、私は高校の教員の傍ら香川県サッカー協会ですoccerのチーフインストラクターを務めていました。その頃の講習会は複雑な内容ではなかったのですが、サッポ監督の指導内容はとにかく緻密で、戦術の理論もふんだんに盛り込まれていて、「これは何だ?」という感じで驚きました。

高松商業サッカー部は四国や香川県では強豪の位置づけで、全国大会出場を目指していました。しかし、県外のチームにはなかなか勝てなかった。フィジカル強化などさまざまなことを試す中で行き着いたのがフットサルでした。技術や基本戦術が身につくことに加えて守備も整備されます。また、フットサルの世界では当たり前の「セット交代」(※試合中、フィールドプレーヤー4人を一度に交代させること)をあえてやらずに、先発した選手を長くプレーさせればスタミナもつきます。「これはいける」という感触をつかみかけていたとき、高松北高校への赴任が決まりました。7年前の話です。

工夫次第で可能性が広がる

高松北に赴任する直前にフットサルC級ライセンスを取得。サッカー部の監督になり、そこでもフットサルを導入しました。「導入」と言っても、毎週火曜日に屋外でフットサルの練習をするくらいで、あとは狭いスペースで行う2対2、3対3のミニゲームがメインでした。

フットサルをすることに拒否反応を示す選手もいました。広いピッチを思い切り走って、相手と競り合うことを好む選手や、めまぐるしく戦況が変わる中で判断することを面倒に感じる選手たちです。でも、「そういう選手にこそフットサ

ルは役に立つ」と説得しました。フィジカルが強い選手に技術が備われば、プレーの引き出しが増えます。判断することが苦手な選手に判断力が加われば、試合の流れを読めるようになります。最初は渋々フットサルをプレーしていた選手も活躍できればうれしいし、褒められればモチベーションが上がります。選手たちは成長を実感することで徐々に変わっていきました。

赴任2年目、高松北が中高一貫校ということもあり、中学校のサッカー部にもフットサルを推奨しました。私もフットサルB級ライセンスを取得したことで、サッカーでもフットサルでも練習や試合での収穫と課題が分かるようになりました。中学1年次にフットサルを始めた年代が中学3年生になった2020年、高松北中は香川県のU-15フットサル大会で初優勝しました。結果が出たことによって、選手自身も学校も完全に納得した状態でフットサルに取り組むようになり、チームの成長もスピードアップしました。

中学時代に自信を深めた選手らは高校3年生になった昨年、高松北を19年ぶりのインターハイ(全国高校総体)出場に導きました。フットサルのおかげというか、フットサルで培った判断力や技術がサッカーに生かされた結果だと思えます。また、われわれのような公立校でも一定の成果を上げられたのですから、他校も工夫次第で可能性が広がるはずですよ。

私はこの3月に教員を退職しましたが、全国のサッカーやフットサルの指導者仲間とのつながりを大切にしながら、香川県、四国全体のフットボールがさらに盛り上がるように、何らかのお手伝いができればと考えています。



昨年、19年ぶりにインターハイ出場を果たした高松北。その数日後に行われたJFA第10回全日本U-18フットサル選手権大会では3位に入賞した

サッカーのルール改正は思いつきで行われているわけではありません。ルール改正を決めるのは国際サッカー連盟（FIFA）の外に設けられた国際サッカー評議会（IFAB）という組織です。重大なルール改正については通常数年間の「公式テスト期間」を設け、ユース年代のリーグなどで試行してから本採用となります。ところが今、その試行が7年から8年になろうというアイデアがあります。2017年のIFABの年次総会でテストが認められた「二時的退場（シンビン）」の制度です。

アイスホッケーでは古くから行われ、近年になってラグビーでも採り入れられた一時的退場。サッカーで言えば「イエローカード」と「レッドカード」の間、言ってみれば「オレンジカード」に当たるのでしょうか。

しかしいくつかの国々では、この制度をまったく違った意味で利用し、サッカーの価値を高めようとしています。イングランドサッカー協会がその一例です。

17年に「公式テスト」が許可されると、イングランドでは数多くの「グラスルーツ」の大会で「シンビン」を採り入れることを決めました。その目的はただひたすら。レフェリーへの「異議」を

いつも心に

連載 Vol.132

大住良之 リスペクト

（サッカージャーナリスト）

RESPECT
大切に思うこと

「異議」をゼロにするために

なくすことです。

レフェリーとは、本来、公平に試合をするために両チームから委託されて試合の判定を任せられた人です。人間ですからもちろん間違いはあるでしょう。しかし「自分たちからお願ひした」という本来の意味を考えれば、レフェリーの決定に異議を唱えるのが考え違いであることは誰にでも分かります。レフェリーだけでなく選手も人間ですから、「えー今のがファウル？」と思う瞬間があるでしょう。しかしその一瞬後には、レフェリーの決定に従って行動しようと思うのが、本来のサッカー選手というものです。

ところが近年では、判定に激しく、あるいは執拗に抗議したり、行為やジェスチャーで不服を示したりすることが非常に多くなりました。ある調査によると、イエローカードの4分の1は、こうした「異議」によるものだそうです。

そこでイングランドでは、男女、年代を問わず、週末に行われているグラスルーツ（草の根）のサッカー大会で、「異議によるイエローカードには10分間（80分ゲームでは8分間）の一時的退場」という規定をつくってIFABの「公式テスト」に参加したのでした。

目的は「落ち着かせ、考える時間を与える」ことにあります。一時的退場を命じられた選手はチームのベンチに戻り、監督やコーチと話すことができます。そして10分たったらプレーに戻ることができるのです。

ラグビーの「シンビン」は「イエローカードより重く、レッドカードより軽い」たぐいの反則や違反行為に対して課される「懲罰」ですが、イングランドサッカー協会のものは、より「教育的な意味を持つているように思えます。

「二時的退場」があるため、残りの時間に例えばラフプレーによつてもう1枚イエローカードを受けても退場にはならないそうです。

イングランドサッカー協会はレフェリーに対する異議がサッカーという競技に及ぼしている害悪に注目し、なんとかゼロにしようという努力を続けてきました。

この協会が世界に先駆けて「リスペクト・プログラム」を始めた最大の目的は、レフェリーを守り、サッカーという競技を守ることにありました。

IFABの承認を受けて始まった「公式テスト」の結果は、驚くべきものでした。なんと、

このテストに参加した大会では、「異議」によるイエローカードが38パーセントも減少したというのです。そして参加した選手、コーチ（監督）、レフェリーの多くが、アンケートに対し、この制度を続けるべきだと答えているそうです。



サッカーの試合で選手の安全を守ることは審判員の役割の一つ。では、その審判員は何に守られるだろうか

「シンビン（罪の箱）」という名称は重いものですが、何か適切な名称を考えて、日本でも「公式テスト」に参加してみたらどうだろうか、と、イングランドサッカー協会のホームページでこの制度の解説を読みながら考えました。



学校部活動の未来を サッカー界から変えていく

日本サッカー協会（JFA）は3月17日、第1回JFA部活動地域移行カンファレンスをJFAハウスで開催した。106人が参加し、中学校部活動の地域移行について情報を共有した。

※本文内の所属や役職は開催当時



地域移行を絶好の機会に

2018年3月、スポーツ庁は「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」を制定し、20年4月には文部科学省が「公立学校の教師の勤務時間の上限に関するガイドライン」を発表した。これらは、少子化によって学校部活動が持続困難であることや競技経験のない教員による指導、休日の活動に伴う教員の負担増などを課題として、生徒にとって望ましい部活動環境の構築、学校の働き方改革を目的に策定されたものだ。現在はスポーツ庁の政策として、23年からの3年間を改革推進期間と定め、公立中学校等における休日の運動部活動の地域連携・地域移行（クラブ活動への移行）が進められている。

こうした動きにJFAはいち早く対応してきた。18年に部活動検討委員会を立ち上げ、手引きの作成をはじめ、合同部活動チームの大会参加に関する規定や関連省庁へのアプローチに着手。22年5月には部活動推進委員会と名称を改め、サッカー界としての部活動の方向性や在り方を検討してきた。

記念すべき第1回のJFA部活動地域移行カンファレンスであり、かつに立った同委員会の池田洋二委員長は「23年から段階的な移行期間に入り、今年はその間の年。学校部活動は日本の教育面でも重要

な役割を担ってきた。教員の働き

方改革と共に学校部活動の方向性を皆さんと一緒に考えていきたい」と述べた。また、影山雅永副委員長（JFAユース育成ダイレクター）

は、JFAが目指す日本サッカーの将来像から逆算し、その道筋を示した「Japan's Way」について説明した。その中で、中学校や高校の3年間で公式戦に出場できないまま卒業していく選手がまだまだ多いことに

触れ、「日本では勝つためにさまざまにまなものを犠牲にし、自分が試合に出られなくても仲間を応援することが美徳であるとされてきた。それは素晴らしいマインドだが、応援することが自分がプレーすることを上回ってはいけない。プレーすることが楽しい、というマインドをもっと大切にしなければならない」と強調。

学校の方針で夏の大会が終わったら3年生は部活動を引退しなくてはならない現状があることについても「サッカーも勉強も頑張りたい子はそのまま続けたっていいんじゃないか。子どもたちの選択肢をもっと増やしていきたい」と指摘した。

だが、どこでも、いつまでもサッカーができる環境をつくるためにも、学校部活動の地域移行は「絶好の機会」とJFAは捉えている。スポーツの指導をしたいという教員や地域の指導者が活躍できる機会の創出に

もつながっていくだろう。影山副委員長は「地域移行はサッカー界が使命感を持って取り組み、スポーツ界を引っ張っていく。全国のサッカー仲間と共に日本スポーツの未来をつくっていききたい」と言葉を結んだ。

全国に広がる活動事例

パネルディスカッションでは、三つのテーマに分かれて取り組み内容が発表された。

沖縄県うるま市は、17年から部活動改革に着手した。スポーツデータバンクが運営するプラットフォームを活用し、指導者と中学校運動部のマッチングシステムを構築。指導者には必要な知識を習得するための学習機会を提供し、試験に合格しなければ登録できない認証制度も設けた。そのため、指導者の質や安全面も確保されている。そのほか資金調達や施設予約のシステムを導入

定だ。

するなど、全体を一元管理できる仕組みをつくり、効率的な部活動の運営を実現している。千葉県柏市でも、休日の部活動に参加したい生徒と指導者をマッチングするシステムを導入して地域移行を促進。これを機に地域クラブとして活動する事例も出てきている。

京都府の福知山ユナイテッドでは、中学生育成プロジェクト「グラント（GRANT）」を立ち上げ、市内のサッカー部員やサッカーをしたい子どもを集めて休日に合同トレーニングを行っている。福知山市教育委員会と連携しながら、サッカーに限らず地域スポーツの活性化にも動き出している。

なお、JFAでは部活動地域移行に関する情報を公式ウェブサイトにて発信。今回のカンファレンスの様子もアーカイブとして公開する予定だ。

【開催概要】

日時：2024年3月17日（日）13～16時

場所：JFAハウス（東京都）

参加費：無料

参加対象：47都道府県サッカー協会、行政・自治体の関係者、地域クラブ、指導者、教員、競技団体など

プログラム：

1. オープニングプログラム／池田洋二JFA部活動推進委員会 委員長

2. Japan's way「ありたき姿」／影山雅永JFA部活動推進委員会 副委員長

3. パネルディスカッション

(1)自治体と民間企業との連携事例

玉城貴志（うるま市 企画部・沖縄県FA4種副委員長）

石塚大輔（スポーツデータバンク株式会社）

ファシリテーター：稲垣和希

(2)地域クラブと統括コーディネーターの連携事例

片山哲朗（福知山市教育委員会統括コーディネーター、福知山サッカー協会会長）

片野翔大（福知山市教育委員会統括コーディネーター、福知山ユナイテッド）

ファシリテーター：櫻井義孝

(3)教員のクラブ創設と教育の事例

相澤智幸（柏市教育委員会）

大竹真博（一般社団法人 柏スポーツ文化推進協会）

中村光義（横浜市立中川中学校、横浜市中体連サッカー専門部）

ファシリテーター：久保田淳

4. クロージング



日本サッカー協会

<https://www.jfa.jp/>



みずほフィナンシャルグループがJFAインクルーシブプログラムを協賛

JFAメジャーパートナーである株式会社みずほフィナンシャルグループ (以下、みずほFG) が、3月21日のFIFAワールドカップ26アジア2次予選兼 AFCアジアカップサウジアラビア2027予選 [SAMURAI BLUE (日本代表) 対朝鮮民主主義人民共和国代表] より、「JFAインクルーシブプログラム」に協賛することが決定した (3月19日発表)。

JFAインクルーシブプログラムは、年齢や性差、障がいの有無などにかかわらず、誰もが、安心・安全にサッカーを観戦できる環境づくりを目的に実施している活動で、その一環として、JFAはみずほFCと共に障がい者のスポーツ観戦機会を増大させるとともに社会全体の行動変容を促す施策に取り組んでいく。

[JFAインクルーシブプログラム supported by MIZUHO]

- 概要：・障がい者とその介助者の日本代表戦プレマッチセレモニーへの参加
- ・日本代表戦での障がい者席の設置とボランティアスタッフによる運営
- ・共生社会の実現に向けた啓発動画の放映など



プレマッチセレモニーの様子



会場内ではボランティアスタッフが障がいのある方をサポート

JFA女子サッカーデー2024の取り組み

JFAは今年も3月8日の「JFA女子サッカーデー」にさまざまな取り組みを行った。

JFAは2019年、国際連合 (国連) が制定している3月8日の「国際女性デー」を「JFA女子サッカーデー」に定め、翌2020年から47都道府県サッカー協会と共に女子サッカーの普及活動や女性活躍社会の推進などをテーマにさまざまな活動を展開している。2022年からは日本女子プロサッカーリーグ (WEリーグ)、日本女子サッカーリーグ (なでしこリーグ)、日本ビーチサッカー連盟、日本障がい者サッカー連盟、日本フットボールリーグ、日本フットサル連盟 (Fリーグ) が参画。2023年からは全日本大学女子サッカー連盟が、そして今年から日本プロサッカーリーグ (Jリーグ) もこれに加わった。

3月5日に行われたオンラインパネルディスカッションでは、サッカー、ラグビー、野球の女子スポーツから代表者がパネラーとして登壇、各競技の現状や抱えてきた課題などを共有しながら、女子スポーツを文化していくために何ができるのかなどについて語り合った。

女子野球では2021年8月に初めて女子高校野球の全国大会を甲子園で開催。長年の悲願がかない、甲子園という目標ができたことが選手、指導者、関係者らの大きな励みになっている。

女子ラグビーは、2016年大会から7人制がオリンピック競技に採用された。女子ラグビーがヨーロッパで普及し始めたのは60年代で、日本国内での始まりは1983年と歴史は浅い。女子ラグビーが珍しかった時代から選手一人一人が情熱を持って競技に取り組み、その歴史をつくってきた。現在はオリンピックへの採用を機に、強化も進んでいるという。

それぞれが成長を遂げつつも普及や受け皿などまだ課題はある。今井純子JFA女子副委員長 (当時) は「競技間で連携することで発信力も高まるのではないかと」発言。パリオリンピックが開催される今年、女子競技の連携をさらに強めて、女子スポーツの価値を高めていく考えなども発信された。

[2024年度のJFA女子サッカーデー取り組み]

●「女子スポーツの歩みとこれから」オンラインパネルディスカッション

日時：2024年3月5日

パネラー：宮本恒靖 (JFA専務理事)、高田春奈 (WEリーグチェア)、浅見敬子 (日本ラグビーフットボール協会副会長)、山田博子 (一般社団法人全日本女子野球連盟会長) / 進行役：今井純子 (JFA女子副委員長)

配信：JFA 公式youtube チャンネル「JFATV」で配信

https://youtu.be/4_qpak4mSt4



●マルチスポーツフェスティバル

日時：2024年3月16日

会場：高円宮記念JFA夢フィールド Bピッチ

実施内容：

[各種スポーツ体験]

サッカー：ウォーキングフットボール+ゴールキーパー体験など

ラグビー：ストラックアウトなど

野球：ベースボール5+ストラックアウトなど

ミニフットゴルフ：ミニフットゴルフ体験

※参加者をグループに分け、グループ毎に各競技を順番に体験

●アディダス・JFA HER TEAM CUP 2024

女子中学生のサッカーの機会を創出するためにアディダスとJFAが共同で立ち上げたプロジェクトで、これまでこのプロジェクトから新たに30チームが誕生した (2023年12月末時点)。4年目を迎えた2024年は、各チームがそれぞれ東西の会場に集まり、合同トレーニングや試合を実施。3月23日と24日にJFA夢フィールド (千葉県) で、3月30日と31日にはJ-GREEN堺 (大阪府) で開催した (78~79ページに関連記事あり)。



3月5日には、JFA女子サッカーデーに先駆けてオンラインパネルディスカッションを開催



マルチスポーツフェスティバルではサッカーを含めたさまざまな球技を体験 (写真はベースボール5の様子)

育成年代応援プロジェクト JFA アディダス DREAM ROAD ～4名の選手がスペインのレアル・ソシエダへ短期留学

JFAとアディダス ジャパン株式会社は、昨年11月から「育成年代応援プロジェクト JFA アディダス DREAM ROAD(ドリームロード)」を実施している。このプロジェクトは「世界基準の選手育成」を目的に実施しているもので、中高生年代の選手が欧州のクラブに短期留学し、トレーニングに参加するというもの。3月17日から4月2日の約2週間、スペインのレアル・ソシエダに高校生(1人)、中学生(3人)の4選手を送り出した。

【レアル・ソシエダへの練習参加選手】

・小浦 拓実(コウラ タクミ)

ポジション：DF

所属：アビスパ福岡U-18

学年：高校1年生

・大島 琉空(オオシマ リュウア)

ポジション：DF

所属：VIVAIO船橋SC

学年：中学3年生

・小川 直澄(オガワ ナオト)

ポジション：FW

所属：浦和レッズジュニアユース

学年：中学3年生

・安西 来起(アンザイ ライキ)

ポジション：FW

所属：さぬき市立さぬき南中学校

学年：中学3年生

●「育成年代応援プロジェクトJFA アディダス DREAM ROAD」実績

レアル・ソシエダ(スペイン) 2023年11月20日～12月3日 [4選手]

FCバイエルン・ミュンヘン(ドイツ) 2023年11月26日～12月10日 [6選手]

フルハム(イングランド) 2024年2月4日～19日 [5選手]

レアル・ソシエダ(スペイン) 2024年3月17日～4月2日 [4選手]

JFAユニクロサッカーキッズ、2024年度は国内外15都市で開催

JFAと株式会社ユニクロは2003年から「JFAユニクロサッカーキッズ」(主催：JFA、特別協賛：ユニクロ)を開催してきた。これまで国立競技場や6大ドームのほか、シンガポールやドイツ、ベトナムでも開催。イベントを通して国内外の子どもたちにサッカーやスポーツの楽しさを伝えてきた。2024年度は全15都市で開催する。国内では、今年2月にオープンした「エディオンピースウイング広島」など4つの新スタジアムを含む14会場で行う予定だ。

第1回の舞台はクレールフォンテーヌ(フランス)。会場は、サッカーフランス代表のキリアン・エムバペや元フランス代表のティエリ・アンリを輩出したクレールフォンテーヌ国立サッカー学院の「CENTRE NATIONAL DU FOOTBALL CLAIREFONTAINE」。今夏、パリで4年に1度のスポーツの祭典が開催されることになっており、サッカーをはじめとする各種競技に注目が集まっている。この記念すべき年に、フランスに暮らす子どもたちにスポーツを通じて夢や自立心を育む機会を届けたいという趣旨で開催する。

JFAとユニクロは今後も、スポーツを通じて子どもたちの夢や自立心を育み、より良い地域社会の実現に貢献していく。

※JFAユニクロサッカーキッズ：JFAはユニクロの特別協賛の下、「JFAユニクロサッカーキッズ」を全国で実施している。同イベントは、外遊びが減った現代の子どもたちにスポーツの楽しさを伝えようと2003年に策定した「JFAキッズプログラム」の一環として実施しているもので、6歳以下の未就学児向けを対象にしたミニサッカーフェスティバル。初回からユニクロの特別協賛で実施しており、JリーグやWEリーグ、日本代表戦などが行われる大型スタジアムで開催。2003年のスタートから21年間で延べ約30万人のキッズが参加し、サッカーを楽しみながら、自立心や協調性など豊かな心を育てている。

【2024年度JFA ユニクロサッカーキッズ 開催日程】

開催都市	会場	開催日
フランス	CENTRE NATIONAL DU FOOTBALL CLAIREFONTAINE	2024年5月19日(日)
新宿区(東京都)	国立競技場	2024年6月9日(日)
山口市(山口県)	山口きらら博記念公園やまぐち富士商ドーム	2024年6月16日(日)
米子市(鳥取県)	オールガイナールYAJINスタジアム ※初会場	2024年6月23日(日)
福岡市(福岡県)	福岡 PayPayドーム	2024年6月30日(日)
名古屋市(愛知県)	バンテリンドームナゴヤ	2024年7月15日(月・祝)
四日市市(三重県)	四日市ドーム	2024年8月4日(日)
盛岡市(岩手県)	盛岡南公園球技場(いわぎんスタジアム) ※初会場	2024年9月8日(日)
大阪市(大阪府)	ヨドコウ桜スタジアム	2024年9月16日(月・祝)
鹿嶋市(茨城県)	カシマサッカースタジアム	2024年9月29日(日)
福井市(福井県)	福井市フットボールセンター ※初会場	2024年11月3日(日・祝)
広島市(広島県)	エディオンピースウイング広島 ※初会場	2024年11月23日(土・祝)
熊本市(熊本県)	熊本県民総合運動公園陸上競技場 (えがお健康スタジアム)	2024年12月15日(日)
札幌市(北海道)	札幌ドーム	2025年1月18日(土)
前橋市(群馬県)	アースケア敷島サッカー・ラグビー場	2025年3月8日(土)



パリオリンピック2024 女子サッカーの組み合わせが決定

今年7月に開幕するパリオリンピック2024 女子サッカーの組み合わせ抽選会が3月20日(現地時間)にフランスのサンドニにあるパリ2024組織委員会の本部で行われ、なでしこジャパンはグループCに入り、スペイン、アフリカサッカー連盟(CAF)1、ブラジルと対戦することが決定した。

【パリオリンピック2024 女子サッカー 組み合わせ】

グループA：フランス(3)、コロンビア(23)、カナダ(9)、ニュージーランド(28)
 グループB：アメリカ(4)、CAF2、ドイツ(5)、オーストラリア(12)
 グループC：スペイン(1)、日本(7)、CAF1、ブラジル(10)
 ※()内は2024年3月15日時点のFIFA女子ランキング / CAF1、CAF2はアフリカ予選通過国

【なでしこジャパン グループステージマッチスケジュール】

7月25日(木) 17:00 スペイン 対 日本 会場：Stade de la Beaujoire(ナント)
 7月28日(日) 17:00 ブラジル 対 日本 会場：Parc des Princes(パリ)

7月31日(水) 17:00 日本 対 CAF 1 会場：Stade de la Beaujoire(ナント)
 ※全て現地時間
 ※各グループ上位2チームと、各グループ3位チームの中での上位2チームが準々決勝に進出する

●池田太監督コメント

対戦国が決まり、戦いをイメージしてポジティブな緊張をあらためて感じています。12チームという限られた出場国で開催されるオリンピックでは、どのチームとの対戦も常にタフな試合になります。初戦のスペインはワールドカップチャンピオンであり対戦が楽しみです。ブラジルは昨年の国際親善試合で高い個の技術と勝利への執念に苦しめられました。アフリカ勢も昨年のワールドカップでは3チームがラウンド16に進出するなど、勢いのあるチームが多いです。ここからまた一つ、準備が進んでいきます。大会までの残り約4カ月、常にオリンピックを意識してチームとしての積み上げを続けていきます。

日本プロサッカーリーグ(Jリーグ)



理事・監事・特任理事の選任

Jリーグは3月19日に社員総会および臨時理事会を開催し、チェアマン、理事、監事を決定した。これにより1月26日の臨時理事会で承認された特任理事、執行役員も下記の通り、正式に決定した。

■理事・監事・特任理事 一覧

役職	名前	所属
チェアマン	野々村芳和 ののむら よしかつ	公益社団法人 日本プロサッカーリーグ チェアマン
理事	大倉智 おおくら さとし	株式会社いわきスポーツクラブ 代表取締役社長
理事	小泉文明 こいずみ ふみあき	株式会社鹿島アントラーズ・エフ・シー 代表取締役社長 株式会社メルカリ 取締役会長
※ 理事	小西工己 こにし こうき	株式会社名古屋グランパスエイト 代表取締役社長
理事	杉本勇次 すぎもと ゆうじ	ベインキャピタル・プライベート・エクイティ・ジャパン LLC 日本代表
理事	元榮太郎 もとえ たいちろう	弁護士ドットコム株式会社 代表取締役社長 弁護士法人 Authense 法律事務所 代表 弁護士 CEO
※ 理事	秋山有子 あきやま ゆうこ	株式会社サンリオ 常務執行役員 グローバルデジタルマーケティング本部 本部長
※ 理事	藤原弘治 ふじわら こうじ	株式会社みずほフィナンシャルグループ 特別顧問
※ 理事	政井貴子 まさい たかこ	SBI 金融経済研究所株式会社 取締役理事
監事	鈴木秀和 すずき ひでかず	公益社団法人 日本プロサッカーリーグ 監事
監事	小林久美 こばやし くみ	Tokyo Athletes Office 株式会社 代表取締役 株式会社スポカチ 取締役 小林公認会計士事務所 代表
※ 監事	大金直樹 おおがね なおき	東京フットボールクラブ株式会社 取締役会長
特任理事	内田篤人 うちだ あつと	公益財団法人日本サッカー協会 ロールモデルコーチ シャルケ 04 チームアンバサダー

役職	名前	所属
特任理事	高田春奈 たかた はるな	公益社団法人日本女子プロサッカーリーグ チェア
特任理事	中村憲剛 なかむら けんご	Frontale Relations Organizer
特任理事	夫馬賢治 ふま けんじ	株式会社ニューラル 代表取締役CEO
※ 特任理事	小野伸二 おの しんじ	One Hokkaido Nexus Organizer

※新任

- ・任期は2024年3月19日から2026年3月開催予定の定時社員総会終結時まで
- ・公益財団法人日本サッカー協会(JFA)推薦枠は3月のJFA 役員人事をもって推薦されるものとし、選任者が決定次第あらためて公表する

■執行役員 一覧

役職	担当本部/部	名前	所属	現職(Jリーグ)
執行役員	フットボール本部・全体	窪田慎二	くぼた しんじ	執行役員(フットボール本部)
執行役員	経営基盤本部・全体	青影宜典	あおかげ よしのり	執行役員(経営基盤本部)
執行役員	クラブサポート本部	勝澤健	かつざわ けん	執行役員(クラブサポート本部)
執行役員	事業マーケティング本部、マルチメディア事業本部	笹田賢吾	ささだ けんご	執行役員(事業マーケティング本部)
執行役員	サステナビリティ部	辻井隆行	つじい たかゆき	執行役員(サステナビリティ部)
執行役員	海外事業部	相田鉄弥	あいだ てつや	執行役員(海外事業部)
※ 執行役員	パートナー事業部・全体	中村健太郎	なかむら けんたろう	ストラテジーダイレクター
※ 執行役員	フットボール本部・全体	樋口順也	ひぐち じゅんや	フットボール本部本部長

※新任 / 執行役員の任期は、1年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時社員総会の終結の時まで

2023年度決算

Jリーグは3月19日の社員総会で2023年度の公益社団法人日本プロサッカーリーグの決算を承認した。
(単位：百万円)

科目	2023 決算 (A)	2022 決算 (B)	増減 (A-B)
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
受取入会金	50	25	25
受取会費	1,367	1,356	11
協賛金収益	5,737	5,805	▲68
Jリーグ主管試合入場料収益	439	458	▲19
公衆送信権利収益	19,420	19,404	16
商品化権利収益	825	1,211	▲387
その他	2,539	3,771	▲1,232
経常収益計	30,378	32,031	▲1,653
(2) 経常費用			
① 事業費	26,952	30,634	▲3,682
リーグ運営経費	2,923	2,672	251
クラブへの配分金	11,185	15,168	▲3,983
その他	12,843	12,794	49

科目	2023 決算 (A)	2022 決算 (B)	増減 (A-B)
② 管理費	872	804	67
経常費用計	27,823	31,438	▲3,615
当期経常増減額	2,555	592	1,962
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益	45	41	5
(2) 経常外費用	24	7	18
当期経常外増減額	21	34	▲13
当期一般正味財産増減額	2,576	626	1,949
一般正味財産期首残高	7,256	6,630	626
一般正味財産期末残高	9,831	7,256	2,576
II 指定正味財産増減の部			
受取寄付金	1	0	1
一般正味財産への振替額	▲11	▲2	▲9
当期指定正味財産増減額	▲9	▲2	▲8
指定正味財産期首残高	36	38	▲2
指定正味財産期末残高	27	36	▲9
III 正味財産期末残高	9,858	7,292	2,566

※百万円未満を四捨五入。端数調整なし。

2024明治安田J3リーグのタイでの放映が決定

2024明治安田J3リーグのタイでの放映が新たに決定した(3月19日発表)。

タイのBG SPORTS YouTubeチャンネルでJ3リーグの奈良クラブの試

合10試合を放映する。奈良クラブには2024シーズン、タイ出身のパトリック・グスタフソン選手、キアッドティフォン・ウドム選手が加入し、その活躍の様子をタイでも視聴できるようになった。

「Jリーグ×小野伸二 スマイルフットボールツアー for a Sustainable Future supported by 明治安田」開催

Jリーグは、小学生の子どもたちを対象とした「サッカー教室」と「サステナトーク」を行う「Jリーグ×小野伸二 スマイルフットボールツアー for a Sustainable Future supported by 明治安田」を開催する(3月28日発表)。

この企画は、Jリーグ特任理事の小野伸二氏をメイン講師に迎え、同氏だからこそ伝えられるサッカーの楽しさや喜び、素晴らしさを感じてもらふこと、サッカーを通して気候アクションの重要性を理解してもらうことを目的としている。

4月28日の味の素スタジアムでの開催を皮切りに、1年を通して全国各地のJクラブを回りながら全20回の開催を予定。明治安田生命保険相互会社がJスマイルフットボールツアーパートナーとして協賛する。

【開催概要】

名称：Jリーグ×小野伸二 スマイルフットボールツアー for a Sustainable Future supported by 明治安田
(略称：Jスマイルフットボールツアー)

ロゴ・コンセプト：サッカーと子どもたちのサステナブルな未来の象徴を、サッカーボールと笑顔をつなぐ「無限を頭す図形(∞)」で表現。サッカーの楽しさを体現する小野伸二氏の名称とJリーグロゴを配し、芝生・気候アクション・サステナブルのイメージカラーであるグリーンを施した配色のマークデザイン。

主催：公益社団法人 日本プロサッカーリーグ(Jリーグ)

協賛：Jスマイルフットボールツアーパートナー

明治安田生命保険相互会社

アディダス ジャパン株式会社/株式会社モルテン/

日本航空株式会社

開催期間：2024年4月～2025年3月(全20回)

参加対象：各回小学1～3年生：64名、小学4～6年生：64名 合計128名

内容：サッカー教室(小野伸二氏や地元クラブのコーチと一緒に基本技術のトレーニング、ミニゲームなどを実施)、サステナトーク(サッカー教室終了後に気候アクションについてのトークセッションを実施)

講師：小野伸二Jリーグ特任理事、開催地域のJクラブ選手または選手OB

開催日程や応募方法：Jリーグ特設サイトを参照

<https://www.jleague.jp/special/jsmilefootballtour/>



メイン講師を務める小野伸二Jリーグ特任理事

新番組『Jリーグ審判レポート』がスタート

Jリーグは2024シーズンより、審判関連の新番組『Jリーグ審判レポート』を配信する(3月21日発表)。初回は3月26日からDAZNで先行配信、同28日からJリーグ公式YouTubeチャンネルで配信する。

同番組は、これまでの「ルールや判定を知る」というフェーズからより進

化し、普段知る機会の少ないレフェリーの個性や努力、試合中継だけでは伝わらない舞台裏に迫り、レフェリングの観点でJリーグの発展を共に考える番組を目指す。また、競技規則への理解もテーマの一つとしており、番組を見ることで楽しみながら競技規則への知識・理解を高め、サッカーを

より深く楽しめるようになることを目指している。初回のテーマは「VARの現場を直撃!」。国立競技場で行われた明治安田J1リーグ第1節東京ヴェルディ対横浜F・マリノスのVARの裏側に密着している。

番組名 : 『Jリーグ審判レポート』

配信日 : 毎月各2本を配信(月毎で前編、後編に分けて配信)

配信媒体 : DAZN、Jリーグ公式YouTubeチャンネル

番組内容 :

- ・前編「ホイッスル」: 試合での話題のシーンをピックアップ
JFA審判インストラクターと一緒に議論しながら競技規則の理解を深めるコーナー (VARの映像・音声も一部公開)
- ・後編「審判の舞台裏」
審判員についてより理解を深めるための特集企画コーナー (毎月・月替わり企画)

Jリーグコーポレートサイトオープン

Jリーグは3月26日、「Jリーグコーポレートサイト」を新たにオープンした。トップメッセージをはじめ、プレスリリース、組織・経営情報やJリーグが取り組む各事業活動などを掲載している。

●「Jリーグコーポレートサイト」

URL : <https://aboutj.league.jp/corporate/>

公開日 : 2024年3月26日 (火)



日本女子プロサッカーリーグ (WEリーグ)

<https://weleague.jp/>



3月8日国際女性デー、WEリーグでの施策

国際女性デーは、1904年3月8日にニューヨークで婦人参政権を求めたデモが起源となり、国連によって1975年に制定された。女性たちの勇気と決断を称える日とされており、女性の地位向上や男女平等を目指すだけでなく、さまざまなジャンルで活躍する女性をサポートすることで、男性も含めた全ての人が暮らしやすい世界を目指すもの。JFAは3月8日を「JFA女子サッカーデー」に定めている。

WEリーグは、理念に掲げる「一人ひとりが輝く社会」の実現に通じる意義ある日として、国際女性デーならびにJFA女子サッカーデーでもある3月8日にさまざまなアクションを実行。同日、WEリーグクラブの選手、スタッフおよびWEリーグ、なでしこリーグの事務局員を対象にした相談窓口の運用を開始した。

●国際女性デー X-girl×WE リーグ

シルバートナー / オフィシャルサプライヤーである株式会社ビーズインターナショナルが運営するストリートブランド「X-girl (エクスガール)」と共同して、オリジナル「WEAR THE HOPEバンド」の配布と、公式アプリ「X-girl×WE LEAGUE」の期間限定フォトフレームを制作した。
<https://weleague.jp/news/1289/>



●WEリーグ公式アプリで特別フォトフレームを制作

2024年国際女性デーのキャンペーンテーマ「Inspire Inclusion」を多くの人に知ってもらい、国際女性デーについて関心を持ってもらうことを目的として、WEリーグアプリ内に実装されている「フォトフレーム」機能をアップデートし、特別フォトフレームを制作した。

●「HAPPY WOMAN FESTA 2024」高田春奈チェア登壇

国際女性デーに開催されるイベント「HAPPY WOMAN FESTA 2024」内のセミナー「自己肯定感向上が女性活躍推進の鍵 ～女性のエンパワメントの重要性～」に高田チェアが登壇した。

●「JFA女子サッカーデー」との共同施策

JFAと共同して「JFA女子サッカーデー」に関連する取り組みを実施した(27ページ参照)。

●誰もが安心・安全にスポーツを楽しめる環境整備に取り組む

第6回 WE ACTION MEETINGで「ファンやサポーターとの関わり方」について、女性アスリートの権利に関する身近な課題として取り上げた。国際女性デーをきっかけに女性アスリートがプレーをしている環境にスポットライトを当て、選手やスタッフ、ファン・サポーターが安心・安全に試合を楽しむために、選手やチームの魅力が伝わる環境づくりへの協力を促していくACTIONに随時取り組んでいく。

<https://weleague.jp/news/1260/>



●WEリーグ相談窓口の設置

WEリーグクラブの選手、スタッフおよびWEリーグ、なでしこリーグの事務局員を対象にした相談窓口の運用を開始。

WEリーグに関わる選手・コーチ・スタッフが、働き方に関係なく、ハラスメント、人間関係やキャリアの悩み、メンタルケアなどを相談できる窓口を開設することで、働く際の問題の深刻化を事前に防ぎ、安心・安全にそれぞれのミッションに打ち込める状態を維持できる環境づくりに努め、WEリーグの継続的な発展につなげていく。

AFC Women's Club Championship 2023 - Invitational Tournament 決勝について

アジアサッカー連盟(AFC)は、「AFC Women's Champions League 2024」のプレ大会として開催していた「AFC Women's Club Championship 2023 - Invitational Tournament」の決勝を実施しないことを決定、中止が決まった(3月22日発表)。決勝には三菱重工浦和レッズレディースが出場することになっていた。

同大会決勝の開催に伴い、3月27日の平日開催となっていた2023-24

WEリーグ 第20節(浦和对アルビレックス新潟レディース戦)が、他の5試合の開催週(5月11、12日)に日程を変更することが難しいことから、予定通りの日程で開催する。

今回の決定および通達方法についてはJFAと共に、AFCに対して決勝開催中止についての経緯やこのタイミングでの通達となった理由などについて説明を求めている。

U-18アカデミーフェスティバル2024を開催

WEリーグは、U-18アカデミーフェスティバル2024を開催する(3月25日発表)。大会概要は下記の通り。

【大会概要】

開催日程：2024年4月1日(月)～3日(水)

主催：公益社団法人日本女子プロサッカーリーグ(WEリーグ)

会場：Jヴィレッジ(福島県)

開催目的：

- ①育成年代トップクラスの選手を輩出しているWEクラブおよびなでしこリーグのU-18アカデミーチームを集めた大会を創設することで、U-18世代選手の交流・強化を図る。
- ②指導者間の交流を行い、育成年代の指導に関する情報を共有し、指導者としてのレベルアップを図る。
- ③新チームのチームビルディングの場としての機会を提供する。

●参加チーム：

- 12チーム(WEリーグ：9チーム、なでしこリーグ：3チーム〔※〕)
- ・マイナビ仙台レディースユース
- ・三菱重工浦和レッズレディースユース
- ・大宮アルディージャ VENTUS U18
- ・ちふれASエルフェン埼玉U-18
- ・ジェフユナイテッド市原・千葉レディースU-18
- ・ノジマステラ神奈川相模原ドゥエ
- ・AC長野パルセイロ・シュヴェスター
- ・アルビレックス新潟レディースU-18
- ・INAC神戸レオンチーナ
- ・スフィーダ世田谷FCユース ※
- ・横須賀シーガルズJOY ※
- ・伊賀FCくノ一三重サテライト ※

その他、大会概要および対戦カードは下記URLを参照

<https://weleague.jp/news/1309/>



日本フットサルリーグ(Fリーグ)

<https://www.fleague.jp/>



「Fリーグオールスターゲーム2024 TOKYO ～ Fun For Fan Futsal Festa～」を開催

Fリーグは3月19日、「Fリーグオールスターゲーム2024 TOKYO ～Fun For Fan Futsal Festa～」を墨田区総合体育館(東京都)で開催した。オールスターゲームの開催は7年半ぶり。Fリーグ所属クラブが「東・西」に分かれてチームを編成し、出場選手はファン投票によって決定。同日の試合は、FリーグTVでライブ配信された(見逃し配信あり)。

【開催概要】

主催：公益財団法人日本サッカー協会、一般社団法人日本フットサルトップリーグ

主管：日本フットサルリーグ(Fリーグ)、公益財団法人東京都サッカー協会、一般社団法人東京都フットサル連盟

後援：一般財団法人日本フットサル連盟、墨田区

協力：スポーツ庁

※本事業は、スポーツ庁が推進する令和5年度「スポーツオープンイノベーション推進事業」において、スクラムスタジオと運営する「スポーツオープンイノベーションプラットフォーム(SOIP)」の構築の推進を目的としたプログラム「SPORTS INNOVATION STUDIO」の協力によって実施

■試合結果およびオールスターゲーム「MVP賞」

●オールスターゲーム

FリーグEAST 3(PK3-3) 3 FリーグWEST

※FリーグEAST 対象クラブ：北海道、浦安、すみだ、しながわ、立川、町田、仙台、水戸、葛飾、白山、長野、FリーグWEST対象クラブ：横浜、湘南、名古屋、大阪、北九州、大分、浜松、広島、浜田、新居浜

●MVP賞

室田祐希 FリーグEAST(エスポラーダ北海道)

■Most Running Player

SOLTILO Knows 株式会社の協力の下、オールスターゲームでは出場選手たちがウェアラブルデバイスKnowsを着用し、計測できるさまざまなデータを基に新たな観戦体験を提供。下記2名の選手が「Most Running Player」となった。

●FリーグEAST：加藤竜馬(バルドラール浦安)

●FリーグWEST：堤優太(Y.S.C.C.横浜)

■マスコット選手権

1位：アスレくん(立川アスレティックFC)

2位：スミダイヤル(フウガドールすみだ)

3位：キングベル1世(湘南ベルマーレ)

「第1回FリーグU-18フットサル大会 in 名古屋」を開催

Fリーグは3月23日・24日、「第1回FリーグU-18フットサル大会 in 名古屋」を開催した。12チームが参加し、フウガドールすみだファルコンズが優勝、関東選抜U-18が準優勝に輝いた。

<出場チーム(12チーム)>

- Fリーグ下部組織：ヴォスクオーレ仙台、バルドラール浦安テルセーロ、フウガドールすみだファルコンズ、S.B.F.C. LONDRINA U-18、ペスカ

ドーラ町田U-18、府中アスレティックFCユース、名古屋オーシャンズU-18、シュライカー大阪U-18

●日本フットサル連盟：愛知県選抜U-18、関東選抜U-18

●日本フットサル施設連盟：相生学院高校、ペティロツ香芝U-18

※全試合結果は下記URLを参照

<https://www.fleague.jp/news/?p=62551>





日本フットボールリーグ (JFL) 便り



～創勝～

ソニー仙台フットボールクラブ 広報担当 青木英子

<https://www.sonysendaifc.jp>

ソニー仙台フットボールクラブは1968年にソニー仙台サッカー同好会として発足し、1997年に日本フットボールリーグ (JFL) 昇格を果たしました。企業チームとして「プロの横にいる最強のアマチュア」を目指しながら、JFLの最古参チームの一つとして地域に密着した活動を積極的に展開しています。

また、企業チームとしてサッカー選手と社会人の両立を高いレベルで実現することを活動の基軸に置き、自ら考え、行動していくことで人間的な成長を促すことも大切にしています。

今シーズンのチームスローガンは「創勝」です。チームに関わる全ての皆さまと協力し、その先の成功や勝利、そして、強く愛される魅力的なクラブになれるよう、未来に向かって一緒に創り上げる、築き上げていこうとする意志を表現しています。ポスター制作にあたり、私たちの活動拠点である宮城県多賀城市のご協力の下、多賀城創建1300年にて復元される多賀城南門前で撮影しました。このことから未来のために築き上げる姿にも掛けています。

鈴木淳監督体制3年目となる今シーズンは、チームのプレー目標である「Speedy and Quality (常に考え続けスピーディで質の高いプレーをする)」「Originality (独創的で特長を生かしたプレーをする)」「Never give up (不屈の精神でどんな状況でも勝利を目指しフェアに戦う)」「Year after year (さらなる向上を目指し常に継続する)」に

より磨きをかけ、常に質の高いサッカーを目指すとともに、クリエイティブで魅力的なサッカーを展開し、最後の1秒まで諦めることなく、「JFL優勝」と「天皇杯ベスト16」を目指して全力で戦います。

また、弊クラブではトップチームの活動以外にも創設20年目を迎えた「ソニー仙台FCサッカースクール」の運営やキッズ巡回指導、サッカー教室などの社会貢献活動も展開しており、スポーツ文化の発展、地域の活性化に寄与できるよう積極的に取り組んでいます。

「強く、愛されるクラブづくりを通じて、関わる全ての人と夢と希望を育み、共に成長する」というチーム理念の下、チームを応援して下さる皆さまへの感謝の気持ちを胸に、社員や地域の皆さまから愛されるクラブになるよう努力していきます。



試合を見に来てくれる人々に、勇気や希望、感動を与えられるようなプレーをピッチ上で表現する

日本フットボールリーグ (JFL) 便り



地域から愛されるチームを目指して

FCマルヤス岡崎 運営委員代理・広報 田野綾子

<https://fc-maruyasu.jp/>

FCマルヤス岡崎は1968年にマルヤス工業サッカー部として創部。1975年に愛知県サッカーリーグで優勝し、翌年から東海社会人サッカーリーグに昇格しました。2003年には愛知県サッカー選手権で優勝し、初の天皇杯出場を決めました。その後、2013年に東海社会人サッカーリーグを制覇、2014年J3リーグ新設に伴いJFLに参入し、チーム名を現在の「FCマルヤス岡崎」に変更しました。2020年には天皇杯でクラブ史上初となる3回戦まで勝ち進み最高記録を塗り替えました。チームコンセプトである「岡崎市の名を全国に」「サッカーで会社を元気に」を合言葉に、地域に根差した企業チームを目指しています。

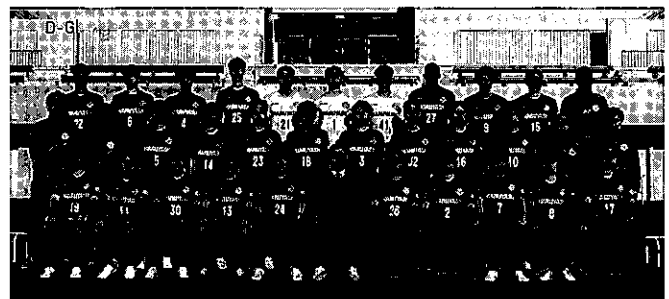
2024シーズンのチームスローガンは自チームを将棋に例え「歩」。一步一步自分たちのできることを積み上げ、目の前の試合に100%で挑む。また「ト金」となり相手の陣地でも動き回り、リーグ優勝に向けてチーム一丸で戦うことを掲げています。

一步一步積み上げていくにはサッカーだけでなく地域とのつながりも重要だと考えています。昨シーズンも地域のイベントやボランティアなど地域貢献、社会貢献に積極的に参加しました。市内の道路清掃ボランティアや災害ボランティア、幼稚園や小学校などの学校訪問、サッカー教室の実施や、試合会場でのフードドライブの実施などです。サッカーだけではつながることができなかった地域の皆さまとの交流

は、岡崎の代表として戦う力にもなっています。また、訪問した学校の子どもたちからの手紙は選手、チームの励みにもなっています。

会社のみならず地域の皆さまからも愛され応援していただけるチームへと成長できるよう、今シーズンも引き続き、学校訪問やサッカー教室、ボランティア活動に力を入れて取り組み、応援して下さる市民の皆さまに恩返しができるよう戦います。

長いシーズンが始まりましたが、これまで浸透させてきた攻撃的なサッカーを軸に、攻守共にハードワーク・球際の強さなど勝負にこだわり、泥臭くアグレッシブに戦い、全員攻撃・全員守備で見ている方々を魅了するサッカーを届けます。今後もFCマルヤス岡崎へのご支援、ご声援をどうぞよろしくお願いいたします。



一步一步積み上げ、チーム一丸となって戦っていききたい



なでしこリーグ便り



地域で愛されるクラブづくりを目指して

伊賀FCくノ一三重 なでしこリーグ実行委員 初矢千秋

<https://www.iga.fc.jp/>

伊賀市は、伊賀上野城下町として知られ、忍者の里としても有名です。街並みには、日本が誇る文化財が多く残されています。

そんな伊賀市をホームタウンに持つ伊賀FCくノ一三重は、WEリーグの発足など日本女子サッカーを取り巻く環境が変化している中で、県内におけるチームの認知度を高め、運営基盤を強化すべく、2020年2月にクラブ名を「伊賀FCくノ一三重」に改称しました。県名をクラブ名に加えたのは1976年の創設以来、初めてのことで、そこにはオール三重の態勢につなげていきたいという思いが込められています。

今シーズンは、なでしこリーグ1部での優勝を目標に掲げ、「進化〜心ひとつに〜」をスローガンに活動をスタートしました。長くチームを引っ張ってきたベテランの選手たちが昨年、引退。今年は新加入選手が1人となり、少数のメンバー構成になりましたが、昨年から積み重ねを基盤に、さらに進化して優勝という目標に向かって日々努力しています。昨年は引き分けが多く勝ちきれなかったため、ゴールにかける人数と攻撃回数を増やし、点を取れるチームにしていきたいと考えています。

クラブとしては、「どんなことに対しても強い市民クラブ」として誇れるようになるために、永続化を求めた経営資源（人、物、資金）の確保が大事であると考えています。長い間この地域に根付き、こ

で得た文化や考え方を生かしつつ、新しい考え方を織り交ぜながら進化し続けるクラブでありたいと思います。まず地元伊賀市と連携して、地域貢献活動などに積極的に参加し、地域の皆さまに夢や感動を与えられる魅力あるクラブにしていきたいです。また、クラブの強みとして、活躍してくれた選手が指導者となり、育成年代の強化に取り組んでいます。今後も良い選手・指導者を生み出す環境を整えていくことが大事だと考えます。

地域で愛されるクラブになるために、伊賀FCくノ一三重を使ったメリットを情報発信し、継続的に行政とも連携して、私たちのホームゲームおよびスタジアムが地域の交流の場所となり、地域活性化につながるように活動していく考えです。



サポーターの皆さまとホームスタジアムにて

なでしこリーグ便り



「関わる人の心を大切に」し、人の心を動かすチームへ

株式会社今治、夢スポーツ 広報グループ 本多美月

<https://ladies.fcimabari.com/>

FC今治レディースは、「関わる人の心を大切にする。BESTを尽くす姿勢で関わる人の心を動かす」というテーマを掲げ、女子サッカーをより身近なものに感じてもらい、活動を見た人々に勇気や元氣、希望を与えたいという思いを持って活動しています。

歴史を振り返ると、2015年に愛媛県今治市をホームタウンとするFC今治（J3リーグ所属）のレディースチームとして創設され、2019年から四国女子サッカーリーグに参入しました。チャレンジリーグ（現、なでしこリーグ2部）加盟を目指していましたが、その年は加盟申請の問題で予選大会への出場がかなわず、2020年は新型コロナウイルス感染症の影響で予選大会自体が開催されませんでした。2021、2022年とようやくなでしこリーグ2部入替戦予選大会にチャレンジすることができました。そして、2023年になでしこリーグ2部入替戦を勝ち抜き、2024シーズンからなでしこリーグの舞台に立つことができました。

今年3月17日、ホームの今治里山スタジアムで開催された開幕戦には、738人のファン・サポーターが応援に駆けつけてくださいました。選手たちは、初めてのなでしこリーグ、そして、FC今治（男子チーム）と同じスタジアムでプレーすることに対して、わくわく感と緊張感を持ちながら試合に挑みました。残念ながら敗れましたが、予想をはるかに超える人々にお越しいただき、背中を押してもらい

ました。地元企業で働きながら好きなサッカーに一生懸命に取り組む選手たちだからこそ、地域に愛され、応援されていると感じました。チームを見て、そしてファン・サポーターの皆さんの応援を見て、今後への可能性を感じました。

小学生女子向けのサッカークリニックを月3回開催し、レディース選手との交流イベントも行うなど、女子サッカーの普及活動にも取り組んできました。その結果、昨年は、アカデミー（下部組織）のFC今治レディースNEXTから2人がFC今治レディースに昇格。地道に女子サッカーを普及してきた成果が出始めていると感じています。

今後も、私たちFC今治の企業理念である「次世代のため 物の豊かさより心の豊かさを大切に 社会創りに貢献する」の下、関わる全ての人の「心を大切に する」活動を続けていきます。



地元の応援を力に変え、念願のなでしこリーグの舞台に挑む



フットサル大国の先進地域～十勝の挑戦～

十勝地区フットサル連盟 理事 大久保航也(ソルプレーサ十勝GM)

<https://www.jff-futsal.or.jp/>

2023年度は十勝フットサル連盟、十勝地区のフットボール界として特別な一年となりました。特に12月に行われたフットサル日本代表対フットサルアルゼンチン代表の国際親善試合は、十勝の多くの子どもたちや観客にフットサルの魅力を感じてもらえたと思います。

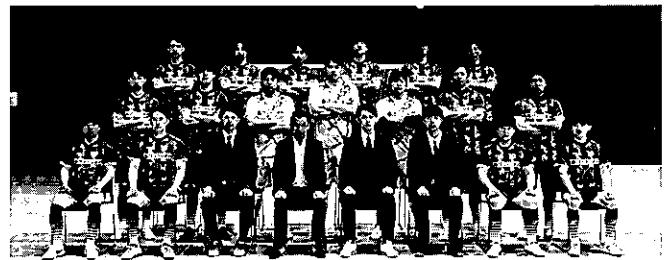
そのほかにも、北海道フットサルリーグでは初となるセレモニーイベントを十勝を本拠地に戦うソルプレーサ十勝のホーム試合で行い、約400人に入場いただくなど、さまざまなことにも挑戦した一年でした。

また、帯広大谷高校が全日本U-18フットサル選手権北海道予選で優勝。道東フットサルリーグでは、リーグ2連覇を達成したりヴァリスが北海道リーグ入れ替え戦に出場して悲願の昇格を果たし、十勝からは2チームが北海道リーグに参入という快挙も達成しました。そんな怒涛の1年間でしたが、ソルプレーサ十勝についてもう少し触れさせていただくと、苦勞した思いが大半を占めています。そんな中、多くのスポンサー企業や地域の皆さまの支えがあり、北海道リーグ優勝などの結果を出すことができました。

ソルプレーサ十勝はFリーグという舞台を目指し、十勝で初のプロスポーツクラブになるという大きな目標を掲げています。しかし、その目標よりも大事にしているのが“地方創生”と“地域共創”です。現在、さまざまな事情によってスポーツが続けられない子どもたち

や、解散となるスポーツクラブが出てきています。私たちが全てのスポーツでの社会課題を解決できるわけではありませんが、ソーシャルの部分にもしっかりと向き合うことを組織として大切にしています。

そのほかにも十勝という基盤を大いに生かし、スタートアップ組織になるというクラブ自体にアントレプレナーシップ(起業家精神)を備え、企業や行政のハブとなり革新的な取り組みをしていくというビジネス観点の目標も掲げており、スポンサーにはベンチャー企業やVC企業もパートナーとして支えていただいています。まだまだ未熟で至らぬ点は多いのですが、多くの方々への感謝の気持ちを忘れず、自治体や企業の皆さまと共に地域にとって必要な組織を目指し努力を積み重ね続けたいと思います。



Fリーグの舞台を目指すとともに、地域にもしっかりと向き合っていく



刻まれた日本ビーチサッカーのDNAとビーチサッカー U-12フェスティバル優勝

カルナヴィスタビーチサッカーアカデミー 代表 吉田恭平

<http://jbsf.or.jp/>

2019年に設立したカルナヴィスタビーチサッカーアカデミーは、日本のビーチサッカー界を最前線で引っ張ってきた田畑輝樹さんと私が立ち上げたビーチサッカーアカデミーで、愛知県碧南市にある碧南緑地ビーチコートを拠点に活動しています。

アカデミーにはカテゴリーが5つあり、6歳から60歳まで幅広い年齢の選手がビーチサッカーを楽しんでいます。また名古屋グランパスU13や地元の碧南工科高校サッカー部に対するトレーニング指導や、碧南市サッカー協会と連携して碧南市U12ビーチサッカー大会や女子U12ビーチサッカー大会の開催をサポート。そこでクリニックも担当し、地域の子どもたちがビーチサッカーを体験する機会もつくっています。

クラブの理念は第一に、ビーチサッカーの楽しさを全身で感じることで、「勝利至上主義」ではなく、「ミスや失敗をただ感情的に怒る」こともしません。成功や失敗という結果ではなく、子どもたちの前向きな行動や意思・チャレンジを見逃さないように心掛け、心の「火」をさらに大きな「炎」にしていきたいと考えています。

今年3月には、兵庫県明石市で開催された第2回ビーチサッカー U-12フェスティバルで日本一になることができました。初戦は0-6と大敗しながらも全員で立て直し、苦しい状況でも仲間と力を合わせて、これぞビーチサッカーという魅力が詰まった素晴らしいプレー、試合を見せてくれました。

少し大げさな表現かもしれませんが、カルナヴィスタの選手の中には日本

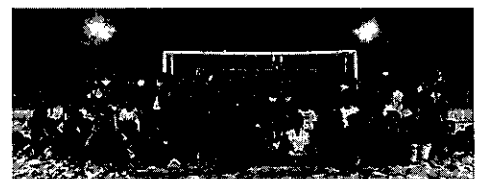
ビーチサッカーの経験とDNAが刻まれていると思っています。幸運にも、私自身、日本ビーチサッカー界をけん引してきた田畑輝樹さん、宜野座寛也さん、小牧正幸さんから数多くの素晴らしい選手と共にプレーして学んだことを選手たちに伝えています。

ビーチサッカーの技術やポジショニング、戦い方や考え方、戦う気持ち、仲間への声掛け、仲間を思いやる気持ちなど多くのことが、選手たちの血肉となってこの優勝につながっています。先人たちの経験は今なお輝きながら未来ある子どもたちを成長させてくれること、そして経験というものは何ものにも代え難いとあらためて強く認識しました。

選手たちはビーチサッカーを楽しむことを積み重ねた結果、宝物のような経験をすることができました。日本一になれたことも素晴らしいですが、最も誇りに思うのは困難な状況をみんなで力を合わせて乗り越えたことです。

この素晴らしい経験を生かしながら、これからもビーチサッカーを多くの人に楽しんでもらえるように、まずは自分たちが楽しんでいきます。そして、

カルナヴィスタから日本を代表する選手、世界で活躍する選手を送り出していきたいと考えています。



カルナヴィスタの活動に触れてビーチサッカーの楽しさを感じてもらいたい



日本障がい者サッカー連盟便り



2023年度の振り返りと2024年度に向けて

一般社団法人日本ろう者サッカー協会 専務理事 浜津哲也

<https://www.jiff.football/>

2023年度はデフサッカー、デフフットサル共に実りの多い年となりました。デフサッカーは、2023年9月に開催された「第4回ろう者サッカー世界選手権大会(マレーシア)」で、男子日本代表が史上初の準優勝という結果を残しました(同大会で女子日本代表は5位)。

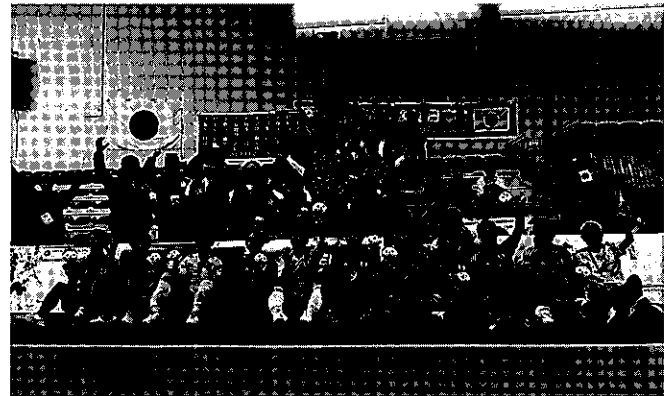
また、同年10月に開催された「第5回ろう者フットサル世界選手権大会(ブラジル)」では、デフフットサル女子日本代表が優勝を収め、同男子日本代表が3位と、男女共に史上初となる快挙を成し遂げました。快進撃はとどまることなく、今年3月に開催された「第20回冬季デフリンピック競技大会(トルコ)」では、デフフットサル男子日本代表が準優勝を飾りました(同女子日本代表は5位)。新型コロナウイルスの影響により、国際大会は数年ぶりでしたが、これまで参加できなかった鬱憤を晴らすかのように選手たちは大きく躍動し、飛躍の年となりました。

一方で対面式のイベントも多く開催することができ、聴覚支援学校や小・中・高校、大学、プロサッカー、フットサルチームでは講演会や体験会などを実施しました。

2024年度は「デフリンピック2025(日本)」に向けて準備をする年となりますので、パートナー企業さま、協会、選手、スタッフ、関係者一丸となり盛り上げていきたいと思っております。

国際大会についてはデフサッカー・デフフットサル共に落ち着く年

になります。これまでとは異なり、デフサッカー/デフフットサル日本代表共に追われる立場に変わったことで、世界からの見る目も変わってきますし、より研究もされると思います。そうした中で結果を残すのは容易なことではありませんが、応援していただいている方々に夢と希望を与えられる戦いができるようにしっかりと準備をしていきます。普及活動や育成活動も、引き続き全国でイベントや催しを開催しますので、ぜひご参加ください。2024年度も皆さまと共に成長していきたいと思っています。応援のほど、よろしくお祈りいたします。



冬季デフリンピック決勝戦後の集合写真(デフフットサル男女日本代表)

なでしこひろば便り



鳥根県立大学松江キャンパス「なでしこひろば」の取り組み

鳥根県立大学 短期大学部保育学科 准教授 中谷昌弘

<http://www.jfa.jp/nadeshikohiroba/>

2023年4月に鳥根県立大学に着任し、同年10月から今年3月まで「なでしこひろば」を計7回開催しました。始めた理由は大学教員としての地域貢献活動が一つにあります。長く女子サッカーに関わってきた経験から、運動指導に関心がある学生を増やし、学生たちに少しでも長くスポーツに関わってほしいという思いがあったからです。また、運動好きな子どもを増やすことは、地域を元気にすることにもつながります。なでしこひろばを通じて、地域の子もたちに「体を動かすことは楽しい」としてもらいたいという気持ちもありました。

ただ、なでしこひろばを開催するにあたり、課題もありました。一番の課題だったのは開催告知です。SNSなどで発信しても、サッカーに関心がなければ気づいてもらえません。そこで松江市のこども政策課にお願いし、幼稚園などに通っている3~5歳の全女児約1,000人を対象に案内チラシを配布しました。また、地域の小学校にはチラシを持参して配布を依頼しました。そうした取り組みによって、今では毎回40人前後の子もたちが参加してくれるようになりました。

なでしこひろばの実施にあたっては鳥根県サッカー協会にも協力していただき、キッズリーダー講習会を併催。なでしこひろばで指導する学生93人にキッズリーダー資格を取得してもらいました。資格を取ることで、学生たちが将来、保育士や幼稚園教諭、小学校教諭

になってもサッカーと関わり続けることができると考えたからです。また、県内唯一の女子サッカー部がある松江商業高校とも、なでしこひろばでの指導者交流を継続的にやり、高・大連携を強化する取り組みも始めました。

今後は参加者を増やし、全県展開を計画しています。鳥根県は人口が少なく東西に長い県です。鳥根県立大学のキャンパスも松江市と出雲市、浜田市と東西に点在していますので、その特徴を生かし、なでしこひろばの拡大に取り組む考えです。最終的には、鳥根県における女子サッカーの普及と、ロールモデルとなる女子選手の発掘に貢献できればと考えています。鳥根県では2030年に国民スポーツ大会が開催されます。国スポ開催は地域スポーツの活性化の貴重な機会なので、このことも意識して活動したいと考えています。



なでしこひろばを通じて地域を元気に!

サッカーなら、どんな障害も超えられる。

日本の人口の7%は障がい者です。その障がいは多様で、ひとつとして同じ在り方はありません。
障がいがあっても、いつでも、どこでも、サッカーを心から楽しめる環境を。
彼ら彼女らが社会にある"障害"を超えていくきっかけづくりやサポートも、サッカーならできる。
私たちはそう信じて、日本障がい者サッカー連盟を推進していきます。

障がい者サッカー7団体は、日本サッカー協会と連携し、サッカー界の発展のために取り組みます。



切断障がい



脳性麻痺



精神障がい



知的障がい



電動車椅子



視覚障がい



聴覚障がい

日本アンブティサッカー協会

アンブティサッカーとは、足や腕に切断障がいのある人が行う7人制サッカーです。日常生活で使用する義足・義手を外してロフトスタンドクラッチで体を支えながらプレーします。

日本ソーシャルフットボール協会

ソーシャルフットボールとは、精神障がいのある人が行うフットサルやサッカーです。基本ルールは健常者と同じで、フットサルでは女子選手を含む場合に最大6人がコートでプレーするなど、一部特別ルールを採用しています。

日本知的障がい者サッカー連盟

知的障がい者サッカーとは、知的障がいのある人が行う11人制サッカーです。フットサルも行っています。ルールは健常者のサッカー・フットサルと同じで、プレーヤーの障がいの度合いにより試合時間が異なります。

日本電動車椅子サッカー協会

国際的にはパワーチェアフットボールと呼ばれ、自立歩行が困難な重度の障がいのある人が多く行う4人制サッカーです。手やアゴでジョイスティック型のコントローラーを操り、電動車椅子でプレーします。

日本CPサッカー協会

CPサッカーとは、脳の損傷によって運動障害がある人が行うサッカーです。Cerebral (脳からの) Palsy (麻痺) の頭文字をとり、そう呼ばれています。

日本ブラインドサッカー協会

ブラインドサッカーとは、視覚障がいのある人が行う5人制サッカーです。転がると音が出るボールを使用し、まわりの声を頼りにプレーします。2004年からパラリンピックの正式種目です。弱者がプレーするロービジョンフットサルもあります。

日本ろう者サッカー協会

デフサッカーと呼ばれる、聴覚障がいのある人が行うサッカーです。サッカーとフットサルがあり、審判は笛だけではなくフラッグも使用するなど、視覚情報を頼りにプレーします。



一般社団法人 日本障がい者サッカー連盟

公式ユニフォームサプライヤー



パートナー



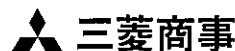
東京海上日動



支援団体



日本サッカー後援会





JAPAN NATIONAL TEAM

Japan National Team would like to thank its partners for their support.

SAMURAI BLUE



©JFA/TOYO TIRES CUP 2024 対タイ代表 先発メンバー(2024.1.1)

JFA OFFICIAL TOP PARTNER



KIRIN

JFA OFFICIAL SUPPLIER



JFA MAJOR PARTNER

ANA

SAISON

au

 三井不動産
MITSUI FUDOSAN

MIZUHO

MS&AD

TOYO TIRES

JFA NATIONAL TEAM PARTNER

APA HOTEL

TOYOTA

読賣新聞

JFA新体制発足

第15代会長に宮本恒靖が就任

者が会長に就任するのは初めて。

昨年7月に開催した臨時評議員会で決まった「理事会体制と業務執行体制の基本方針」により、理事はこれまでの27人から15人へと大幅に削減された(下表参照)。また、スポーツ庁の「スポーツ団体ガバナンスコード(中競技団体向け)」に定められている外部理事(25%以上)と女性理事(40%以上)の

目録割合を達成した。理事会終了後、就任会見に立った宮本会長は「今までも日本サッカー界のためにしっかりと仕事をしようとしてきたが、さらにその気持ちを強く持って日本サッカーをより良くしていきたい。日本の、

そして世界のサッカー、スポーツの発展に貢献していきたい」と所信を表明。2012年7月、自身の引退試合で語った「この国においてサッカーをもっと大きな存在にしたい」という言葉を出し、「この言葉は、選手時代から現在に至るまで常に私の中にある。サッカーが社会を元気にする、人々を喜ばせられるようなことをこれからも生み出していきたい」と話した。また、その原点にあるのは「JFA2005年宣言」であることも強調し、活動方針として掲げている8つの方針(※)を示した。また、競技面の成果を上げることと女子サッカーの拡大、サッカーの商業的価値の向上に言及し、女子サッカーについて2031年のFIFA女子ワールドカップ招致を目指す意向を示した。

これからのJFAについて、「発信と露出の機会を工夫して、(多くの人々ともっとコミュニケーションが取れるような組織にして

いきたい」と宮本会長。2005年宣言の実現のため、先を見据えてさまざまな布石を打っていく必要があるとし、「自分一人の力だけではできない。大勢の人々を巻き込んで、みんなですべてを達成したい」と話した。

(次号で宮本会長のインタビューを掲載予定)



日本サッカー協会(JFA)は

3月23日、同日の定時評議員会で承認された新役員による理事会を開催し、理事の互選により宮本恒靖専務理事が第15代JFA会長に選任した。Jリーグの元選手、FIFAワールドカップ出場経験

目標割合を達成した。

理事会終了後、就任会見に立った宮本会長は「今までも日本サッカー界のためにしっかりと仕事をしようとしてきたが、さらにその気持ちを強く持って日本サッカーをより良くしていきたい。日本の、

そして世界のサッカー、スポーツの発展に貢献していきたい」と所信を表明。2012年7月、自身の引退試合で語った「この国においてサッカーをもっと大きな存在にしたい」という言葉を出し、「この言葉は、選手時代から現在に至るまで常に私の中にある。サッカーが社会を元気にする、人々を喜ばせられるようなことをこれからも生み出していきたい」と話した。また、その原点にあるのは「JFA2005年宣言」であることも強調し、活動方針として掲げている8つの方針(※)を示した。また、競技面の成果を上げることと女子サッカーの拡大、サッカーの商業的価値の向上に言及し、女子サッカーについて2031年のFIFA女子ワールドカップ招致を目指す意向を示した。

■理事会メンバー(15名)

役職	名前	年齢	兼職
会長	宮本恒靖	47歳	
副会長	岡田武史	67歳	(株)今治、夢スポーツ代表取締役会長
副会長	野々村芳和	51歳	(公社)日本プロサッカーリーグチェアマン
副会長	西原一将	48歳	(株)西原商会代表取締役社長、(株)鹿児島プロスポーツプロジェクト取締役、(一社)鹿児島県サッカー協会会長
専務理事	湯川和之	56歳	(一財)日本ビーチサッカー連盟副会長
常務理事	高田春奈	46歳	(公社)日本女子プロサッカーリーグチェア、(一社)日本女子サッカーリーグ理事長、(公社)日本プロサッカーリーグ特任理事、(一財)全日本大学サッカー連盟理事
常務理事	山口香	59歳	筑波大学体育系教授、コナミグループ(株)社外取締役、日本BS放送(株)社外取締役
理事	河瀬淳	62歳	(公社)千葉県サッカー協会専務理事、(一社)関東サッカー協会専務理事
理事	田中琢二	62歳	同志社大学客員教授
理事	西本強	50歳	日比谷パーク法律事務所パートナー弁護士、米国ニューヨーク州弁護士、(株)ブロードリーフ社外監査役、(株)島津製作所社外監査役、(株)エニゴモ社外取締役
理事	大岩真由美	51歳	(公財)北海道サッカー協会副会長、室蘭地区サッカー協会副会長、登別市内中学校勤務
理事	小澤隆生	52歳	Boost Capital(株)代表取締役、LINEヤフー(株)顧問
理事	川澄奈穂美	38歳	アルビレックス新潟レディース選手
理事	志清聡子	61歳	中外製薬(株) 上席執行役員、パナソニックコネク(株)社外取締役、(株)三菱総合研究所社外取締役
理事	須藤実和	60歳	(株)プラネットプラン代表取締役、(株)アシックス社外取締役、(株)カチタス社外取締役、(株)コーサー社外取締役、(株)関電工社外取締役、(公財)日本オリンピック委員会理事、(公財)日本バレーボール協会副会長

※その他役員等については49~50ページ参照

会議レポート



公益財団法人日本サッカー協会 2024年度第3回理事会

公式URL https://www.jfa.jp/about_jfa/report/executive_committee.html



日本サッカー協会（JFA）は2024年3月7日、2024年度第3回理事会をJFAハウスとオンラインによるハイブリット形式で開催した。決議、報告された事項は、下記の通り。

決議事項

- | | |
|--------------------------------------|--------------------------------------|
| 1 定時評議員会開催…………… P40 | 4 ユニフォームへの能登半島地震復興支援メッセージ表示…………… P40 |
| 2 理事15名および監事1名 選任…………… P40 | 5 懲罰規程 改正…………… P41 |
| 3 業務執行体制の再編に基づく各種規則の改正および新設…………… P40 | |

定時評議員会 開催

下記の通り、定時評議員会を開催する。

開催日時：2024年3月23日（土）13:00～

開催方法：JFA会議室およびウェブ会議システム

議題：●決議事項

- (1) 評議員3名 選任の件

- (2) 理事15名および監事1名 選任の件

- (3) 役員及び評議員の報酬並びに費用に関する規則 改正の件

●報告事項

- (1) 2023年度事業報告および決算の件

- (2) 理事会で選定・選出する役員等予定者の件

理事15名および監事1名 選任

役員等推薦委員会にて推挙された次期役員等（理事、監事、3委員長、名誉役員）について、理事および監事については3月23日の定時評議員会に付議し、3委員長

および名誉役員については同日開催の理事会に付議する。

※詳細は46～50ページ参照

業務執行体制の再編に基づく各種規則の改正および新設

ガバナンス改革における業務執行体制および委員会の再編方針に対応し、関連する規則の改正および新設をする。

●改正する規則

- (1) 各種委員会組織運営規則

【改正の概要】

委員会の再編方針に基づき、委員会の編成と各委員会の所管事項を変更、整理

- (2) 事案決裁規則

【改正の概要】

- ① 業務執行体制の再編方針に基づき、各決裁者（会長、専務理事、事務総長、特定の委員会の委員長、事務局）の決裁権限を整理

- ② 会長の決裁事案について単独決裁と政策会議の審議をもって決定する決裁に分類

- ③ 決裁者の区分に基づく執行額を規定

- ④ その他適正化のための修正

●新設する規則

- (1) 政策会議組織運営規則

【新設規則の概要】

- ① 業務執行体制の再編方針に基づく政策会議の設置およびその組織、運営に係る必要な事項について、規則を新設

- ② 構成、開催頻度、招集、改正について規定

ユニフォームへの能登半島地震復興支援メッセージ表示

能登半島地震におけるサッカーファミリーの復興支援活動を後押しすることを目的に「ユニフォーム規程」第5条(7)①の「大会マーク及びキャンペーンマーク等」を下記の通り指定し、被災地の復興を願うメッセージをユニフォームに掲出できるようにする。

なお、表示を希望するチームは、所属する都道府県サッカー協会に申請して事前に承認を得るものとし、承認した協会はJFAに報告する。

●指定するメッセージ

- (1) がんばろうニッポン！
- (2) がんばろう能登！
- (3) がんばろう〇〇（被災自治体名）！

- (4) 被災地に力を UNITED TOGETHER

●指定する期間

2024年3月7日から2025年3月31日

【関連規則】

●サッカー競技規則

第4条 競技者の用具

- 5. スローガン、メッセージ、イメージと広告

用具には、政治的、宗教的もしくは個人的なスローガンやメッセージまたはイメージをつけてはならない。

左ページ左上へ続く

●

原則

・次のは、(通常)着用が認められる。
競技者の番号、氏名、チームの紋章やロゴ、サッカーの試合やリスペクト、インテグリティの促進を主張するスローガンやエンブレム、さらには競技会規定もしくは各国サッカー協会、大陸連盟またはFIFAの規則により認められる商業的広告

競技規則の解釈

・特定の政治的行動やイベント
競技会規定には、具体的に、表示が認められるスローガン、メッセージ、イメージおよび広告の大きさ、数、表示位置に関して、詳細な規制や制限を含めることができる。スローガン、メッセージまたはイメージに関する論議は、試合や競技会が始まる前に解決しておくことが勧められる。

●ユニフォーム規程

第5条 [ユニフォームへの表示]

(7)その他

①大会マーク及びキャンペーンマーク等

本条本文の規定にかかわらず、本協会又は公式競技会主催者が指定した場合、大会マーク及びキャンペーンマーク等を表示することができる。当該大会マーク及びキャンペーンマーク等を表示する場合の場所及びサイズは、次のとおりとする。

シャツ

場所 : 任意

サイズ : 50cm²以下

懲罰規程 改正

懲罰規程を改正する(施行日:2024年4月1日)。改正の主なポイントは下記の通り。

(1)[退場]に伴う懲罰(違反行為の分類及び量刑)の国際基準に合わせた見直し
[退場]に伴う出場停止等に関する規定について、FIFAおよびAFC等の懲罰規程の改定等に伴い、JFAの懲罰規程はこれらが定める国際的基準と一部乖離があるため、これを是正するもの(違反行為の分類及び量刑)。
なお、本改正に関し、年度をまたいで開催される大会の場合など特別の事情がある場合は、主催の加盟団体の別段の決議により、当改正の適用開始日を施行日(本年4月1日)から前後して設定することを妨げないものとする。

(2)裁定委員会・規律委員会の懲罰基準について(該当箇所:第27条第2項、第34条第3項)

行為が競技および競技会に関連して生じることを想定して設置されている各規定は、対象行為が競技および競技会以外において行われた場合であっても適用可能であること、反対に、競技および競技会以外の場面において生じることを想定した各規定(第34条)は、対象行為が競技および競技会に関連して行われた場合にも適用可能であることを、それぞれ確率的に明確化する。

(3)不服申立委員会の事案の公表(該当箇所:第48条の2)

裁定委員会および規律委員会の決定の公表(第23条の2)と同様に、不服申立委員会の決定およびその概要についても同様の公表基準の下、公表することとする。

(4)その他

その他各種表現の適正化のための修正を行う。

報告事項

- 1 AFC Reform Taskforce (AFC改革タスクフォース) P41
- 2 能登半島地震復興支援 P41
- 3 2024年男子ユースディベロップメント体制 P41
- 4 47都道府県サッカー協会におけるFAコーチ P42
- 5 2024年度JFAマッチコミッショナー新規認定者 P42
- 6 JFA・Jリーグ特別指定選手制度 P42
- 7 指導者ライセンス認定:S級コーチライセンス P43

- 8 指導者ライセンス認定:A級コーチジェネラルライセンス P43
- 9 JFAアカデミー熊本宇城 スクールマスター交代 P44
- 10 審判員・審判指導者の海外派遣 P44
- 11 2023年度フットサル1級審判員認定 P44
- 12 2024年度1級審判インストラクター認定 P45
- 13 2024年度1級審判インストラクター養成講習会受講者 P45
- 14 審判員表彰 P45

AFC Reform Taskforce (AFC改革タスクフォース)

2023年12月21日のAFC理事会において創設が決まったAFC Reform Taskforce (AFC改革タスクフォース)のメンバーに、2024年2月13日付で田嶋幸三会長が任命された。同タスクフォースのメンバーは下記の通り。

AFC Reform Taskforce (AFC改革タスクフォース)※任期:2023~2027年
委員長 : Mr. Hachem HAIDER (レバノン)

副委員長: Maj. Gen. Sameth KHIEV (カンボジア)

メンバー: 田嶋幸三(日本)、Ms. Kanya KEOMANY (ラオス)、Dr. Ahmad Reza BARATI (イラン)

能登半島地震復興支援

能登半島地震復興支援プロジェクトの活動について報告する。
※詳細はJFAウェブサイト参照

2024年男子ユースディベロップメント体制

2024年男子ユースディベロップメント体制を右記の通り、決定した。

●ユースディベロップメント体制 (JFAコーチ/FAコーチ)※追加
佐藤貴則 (和歌山FAコーチ)

47都道府県サッカー協会におけるFAコーチ

47都道府県サッカー協会におけるFAコーチの選任については、2019年1月理事会で47都道府県サッカー協会（FA）向け補助金交付を決議し、各FAと協議の上、技術委員会が決定することとした。これを受け、FAから申請のあった候補者について技術委員会で審査を行った結果、新たに1FAで決定した。
今後、未定となっているFAについては申請があり次第、随時審査を行う。

既設置FA : 35FA
今回決定したFA : 1FA ※奈良県FA（新規）
合計 : 36FA

【47FAコーチ一覧】

（専任者配置FA数：36/47FA）

No	FA名	名前	保有ライセンス	備考
1	奈良県	吉田智尚	A級ジェネラル	今回報告 (2024年4月就任予定)

2024年度JFAマッチコミッショナー新規認定者

「JFAマッチコミッショナー認定制度」に基づき、205名を新規JFAマッチコミッショナーとして認定する。
都道府県サッカー協会の推薦を受け、eラーニングによる講習会の受講を完了している。

<2024年度新規JFAマッチコミッショナー認定者一覧（205名）>

北海道 : 相澤新一、秋山康平、阿部功、阿部雄一郎、石井一矢、伊藤一志、蝦名宏美、大坂誠二、尾濱勝巳、柏木祐次、金子聡、小柳信、佐々木謙太郎、佐藤幸喜、鈴木敏之、関口航太、高橋良介、武田健介、谷木竜平、榎直人、戸田心、西谷崇宏、則末俊介、橋本美湖、三澤絢子、村木俊介、吉澤良典、吉田賢三、吉藤佑一

青森県 : 櫻田早苗、沢目秀樹、志田志津香、梶館慎哉、永洞頼之、成田麗、袴田有斗

岩手県 : 照井洋智

宮城県 : 菊池宏志、佐藤圭介、芳賀秀太

秋田県 : 石橋大輔

福島県 : 成田憲一、長谷川和彦

茨城県 : 古谷野明久

栃木県 : 岩崎陸、臼井紀仁、岡田誠一、佐藤洋、館岡孝弘、前田隆志、横剛

群馬県 : 御供英宏

埼玉県 : 茂田友和、常岡大展、二見元

千葉県 : 小栗山浩史、多田菜穂子、長谷川鉄哉、林雅之、藤崎翔平、山本一広

東京都 : 青木実、浅井資夫、江川純子、小川知子、塚原美恵、三井耕

神奈川県 : 青木洋師、岩永豊司、大澤江梨子、木村みき、鈴木隆一、田崎徹、細田悠哉、翠茂樹、三杉和彦

長野県 : 大日方時雄、笠原康稔、小林祐毅、櫻井勇介、下條貴史、関谷北斗、武内英郎、福島嘉宏、堀江三定

新潟県 : 磯部智洋、伊藤学、平野勝人、松島靖師、森泰

富山県 : 荒川哲朗、上田裕次、櫻柴亮介、戸田博康、中田雅也、茂木拓也

福井県 : 大塚一輝、岡本英憲、鎌田康裕、木内宏、斉藤佳之

静岡県 : 青木良介、櫻井大輔、西野照美、望月省吾、森谷理

愛知県 : 藤田和也

岐阜県 : 池田卓也

京都府 : 木村健二、児島信章、西村慶太、藤井健太

大阪府 : 岡部政樹、稲葉素久、清水崇之、中川佳裕、福井英三

兵庫県 : 魚住政充、有年敏嗣、大森昭雄、浜崎達也、東森賢吾、廣田晴彦、船津大輔、三浦良二

和歌山県 : 尾前真一

島根県 : 青木修、藤田大介、山根幸一

山口県 : 小倉和彦、加藤浩、児玉英樹、坂本靖志、末永和文、竹中謙二、田畑宏一、田村卓巳、田村陸、溝部真一郎、向野邦彦、村中秀二

徳島県 : 高田恵二

高知県 : 山崎美奈実

福岡県 : 一木達哉、井上夢翔、宇野英二、河島美絵、坂元瑞貴、柴田貴紀、末永剛、立石ゆかり、谷水健悟、鶴原一徳、鍋田雄飛、成井康平、久本晃三、福本拓志

佐賀県 : 木原智典、中島泰成斗、長谷川大貴

長崎県 : 荒木隆彦、七條直樹

熊本県 : 合澤正裕、岩田直大、牛島智博、緒方宏臣、志水慶彬、鈴木真司、寺本孝弘、中村公英、野元恒兵、橋元尚彦、原和秀、広川靖二、福島敬幸

大分県 : 荒川加奈子、秋元昭一、熊谷志保、中島大成、中畑光宏、三浦喜穂孝

宮崎県 : 今村曉馬、川島健吾、後藤優太郎、下徳友樹、戸田雅博、藤田博

鹿児島県 : 加藤光明、木原健、佐田直哉、白石隆晃、堀ノ内大介、前原知広、松木園貴、山田友輝

沖縄県 : 新純一、宜野座靖、國吉勝也、白金広朗、高柳一誠、高良すみれ、前城淳、宮城嘉也、森山慶、山城尚彦

JFA・Jリーグ特別指定選手制度

(1)選手 : 吉野陽翔(よしの・はると)
所属チーム : 立正大学体育会サッカー部
受け入れ先 : 栃木SC
所属歴 : 昭和・戸祭サッカークラブ
栃木サッカークラブジュニア
栃木サッカークラブジュニアユース
栃木サッカークラブユース
栃木SC U-18
立正大学体育会サッカー部
認定日 : 2024年2月6日

(2)選手 : 沖田空(おきた・そら)
所属チーム : 筑波大学蹴球部
受け入れ先 : 水戸ホーリーホック

所属歴 : 成田サッカースポーツ少年団
鹿島アントラーズジュニア
鹿島アントラーズジュニアユース
鹿島アントラーズユース
筑波大学蹴球部
認定日 : 2024年2月6日

(3)選手 : 有働夢叶(うどう・しゅうと)
所属チーム : 中京大学体育会サッカー部
受け入れ先 : 大分トリニータ
所属歴 : 山田荘サッカークラブ
奈良YMCAサッカークラブジュニアユース
興国高校
中京大学体育会サッカー部

左ページ上へ続く

認定日 : 2024年2月13日

(4)選手 : 木戸柊摩(きど・しゅうま)
所属チーム: 大阪体育大学学友会サッカー部
受け入れ先: 北海道コンサドーレ札幌
所属歴 : CASCABEL SAPPRO U-12
コンサドーレ札幌U-15
北海道コンサドーレ札幌U-15
北海道コンサドーレ札幌U-18
大阪体育大学学友会サッカー部
認定日 : 2024年2月13日

(5)選手 : 新井悠太(あらい・ゆうた)
所属チーム: 東洋大学体育会サッカー部
受け入れ先: 東京ヴェルディ
所属歴 : 高崎FC中川
前橋フットボールクラブ
群馬育英学園私立前橋育英高校
東洋大学体育会サッカー部
認定日 : 2024年2月13日

(6)選手 : 中野瑠馬(なかの・りゅうま)
所属チーム: 立命館大学体育会サッカー部
受け入れ先: 京都サンガF.C.
所属歴 : 高石中央サッカースポーツ少年団
賢明サッカークラブ
京都サンガF.C.U-18
立命館大学体育会サッカー部
認定日 : 2024年2月13日

(7)選手 : 佐藤颯真(さとう・そうま)
所属チーム: 東海学園大学サッカー部
受け入れ先: 横浜FC
所属歴 : 尾西フットボールクラブ
愛知FC.SS
愛知フットボールクラブ庄内U-15
東海学園高校
東海学園大学サッカー部
認定日 : 2024年2月13日

指導者ライセンス認定: S級コーチライセンス

S級コーチ養成講習会において、国内外インターンシップを含む全てのカリキュラムを修了し、全ての評価項目において合格した下記4名について、「指導者に関する規則」第4条「ライセンスの認定」に基づき、S級ライセンスを付与した。

【2023年度】

(3)名前 : 明神智和(みょうじん・ともかず)
指導チーム: ガンバ大阪ユース
生年月日 : 1978年1月24日
資格 : 2022年 A級コーチジェネラルライセンス取得
指導歴 : 2019~2020年 ガンバ大阪ジュニアユースコーチ
2020~2023年 ガンバ大阪ユースコーチ

(4)名前 : 平塚次郎(ひらつか・じろう)
指導チーム: 湘南ベルマーレ
生年月日 : 1979年12月2日
資格 : 2014年 A級コーチジェネラルライセンス取得
指導歴 : 2004年 湘南ベルマーレ普及コーチ
2005~2006年 湘南ベルマーレ小田原U-13 コーチ
2007年 湘南ベルマーレ小田原U-15 監督
2008年 湘南ベルマーレU-18 コーチ
2009年 湘南ベルマーレ U-15平塚 監督
2010年 湘南ベルマーレU-18 監督
2011年 湘南ベルマーレU-18 コーチ
2012~2017年 湘南ベルマーレU-13平塚 コーチ
2018~2019年 湘南ベルマーレU-15 監督
2020~2023年 湘南ベルマーレU-18 監督
2024年 湘南ベルマーレ アカデミーダイレクター兼 U-18監督

※2023年度S級コーチ認定者数: 14名/20名中(上記2名含む)

※現S級コーチライセンス保持者数: 568名(上記4名含む)

【2020年度】

(1)名前 : 柳澤敦(やなぎさわ・あつし)
指導チーム: 鹿島アントラーズFC
生年月日 : 1977年5月27日
資格 : 2017年 A級コーチジェネラルライセンス取得
指導歴 : 2015~2017年 鹿島アントラーズFC トップコーチ
2019~2020年 鹿島アントラーズユース コーチ
2021~2023年 鹿島アントラーズユース 監督
※2020年度S級コーチ認定者数: 16名/16名中(上記1名含む)

【2021年度】

(2)名前 : 古川毅(ふるかわ・つよし)
指導チーム: 徳島ヴォルティス
生年月日 : 1972年9月21日
資格 : 2012年 A級コーチジェネラルライセンス取得
指導歴 : 2005~2006年 京都サンガF.C.Jrユース コーチ
2007~2008年 京都サンガF.C.ユース コーチ
2009~2011年 札幌大学 ヘッドコーチ
2012~2019年 東洋大学 監督
2020年 横浜FC コーチ
2022年 SC相模原 アカデミーダイレクター
2022年5月~ SC相模原 ヘッドコーチ
2023年~ 徳島ヴォルティス コーチ
※2021年度S級コーチ認定者数: 16名/16名中(上記1名含む)

指導者ライセンス認定: A級コーチジェネラルライセンス

A級コーチジェネラル養成講習会の全てのカリキュラムを修了し、技術委員会が適格と認められた者に対し、「指導者に関する規則」第4条「ライセンスの認定」に基づき、A級コーチジェネラルライセンスを付与した。

<2023年A級コーチジェネラル養成講習会(163名)>

■地域サッカー協会推薦(78名)

北海道: 及川真行、堀井健仁、高松勇輔、高橋怜央
東北: 中田洋介、鈴木真暢、新井英晴、飛奈優太、佐原明良、山本清治、中村雅俊
関東: 野木悟志、飯田優二、前原拓哉、谷口浩平、米山雄大、藤島周土、渡邊海、杉本真、綿貫一成、藤原隆詞、田端悠、石井豪、森川潤、柳澤宏太、林晋太郎、草間洋平、楠瀬章仁、加藤健太郎
北信越: 野崎正悟、赤羽千尋、関靖、角直也、青木大悟

次へ>> 左上へ戻る<<

- 東海 : 藤田雄介、奥山大輔、佐々木優一、鈴木真平、服部慎司、三宅俊輔、澤野建太、鈴木理一郎
- 関西 : 大田知宏、古賀賢、大藪智彦、高山敦嗣、泉佳孝、大國篤史、山口敬介、高石誠、金亨勲、山崎周造、角島康介、松本祐
- 中国 : 吉田優哉、上田真宏、加藤毅、渡辺康則、篠田一義、村山太亮、伊藤豊洋
- 四国 : 渡部蒼也、石橋稜、楠瀬教仁、高木弘仁、松村涉
- 九州 : 須和部謙、悦田嘉彦、久留貴昭、倉内丞二、岡松伸弥、佐藤祐介、内田俊明、柳崎祥兵、手塚昌希

■Jリーグ推薦 (33名)

大野貴史、横谷亮、谷口靖明、中津留奨吾、奈良安剛、保坂一成、有園真吾、梶田隼渡、田中達也、野口良太、小林亮、栗澤慎一、藤本雅智、白石通史、前迫雅人、中村直志、児玉新、西山貴永、塚本翔平、西原蒼志、池田康平、鈴木俊祐、米田兼一郎、安藤洋一、前田悠佑、清水恭孝、國仲厚助、永田亮太、大西真樹、甲本偉嗣、岡本賢明、今井謙太郎、宇野勇気

■JPFA推薦 (8名)

小松原学、小川佳純、大谷秀和、増嶋竜也、枝村匠馬、那須大亮、塩田仁史、小原章吾

■JFL推薦 (7名)

村田純平、高橋祐貴、鬼木遥平、辻翔太、佐藤洸一、坂本和哉、芝脩希

■全日本大学サッカー連盟推薦 (6名)

西孝幸、高橋宏次郎、高安亮介、榎本雅之、石間寛人、和田憲明

■日本クラブユース連盟推薦 (2名)

根本豊、高村史也

■全国社会人連盟推薦 (1名)

山内義博

■女子委員会推薦 (2名)

有町紗央里、角田英子

■WEリーグ・なでしこリーグ推薦 (7名)

佐藤亘、伊藤香菜子、詫間美樹、南山千明、水永翔馬、中上智晴、山田岳暁

■JFA推薦 (12名)

中村俊輔、松井大輔、武内隆司、杉野拓也、佐藤寿人、北川和人、井出大志、三好毅典、横野智章、稲葉政行、大塚慶輔、吉田恵介

■複数年受講 (10名)

田上裕裕、吉田健太、持田和明、生方育大、妹尾隆佑、田中宏昌、山本真也、保井隼人、大坪裕典、浅海友峰

※2023年度新規受講生160名+持ち越し12名=172名

JFAアカデミー熊本宇城 スクールマスター交代

JFAアカデミー熊本宇城の設立当初より、同アカデミーのスクールマスターを務めていた井薫氏の3月末での退任に伴い、右記の通り、新たにスクールマスターを選任する。

(現)井薫 (一般社団法人熊本県サッカー協会 特別顧問)

2024年3月31日退任予定

(新)河田信之 (一般社団法人熊本県サッカー協会 会長)

2024年4月1日就任予定

審判員・審判指導者の海外派遣

委員会、大会、試合など	役職	名前	試合日または派遣(受け入れ)期間	場所
AFCアジアカップカタール2023™	審判員	木村博之、飯田淳平、荒木友輔、山下良美、三原純、嵯峨巧、坊園真琴、手代木直美	1月12日~2月10日	ドーハ/カタール
FIFAビーチサッカーワールドカップUAE2024™	審判員	波多野祐一	2月15日~2月25日	アラブ首長国連邦(UAE)
AFCチャンピオンズリーグ2023/24 ノックアウトステージ NAVBAHOR (UZB) vs AL ITTIHAD (KSA)	審判員	飯田淳平、渡辺康太、嵯峨巧、荒木友輔、木村博之、笠原寛貴	2月15日	ナマンガン/ウズベキスタン
AFC Referees Recruitment - Football & Futsal (Men)	審判員	高崎航地、長峯滉希	2月19日~2月21日	クアラルンプール/マレーシア
AFC Women Referees & Assistant Referees Selection (Football)	審判員	一木千広	2月19日~2月22日	クアラルンプール/マレーシア
FIFA Seminar for Elite Referees from AFC, CAF and OFC	審判員	荒木友輔	2月26日~2月29日	ドーハ/カタール
AFC Referee Academy Batch 2019 - Advanced Module 1	審判員	長峯滉希	2月26日~3月1日	クアラルンプール/マレーシア
Women's Olympic Football Tournament Paris 2024 - Preliminary Competition - AFC-Round 3 Second Leg Australia vs Uzbekistan	審判員	山下良美、坊園真琴、手代木直美、杉野杏紗	2月28日	メルボルン/オーストラリア
AFCアジアカップカタール2023™	審判指導者(インストラクター)	上川徹	1月12日~2月10日	ドーハ/カタール
AFC Referees Recruitment - Football & Futsal (Men) & AFC Women Referees & Assistant Referees Selection (Football)	審判指導者(インストラクター)	深野悦子	2月17日~2月23日	クアラルンプール/マレーシア
Seminar for FIFA Referee Instructor in Dubai	審判指導者(インストラクター)	山岸佐知子	2月19日~2月22日	ドバイ/UAE
AFC Referee Academy Batch 2019 - Advanced Module 1	審判指導者(インストラクター)	山岸佐知子	2月24日~3月2日	クアラルンプール/マレーシア

2023年度フットサル1級審判員認定

審判委員会で新規フットサル1級審判員の認定審査を実施し、下記の3名をフットサル1級審判員に認定した。

(1)川守田美咲(かわもりた・みさき) 東北/岩手県 29歳

(2)佐山志功(さやま・しこう) 関東/東京都 28歳

(3)高橋凜平(たかはし・りんべい) 関東/東京都 23歳

※地域/都道府県順。年齢は2024年4月1日現在

2024年度1級審判インストラクター認定

審判委員会で新規1級審判インストラクターの認定審査を実施し、下記の10名を1級審判インストラクターに認定した。

- (1) 藤井陽一 (北海道)
- (2) 井脇真理子 (関東/茨城県)
- (3) 柿沼亨 (関東/茨城県)
- (4) 高山啓義 (関東/栃木県)

- (5) 佐藤貴之 (関東/東京都)
- (6) 高橋早織 (関東/東京都)
- (7) 山際将史 (北信越/長野県)
- (8) 清水崇之 (関西/大阪府)
- (9) 松尾一 (関西/大阪府)
- (10) 戸田東吾 (四国/高知県)

2024年度1級審判インストラクター養成講習会受講者

2024年度1級審判インストラクター養成講習会の受講者について、2024年1月にトライアルを実施し、選考した結果、下記の通り決定した。

- (1) 平石暁史 (北海道)
- (2) 阿久津憲仁 (東北/福島県)
- (3) 佐藤ゆみ (関東/埼玉県)
- (4) 牛尾眞一郎 (関東/千葉県)
- (5) 中村正光 (関西/兵庫県)

【トライアル概要】

- 競技規則テスト：2023年11月12日(日)
指導実践：1月13日(土)、1月14日(日)
個人面談：1月13日(土)、1月14日(日)
申込数：14名
選考方法：競技規則テスト、指導実践、面談を実施
※上記選考方法にて実施したトライアルの成績順により選考。

審判員表彰

「審判員及び審判指導者等に関する規則」第30条および「審判員および審判指導者の表彰対象」に基づき、審判委員会より下記の審判員への表彰の推薦があり、表彰委員会がこれを決定した。

対象大会：FIFAビーチサッカーワールドカップUAE2024
試合：決勝
対象者：第4の審判 波多野祐一(はたの・ゆういち)
表彰内容：表彰状授与、記念品贈呈

【関連規則】

- 審判員及び審判指導者等に関する規則

第30条 [表彰]

本協会は、審判技術の向上等に著しく貢献のあった審判員及び審判指導者を表彰する。

●表彰規則

第3条 本協会が行う表彰の対象者は、次のとおりとする。

(7) 審判員及び審判指導者(以下「審判員等」という。)

第6条 表彰者の決定は、理事会において行う。

ただし、別表に定める者については、表彰委員会がその内容を確認した上で決定し、理事会に報告するものとする。

別表 ③2012年度第8回理事会にて承認された表彰に関する内規(「審判員および審判指導者の表彰について」2021年度第13回理事会改定)に定める表彰者で審判委員会から推薦があった者



公益財団法人日本サッカー協会 2024年度第4回理事会

公式URL https://www.jfa.jp/about_jfa/report/executive_committee.html



日本サッカー協会(JFA)は2024年3月14日、2024年度第4回理事会をオンラインで開催した。決議された事項は、下記の通り。

決議事項

1. 定時評議員会議題変更 P45
2. 役員等予定者選出 P46

定時評議員会 議題変更

定時評議員会の議題について、下記の通りとする。

開催日時：2024年3月23日(土) 13:00~

開催方法：JFA会議室およびウェブ会議システム

議題：●決議事項

- (1) 評議員3名 選任の件

(2) 理事15名および監事1名 選任の件

(3) 役員及び評議員の報酬並びに費用に関する規則 改正の件

●報告事項

(1) 2023年度事業報告および決算の件

(2) 能登半島地震復興支援の件

役員等予定者選出

3月23日の定時評議員会に付議予定の理事15名および監事1名の選任のうち、2024年度第3回理事会（3月7日開催）にて調整中としていた理事2名について、

役員等推薦委員会から推挙があったため、3月23日の定時評議員会に付議する。



公益財団法人日本サッカー協会 2024年度定時評議員会

公式URL https://www.jfa.jp/about_jfa/report/executive_committee.html



日本サッカー協会（JFA）は2024年3月23日、2024年度定時評議員会をJFAハウスとオンラインで開催した。決議・報告された事項は、下記の通り。

決議事項

- | | |
|-----------------------------|--------------------------------------|
| 1 評議員3名 選任 …………… P46 | 3 役員及び評議員の報酬並びに費用に関する規則 改正 …………… P47 |
| 2 理事15名および監事1名 選任 …………… P46 | |

評議員3名 選任

選任する予定としていた評議員3名のうち、下記の2名の評議員を選任する。

(1) 株式会社京都パープルサンガ

退任する評議員：伊藤雅章（いとう・まさあき）代表取締役社長

選任する評議員：飯野晃（いいの・あきら）京セラ株式会社 執行役員 総務
人事部 サンガ支援推進部長

※4月1日付で株式会社京都パープルサンガ代表取締役社長に就任予定

(2) 株式会社セレッソ大阪

退任する評議員：森島寛晃（もりしま・ひろあき）代表取締役社長

選任する評議員：宮島武志（みやじま・たけし）取締役副社長

なお、任期の満了前に退任した評議員に代わって選任する評議員の任期は、定款第18条第2項の規定により、退任する評議員の任期満了の時までとなるため、2026年度に関する定時評議員会（2027年3月）の終結の時までとなる。

理事15名および監事1名 選任

役員等推薦委員会にて推挙され、2024年度第3回理事会（3月7日開催）ならびに2024年度第4回理事会（3月14日開催）で承認された理事および監事について、下記の通り選任する。

【2024年理事選考の考え方】

会長予定者 宮本恒靖

- ・「サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する」というJFAの理念を再認識する。
- ・そして、サッカーがこの国においてもっと大きな存在になるために、全ての関係者の皆さんと共に、新しいこれからの日本サッカーを前へ進めていく。
- ・具体的な活動の実行・意思決定と、その結果の評価・検証や監視・監督を行っていただくために、高い専門性を有する方に理事を務めていただく。

●活動方針

1. 強い日本代表を作り続ける

- ・男子、女子、フットサル、ビーチサッカーの全ての日本代表が強くなり続けること
- ・いつも人々のそばに強い日本代表があり、感情の爆発や喜びを提供していくこと

2. 国内コンペティション・リーグを強化する

- ・国内リーグ（JリーグやWEリーグ）との連携強化・サポート
- ・Jリーグのシーズン移行に伴うサポートの準備
- ・高い競技レベルを成立させるための審判員の強化・育成
- ・指導者のアジア・欧州での活躍を目指したライセンス整備・講習内容改善

3. キッズ・女子・シニアを重点3領域として扱う

- ・日本代表を支える人材を輩出し続ける、普及、育成、強化のプロセスの再確認
- ・日本代表だけでなく、生涯にわたってサッカーに関わってもらえる環境・体制の構築
- ・キッズ・女子・シニアの領域を重点3領域とし、施策検討を推進

4. 施策の最適化を図る

- ・サッカーファミリーの拡大施策の定量的な評価・検証
- ・公式アプリJFA Passport会員数350万人*の達成と適切なサービスの提供（*：2026年達成目標）

5. サッカーを通して社会課題を解決する

- ・SDGsにおける環境、人権、健康、教育、地域を5つの重点課題とし、施策を実施
- ・多様性やインクルージョンの推進
- ・誰もがサッカーをする、見る、関わる状態の構築
- ・部活動移行の状況の注視と各県・各地域の課題の把握・対応を実行

6. 新しい成長モデルを構築する

- ・パートナー各社との互いの強み、ネットワークを活かした社会課題解決と価値共創
- ・「blue-ing!」での、新しいサッカー体験の提供とライト層の獲得

7. 適切なガバナンスが働く組織を構築する

- ・理事会の人数・議題数の最適化と意思決定のスピードの向上
- ・スポーツ団体ガバナンスコードが求める「女性理事40%以上、外部理事25%」の達成
- ・高い専門性と多角的な視点を持った理事による透明性のある組織運営

8. 関連団体とさらなる連携を図る

- ・現状課題の共有とサッカー界の発展、サッカー文化の創造につながる施策・打ち手の検討
- ・47FAとのコミュニケーション増進と課題解決に向けた協働の実行
- ・各連盟との組織運営に関する連携強化の設計と実行

左ページ左上へ続く

No.	役職	氏名	年齢	現職	サッカー・スポーツ歴 サッカー・スポーツ団体役員歴	備考
1	理事	宮本恒靖*	47歳	(公財)日本サッカー協会専務理事	ガンバ大阪選手・監督 レッドブル・ザルツブルク選手 ヴィッセル神戸選手 日本代表選手 FIFAマスター	会長予定者
2	理事	岡田武史	67歳	(株)今治 夢スポーツ代表取締役会長 (公財)日本サッカー協会副会長	古河電気工業サッカー部 日本代表選手・監督 コンサドーレ札幌監督 横浜F・マリノス監督 浙江職業足球倶楽部(中国)監督等	副会長予定者
3	理事	野々村芳和	51歳	(公社)日本プロサッカーリーグチェアマン (公財)日本サッカー協会副会長	ジェフユナイテッド市原選手 コンサドーレ札幌選手 (株)コンサドーレ代表取締役会長等	副会長予定者
4	理事	西原一将*	48歳	(株)西原商会代表取締役社長 (株)鹿児島プロスポーツプロジェクト取締役 (一社)鹿児島県サッカー協会会長 (公財)日本サッカー協会財務委員		副会長予定者
5	理事	湯川和之*	56歳	(公財)日本サッカー協会専務総長 (一財)日本ビーチサッカー連盟副会長	読売クラブジュニオール選手 読売日本サッカークラブ	専務理事予定者
6	理事	高田春奈*	46歳	(公社)日本女子プロサッカーリーグチェア (一社)日本女子サッカーリーグ理事長 (公社)日本プロサッカーリーグ特任理事 (一財)全日本大学サッカー連盟理事 (公財)日本サッカー協会副会長	(株)V・ファーレン長崎代表取締役社長 (公社)日本プロサッカーリーグ常勤理事	常務理事予定者
7	理事	山口香*	59歳	筑波大学体育系教授 コナミグループ(株)社外取締役 日本BS放送(株)社外取締役 (公財)日本サッカー協会理事	日本代表女子柔道選手 1988年ソウルオリンピック銅メダル 1984年ウイーン世界柔道選手権大会金メダル (公財)日本オリンピック委員会理事 (公財)全日本柔道連盟理事 (公財)日本バレーボール協会理事	常務理事予定者
8	理事	河瀬淳	62歳	(公社)千葉県サッカー協会専務理事 (一社)関東サッカー協会専務理事 (公財)日本サッカー協会理事		
9	理事	田中琢二	62歳	同志社大学客員教授 (公財)日本サッカー協会理事 (公財)日本サッカー協会財務委員		
10	理事	西本強*	50歳	日比谷パーク法律事務所パートナー弁護士 米国ニューヨーク州弁護士 (株)ブロードリーフ社外監査役 (株)島津製作所社外監査役 (株)エニグモ社外取締役 (公財)日本サッカー協会監事		
11	理事	大岩真由美*	51歳	(公財)北海道サッカー協会副会長 室蘭地区サッカー協会副会長 登別市内中学校勤務	サッカー国際審判員 (一社)日本女子サッカーリーグ理事 (公財)日本サッカー協会評議員・特任理事	
12	理事	小澤隆生*	52歳	Boost Capital(株)代表取締役 LINEヤフー(株)顧問	楽天野球団取締役事業本部長	
13	理事	川澄奈穂美*	38歳	アルビレックス新潟レディース選手	INAC神戸 レオネッサ選手 シアトル・レインFC選手 NJ/NY ゴッサム FC選手 日本女子代表選手等	
14	理事	志清聡子*	61歳	中外製薬(株) 上席執行役員 パナソニックコネク(株)社外取締役 (株)三菱総合研究所社外取締役		
15	理事	須藤実和*	60歳	(株)プラネットプラン代表取締役 (株)アシックス社外取締役 (株)カチタス社外取締役 (株)コーセー社外取締役 (株)関電工社外取締役 (公財)日本オリンピック委員会理事 (公財)日本バレーボール協会副会長		

*新任、後職変更等

2. 監事予定者（3名以内）

※年齢は、2024年3月23日現在

No.	役職	氏名	年齢	現職	サッカー・スポーツ歴 サッカー・スポーツ団体役員歴	備考
1	監事	福田 雅	48歳	公認会計士 (株)東京ユナイテッドグループ パートナー (公財)日本サッカー協会監事	東京ユナイテッドFC監督 文京LBレディース監督 東京都国体成年男子監督等	

役員及び評議員の報酬並びに費用に関する規則 改正

「役員及び評議員の報酬並びに費用に関する規則」について、下記の通り改正する。

●改正概要

①2023年7月臨時評議員会で「理事会体制・業務執行体制の基本方針」が決議されたことに伴い、新たなガバナンス体制における各理事の報酬の考え方について報酬委員会で議論を重ねてきた。その議論において非常勤理事の役割や

責任に対する月額報酬支給を検討するにあたり、現行の1号俸月額200,000円から1号俸月額50,000円の設定が必要との結論に至り、改正を行うもの。なお、現行の上限額57号俸月額3,000,000円については、改正に伴い60号俸となるが、上限額（月額3,000,000円）の変更はしない。

②上記①により、非常勤役員に支給する報酬は、常務理事会もしくは理事会の出席の都度支給する日当または担当業務に対する月額報酬のいずれかとするもの。

報告事項

- 1. 2023年度事業報告および決算…………… P48
- 2. 能登半島地震復興支援…………… P49

2023年度事業報告および決算

●2023年度 事業報告

2023年度の事業報告が行われた。詳細はJFA公式ウェブサイトに掲載。

●2023年度 決算

正味財産増減計算書内訳表（2023年1月1日から12月31日まで）

単位：円

科 目	公益目的事業会計	収益事業等会計		小計	法人会計	内部取引消去	合計
		建物の賃貸事業	登録オンラインシステム事業				
I 一般正味財産増減の部							
1. 経常増減の部							
(1) 経常収益							
①基本財産運用益	3,750,262			0			3,750,262
②登録料収益			1,812,013,257	1,812,013,257			1,812,013,257
③事業収益	17,714,485,152	44,953,224	220,375,002	265,328,226	0	0	17,979,813,378
<代表関連事業収益>	3,388,060,079			0			3,388,060,079
<競技会開催事業収益>	1,855,886,660			0			1,855,886,660
<指導普及事業収益>	891,392,668			0			891,392,668
<JFAフットボールセンター事業収益>	11,117,145	44,953,224		44,953,224			56,070,369
<機関誌収益>	133,024,066			0			133,024,066
<事業関連収益>	10,455,698,992			0			10,455,698,992
<競技会収益>	775,571,046			0			775,571,046
<日本サッカーミュージアム運営事業収益>	6,318,068			0			6,318,068
<社会貢献事業収益>	197,416,428			0			197,416,428
<登録関連事業収益>			220,375,002	220,375,002			220,375,002
④補助金等収益	860,119,041			0	10,000,000		870,119,041
⑤雑収益	43,232,619	78,651,315	29,262,727	107,914,042	31,545,459		182,692,120
経常収益計	18,621,587,074	123,604,539	2,061,650,986	2,185,255,525	41,545,459	0	20,848,388,058
(2) 経常費用							
①事業費	17,472,281,178	23,747,216	1,101,525,258	1,125,272,474	0	0	18,597,553,652
<代表関連事業費>	5,679,850,995			0			5,679,850,995
<競技会開催事業費>	2,652,065,225			0			2,652,065,225
<指導普及事業費>	5,971,044,935		560,000,000	560,000,000			6,531,044,935
<JFAフットボールセンター事業費>	118,779,260	23,747,216		23,747,216			142,526,476
<機関誌事業費>	112,944,612			0			112,944,612
<事業関連費>	2,565,254,392			0			2,565,254,392
<日本サッカーミュージアム運営事業費>	169,125,381			0			169,125,381
<社会貢献事業費>	199,413,222			0			199,413,222
<登録関連事業費>			466,638,339	466,638,339			466,638,339
<オンラインシステム関連事業費>			74,886,919	74,886,919			74,886,919
<サッカーファミリー復興支援事業費>	3,803,156			0			3,803,156
②管理費	3,551,165,883	55,975,423	140,563,135	196,538,558	244,202,083		3,991,906,524
経常費用計	21,023,447,061	79,722,639	1,242,088,393	1,321,811,032	244,202,083	0	22,589,460,176
当期経常増減額	△ 2,401,859,987	43,881,900	819,562,593	863,444,493	△ 202,656,624	0	△ 1,741,072,118
2. 経常外増減の部							
(2) 経常外収入							
①補償金	192,893,564			0			192,893,564
②JFAハウス売却益	8,882,432,933			0			8,882,432,933
経常外収入計	9,075,326,497			0			9,075,326,497
(1) 経常外費用							
①寄附金				0	28,753,250		28,753,250
経常外費用計	0	0	0	0	28,753,250	0	28,753,250
当期経常外増減額	9,075,326,497	0	0	0	△ 28,753,250	0	9,046,573,247
他会計振替額	445,680,457	△ 43,881,900	△ 633,208,431	△ 677,090,331	231,409,874		0
税引前当期一般正味財産増減額	7,119,146,967	0	186,354,162	186,354,162	0	0	7,305,501,129
法人税、住民税及び事業税		212,700		212,700			212,700
当期一般正味財産増減額	7,119,146,967	△ 212,700	186,354,162	186,141,462	0	0	7,305,288,429
一般正味財産期首残高	17,641,725,372	48,525,263	884,757,869	933,283,132	0	0	18,575,008,504
一般正味財産期末残高	24,760,872,339	48,312,563	1,071,112,031	1,119,424,594	0	0	25,880,296,933
II 指定正味財産増減の部							
①受取寄附金				0			0
②一般正味財産への振替額				0			0
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0	0
III 正味財産期末残高	24,760,872,339	48,312,563	1,071,112,031	1,119,424,594	0	0	25,880,296,933

※2023年度決算は、正味財産ベースで収入が299.2億円（前年比+108.1億円）、支出は226.2億円（前年比▲13.7億円）となり、その結果、損益に該当する当期正味財産増減が+73.0億円（前年比+121.9億円）となった。コロナ禍の影響が残っていた2022年度と比べ、2023年度はおおむね通常時の状況に戻り、日本代表の国際親善試合も予定通り実施されたことから関連収入が増加。また、なでしこジャパン（日本女子代表）がFIFA女子ワールドカップオーストラリア&ニュージーランド2023でベスト8の成績を取ったこと、これに関する賞金収入と経費支出がそれぞれ計上された。また、経常外収益として旧JFAハウスの売却益88.8億円を計上。この収益については、施設整備積立への追加充当に加え、今後の戦略投資に40億円、重点取組事項である女子と4種、シニアに15億円、登録制度改革に15億円、組織運営基盤として20億円、継続的な復興支援に対して5億円など、主に中長期的な積み立てに振り向けられる。結果として2023年度末の正味財産残高は、185.8億円から258.8億円となった。新体制においても年次での収支均衡を基本とした資金管理を継続した上で理念の実現に向けた事業活動に努めていくことにしている。

能登半島地震復興支援プロジェクトの活動について報告する。

※詳細はJFA公式ウェブサイト参照



公益財団法人日本サッカー協会 2024年度第5回理事会

公式URL https://www.jfa.jp/about_jfa/report/executive_committee.html



日本サッカー協会 (JFA) は2024年3月23日、2024年度第5回理事会をJFAハウスとオンラインで開催した。決議された事項は、下記の通り。

決議事項

- 1. 役員等選定 P49 3. 重要な使用人選任 P50
- 2. 副会長の会長職務代行順位決定 P50

役員等選定

下記の役員等をそれぞれ選定する。

- (2) 委員会委員長 (技術委員会、女子委員会、審判委員会)
- (3) 名誉役員

- (1) 会長、副会長、専務理事、常務理事

1. 理事 (9名以上15名以内)

※会長1名、副会長3名以内、専務理事1名以内、常務理事3名以内 (定款第25条第2項)

※年齢は、2024年3月23日現在

No.	役職	氏名	年齢	兼務	サッカー・スポーツ歴 サッカー・スポーツ団体役員歴
1	会長	宮本恒靖*	47歳		ガンバ大阪選手・監督 レッドブル・ザルツブルク選手 ヴィッセル神戸選手 日本代表選手 FIFAマスター (公財)日本サッカー協会専務理事
2	副会長	岡田武史	67歳	(株)今治、夢スポーツ代表取締役会長	古河電気工業サッカー部 日本代表選手・監督 コンサドーレ札幌監督 横浜F・マリノス監督 浙江職業足球倶楽部(中国)監督 (公財)日本サッカー協会副会長
3	副会長	野々村芳和	51歳	(公社)日本プロサッカーリーグチェアマン	ジェフユナイテッド市原選手 コンサドーレ札幌選手 (株)コンサドーレ代表取締役会長 (公財)日本サッカー協会副会長
4	副会長	西原一将*	48歳	(株)西原商会代表取締役社長 (株)鹿児島プロスポーツプロジェクト取締役 (一社)鹿児島県サッカー協会会長	(公財)日本サッカー協会財務委員
5	専務理事 (技術・女子・ 審判委員会担当)	湯川和之*	56歳	(一財)日本ビーチサッカー連盟副会長	読売クラブジュニオール選手 読売日本サッカークラブ (公財)日本サッカー協会事務総長
6	常務理事	高田春奈*	46歳	(公社)日本女子プロサッカーリーグチェア (一社)日本女子サッカーリーグ理事長 (公社)日本プロサッカーリーグ特任理事 (一財)全日本大学サッカー連盟理事	(株)V・ファーレン長崎代表取締役社長 (公社)日本プロサッカーリーグ常勤理事 (公財)日本サッカー協会副会長
7	常務理事	山口香*	59歳	筑波大学体育系教授 コナミグループ(株)社外取締役 日本BS放送(株)社外取締役	日本代表女子柔道選手 1988年ソウルオリンピック銅メダル 1984年ウィーン世界柔道選手権大会金メダル (公財)日本オリンピック委員会理事 (公財)全日本柔道連盟監事 (公財)日本バレーボール協会理事 (公財)日本サッカー協会理事
8	理事	河瀬淳	62歳	(公社)千葉県サッカー協会専務理事 (一社)関東サッカー協会専務理事	(公財)日本サッカー協会理事
9	理事	田中琢二	62歳	同志社大学客員教授	(公財)日本サッカー協会理事 (公財)日本サッカー協会財務委員
10	理事	西本強*	50歳	日比谷パーク法律事務所パートナー弁護士 米国ニューヨーク州弁護士 (株)ブロードリーフ社外監査役 (株)鳥津製作所社外監査役 (株)エニグモ社外取締役	(公財)日本サッカー協会監事
11	理事	大岩真由美*	51歳	(公財)北海道サッカー協会副会長 室蘭地区サッカー協会副会長 登別市内中学校勤務	サッカー国際審判員 (一社)日本女子サッカーリーグ理事 (公財)日本サッカー協会評議員・特任理事
12	理事	小澤陸生*	52歳	Boost Capital(株)代表取締役 LINEヤフー(株)顧問	楽天野球団取締役事業本部長
13	理事	川澄菜穂美*	38歳	アルビレックス新潟レディース選手	INAC神戸レオネッサ選手 シアトル・レインFC選手 NJ/NY ゴッサムFC選手 日本女子代表選手等

14	理事	志清聡子*	61歳	中外製薬(株) 上席執行役員 パナソニックコネク(株) 社外取締役 (株)三菱総合研究所社外取締役
15	理事	須藤実和*	60歳	(株)プラネットプラン代表取締役 (株)アシックス社外取締役 (株)カチタス社外取締役 (株)コーサー社外取締役 (株)関電工社外取締役 (公財)日本オリンピック委員会理事 (公財)日本バレーボール協会副会長

*新任、役職変更

2. 監事 (3名以内)

※年齢は、2024年3月23日現在

No.	役職	氏名	年齢	兼職	サッカー・スポーツ歴(サッカー・スポーツ) 団体役員歴
1	監事	福田雅	48歳	公認会計士 (株)東京ユニテッドグループ パートナー	東京ユナイテッドFC監督 文京LBレディーズ監督 東京都国体成年男子監督 (公財)日本サッカー協会監事

3. 委員会委員長 (3名)

No.	委員会名	氏名	前職
1	技術	影山 雅永	(公財)日本サッカー協会技術委員会 ユース育成ダイレクター
2	女子	佐々木 則夫	(公財)日本サッカー協会理事 (公財)日本サッカー協会女子委員長
3	審判	扇谷 健司	(公財)日本サッカー協会理事 (公財)日本サッカー協会審判委員長

※上記以外の委員長については、委員会再編方針を踏まえて選定する。

4. 名誉役員

No.	氏名	役職
1	高円宮妃殿下	名誉総裁
2	田嶋幸三	名誉会長
3	大仁邦彌	最高顧問
4	川淵三郎	相談役
5	小倉純二	相談役
6	村井満	顧問

No.	氏名	役職
7	岩上和道	顧問
8	林義規	顧問
9	松崎康弘	参与
10	上田崇治	参与
11	植田昌利	参与
12	原博実	参与
13	池田洋二	参与
14	北澤薫	参与
15	日比野克彦	参与
16	鈴木寛	参与
17	岡島善久子	参与
18	須原清貴	参与
19	宗政潤一郎	参与
20	池田浩	参与
21	三好豊	参与
22	竹田孝	参与
23	今井純子	参与

副会長の会長職務代行順位決定

「理事及び監事の職務権限規則」第8条第2項に基づく副会長の会長職務代行順位を、下記の通りとする。

- 第1順位 岡田武史
- 第2順位 野々村芳和
- 第3順位 西原一将

【参考】理事及び監事の職務権限規則
(副会長)

第8条 副会長の職務権限は、次のとおりとする。

- (1) 会長を補佐するほか、会長又は理事会が委嘱する業務を担当する。
- (2) 会長が欠けたとき又は会長に事故あるときは、理事会が予め決定した順序によって会長の業務執行に係る職務を代行する。

重要な使用人選任

事務総長は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律 第90条(理事会の権限等)第4項第3号に規定する「重要な使用人」に該当するため、本理事会において下記の通り選任する。

事務総長：貝瀬智洋

- ① SAMURAI BLUE FIFAワールドカップ26アジア2次予選兼 AFCアジアカップサウジアラビア2027予選
- ② U-23日本代表 国際親善試合
- ③ U-19日本代表 ヨルダン遠征
- ④ U-16日本代表 トルコ遠征
- ⑤ U-20日本女子代表 AFC U20女子アジアカップウズベキスタン2024
- ⑥ U-17日本女子代表候補 国内トレーニングキャンプ
- ⑦ フットサル日本女子代表 ポルトガル遠征(Futsal Women's A National Teams 4-team preparation tournament)
- ⑧ U-17日本高校サッカー選抜 第39回静岡県ヤングサッカーフェスティバル

- ⑨ U-17日本高校サッカー選抜 第6回J-VILLAGE CUP U18
- ⑩ 日本高校サッカー選抜 第38回デンソーカップチャレンジサッカー 福島大会
- ⑪ 第38回デンソーカップチャレンジサッカー 福島大会
- ⑫ JFA 第35回O-40女子サッカーオープン大会
- ⑬ JFA 第35回全日本O-30女子サッカー大会
- ⑭ JFA 第29回全日本フットサル選手権大会
- ⑮ AFC U20女子アジアカップウズベキスタン2024

※NCS: ナショナルコーチングスタッフ、JC: JFAコーチ/ VAR: ビデオアシスタントレフェリー、AVAR: アシスタントビデオアシスタントレフェリー

SAMURAI BLUE FIFAワールドカップ26アジア2次予選兼 AFCアジアカップサウジアラビア2027予選

※66~67ページに関連記事あり

[スタッフ]

○監督: 森保一(NCS) ○コーチ: 名波浩(NCS)、齊藤俊秀(NCS)、前田遼一(NCS) ○フィジカルコーチ: 松本良一(NCS) ○GKコーチ: 下田崇(NCS) ○テクニカルスタッフ: 寺門大輔(JFAテクニカルハウス)、中下征樹(JFAテクニカルハウス)、若林大智(JFAテクニカルハウス)

<選手>

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	前川黛也	ヴィッセル神戸	MF/FW	守田英正	スポルティングCP (POR)
	大迫敬介	サンフレッチェ広島		相馬勇紀	カサ・ピアAC (POR)
	鈴木彩艶	シントトロイデンVV (BEL)		小川航基	NECナイメヘン (NED)
DF	長友佑都	FC東京	前田大然	セルティック (SCO)	
	谷口彰悟	アル・ラヤン (QAT)	堂安律	SCフライブルク (GER)	
	板倉滉	ボルシア・メンヘングラートバハ (GER)	上田綺世	フェイエノールト (NED)	
	渡辺剛	KAAヘント (BEL)	田中碧	フォルトゥナ・デュッセルドルフ (GER)	
	町田浩樹	ユニオン・サンジロワーズ (BEL)	川村拓夢	サンフレッチェ広島	
	毎熊晟矢	セレッソ大阪	中村敬斗	スタッド・ランス (FRA)	
	伊藤洋輝	VfBシュツットガルト (GER)	佐野海舟※1	鹿島アントラーズ	
	橋岡大樹	ルートン・タウン (ENG)	久保建英	レアル・ソシエダ (ESP)	
菅原由勢	AZアルクマール (NED)				
MF/FW	遠藤航	リバプールFC (ENG)	BEL: ベルギー、QAT: カタール、GER: ドイツ、ENG: イングランド、NED: オランダ、FRA: フランス、POR: ポルトガル、SCO: スコットランド、ESP: スペイン		
	浅野拓磨	VfLボーフム (GER)	※1: ケガのため不参加		
	南野拓実	ASモナコ (FRA)			

<スケジュール>

- 3月18日 トレーニング (高円宮記念JFA夢フィールド)
- 19日 トレーニング (第一カッターフィールド (秋津サッカー場))
- 20日 公式トレーニング (国立競技場)
- 21日 FIFAワールドカップ26アジア2次予選兼AFCアジアカップサウジアラビア2027予選 vs 朝鮮民主主義人民共和国代表 (国立競技場)
- 22日 トレーニング (高円宮記念JFA夢フィールド)、解散

■朝鮮民主主義人民共和国代表 来日メンバー

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	カン・ジュヒョク	フェップル体育団	MF	チェ・ジュソン	鶴緑江体育団
	シン・テソン	4・25体育団		ムン・インジュ	FC岐阜
	ユ・グァンジュン	黎明体育団		カン・グクチョル	鯉明水体育団
DF	チャン・グクチョル	フェップル体育団	ベク・チョンソン	黎明体育団	
	ジョン・クムソン	鯉明水体育団	キム・ヒョン	鶴緑江体育団	
	チェ・オクチョル	機関車体育団	キエ・タム	黎明体育団	
	チェ・ジンナム	黎明体育団	キム・ソンヘ	先鋒蹴球団	
	キム・ギョンソク	先鋒蹴球団	リ・イルソン	黎明体育団	
	キム・ボンヒョク	黎明体育団	FW	ジョン・イルグァン	朝鮮体育大学
	キム・ユソン	鶴緑江体育団		ハン・グァンソン	4・25体育団
MF	キム・グクボム	4・25体育団	キム・グクジン	機関車体育団	
	リ・ウンチョル	機関車体育団	リ・ジョグク	黎明体育団	

監督 シン・ヨンナム

<スケジュール>

- 3月20日 公式トレーニング (国立競技場)
- 21日 FIFAワールドカップ26アジア2次予選兼アジアカップサウジアラビア2027予選 vs SAMURAI BLUE (国立競技場)

FIFAワールドカップ26アジア2次予選兼 AFCアジアカップサウジアラビア2027予選

SAMURAI BLUE 1 (前半1-0 後半0-0) 0 朝鮮民主主義人民共和国代表

●2024年3月21日 19:23 ●国立競技場 ●試合時間:90分 ●審判員:[主審]アデル・アリ・アハメド・ハミス・アルナクビ(UAE) [副審]モハメド・アルハンマディ(UAE) / ハサン・アルマハリ(UAE) [第4の審判員]アハメド・ダルウィシュ(UAE) ●マッチコミッショナー:ユアン・ムンチェン(HKG) ●観衆:59,354人

日本(監督:森保一):[GK](23)鈴木彩艶 [DF](2)菅原由勢<→74'(14)橋岡大樹>(4)板倉滉(15)町田浩樹(21)伊藤洋輝 [MF](5)守田英正<→58'(6)遠藤航>(8)南野拓実<→74'(18)浅野拓磨>(10)堂安律<→74'(3)谷口彰悟>(17)田中碧 [FW](9)上田綺世<→81'(19)小川航基>(11)前田大然

控え:(1)前川黛也(12)大迫敬介(7)川村拓夢(13)中村敬斗(16)渡辺剛(20)久保建英(22)長友佑都

DPR Korea(監督:シン・ヨンナム):[GK](1)カン・ジュヒョク [DF](2)キム・ギョンソク<→51'(14)チェ・オクチョル>(3)チャン・グクチョル(4)キム・ボンヒョク<→83'(7)ムン・インジュ>(16)キム・ユソン [MF](10)ハン・ガンソン(11)ジョン・イルガン<→67'(8)キム・グクジン>(15)リ・ウンチョル<→HT(17)カン・グクチョル>(20)ベク・チョンソン(22)キム・グクボム [FW](12)チェ・ジュソン<→HT(13)リ・イルソン>

控え:(18)シン・テソン(21)ユ・ガンジュン(5)ジョン・クムソン(6)キェ・タム(9)リ・ジョグク(19)キム・ソンヘ(23)チェ・ジンナム

得点 [日本]2' 田中碧(1-0)

警告 [日本]59' 伊藤洋輝 [DPR Korea]20' チャン・グクチョル、73' リ・イルソン、75' カン・グクチョル



SAMURAI BLUE vs 朝鮮民主主義人民共和国代表

※3月26日に開催予定だったFIFAワールドカップ26アジア2次予選兼AFCアジアカップサウジアラビア2027予選 朝鮮民主主義人民共和国代表対SAMURAI BLUEは試合中止。3月30日にFIFA規律委員会よりこの試合は0-3で朝鮮民主主義人民共和国代表の敗戦として没収するとの決定が通知された。

U-23日本代表 国際親善試合

※68~69ページに関連記事あり

【スタッフ】

○団長:鈴木満(JFA技術委員/鹿島アントラーズ) ○監督:大岩剛(NCS) ○コーチ:羽田憲司(NCS) ○GKコーチ:浜野征哉(NCS) ○フィジカルコーチ:矢野由治(NCS) ○テクニカルスタッフ:越智滋之(JFAテクニカルハウス)、渡邊秀朗(JFAテクニカルハウス)、5)田真尋(JFAテクニカルハウス)

<選手>

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	小伏保雄	ベンフィカ (POR)	MF	山田楓喜	東京ヴェルディ
	藤田和輝	ジェフユナイテッド千葉		佐藤恵允	ヴェルダー・ブレーメン (GER)
	野澤大志	FC東京		川崎颯太	京都サンガF.C.
DF	内野貴史	フォルトゥナ・デュッセルドルフ (GER)	山本理仁	シントトロイデンVV (BEL)	
	大畑歩夢	浦和レッズ	藤田譲瑠チマ	シントトロイデンVV (BEL)	
	西尾隆矢	セレッソ大阪	小見洋太	アルビレックス新潟	
	バン・ナガン	FC東京	田中聡	湘南ベルマーレ	
	馬場晴也	北海道コンサドーレ札幌	松木致生	FC東京	
	半田陸	ガンバ大阪	FW	藤尾翔太	FC町田ゼルビア
	関根大輝	柏レイソル		細谷真大	柏レイソル
	鈴木海音	ジュビロ磐田		染野唯月	東京ヴェルディ
	高井幸大	川崎フロンターレ		植中朝日	横浜F・マリノス
	MF	平河悠	FC町田ゼルビア	荒木遼太郎	FC東京

POR: ポルトガル, GER: ドイツ, BEL: ベルギー

<スケジュール>

3月18日~20日 トレーニング(たけびしスタジアム京都)
21日 公式トレーニング(サンガスタジアム by KYOCERA)
22日 国際親善試合 vs U-23マリ代表(サンガスタジアム by KYOCERA)
23日 京都発、小倉着
24日 トレーニング(北九州スタジアム)
25日 公式トレーニング(北九州スタジアム)
国際親善試合 vs U-23ウクライナ代表(北九州スタジアム)

■U-23マリ代表 来日メンバー

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	ラシン・ディアラ	オリンピック・リオン (FRA)	MF	ママドゥ・サンギャレ	TSVハルトベルク (AUT)
	ウマル・クリバリー	COB		ブバカル・トラオレ	ウルバーハンブトン・ワンダラーズ (ENG)
DF	フォデ・ドゥクレ	レッドスター (FRA)	ブライマ・ディアラ	ハダースフィールド・タウン (ENG)	
	イブラヒマ・シセ	シャルケ04 (GER)	フリー・トラオレ	TPマゼンベ (COD)	
	ママドゥ・トゥンカラ	ヴィトリア・ギマランイス (POR)	イスフィ・マイガ	アカデミコ・デ・ヴィゼウ (POR)	
	アマドゥ・ディアロ	ファレンセ (POR)	ティエモコ・ディアラ	LBシャトゥール (FRA)	
	アマド・ディオマンデ	イティファク・マラケシュ (MAR)	マアマドゥ・ディアラ	WSGティロル (AUT)	
	ムサ・ディアキテ	カディスCF (ESP)	シイカ・カマル・アブドゥラフマン	TPマゼンベ (COD)	
	シセ・モアメド・ララビ	ペンシルバニア州立大学 (USA)	サマケ・ウィルソン・ラサナ	スタッド・レンヌ (FRA)	
MF	マアマドゥ・ラミン・バ	オリンピック・ベジャ (TUN)	シイカ・アブドゥ・ディアキテ	ASレアル	
	イスフ・ベンバ・シソ	ジロندان・ボルドー (FRA)			
	コリ・サコ	USアンコナ (ITA)			

FRA: フランス, GER: ドイツ, POR: ポルトガル, MAR: モロッコ, ESP: スペイン, USA: アメリカ, TUN: チュニジア, ITA: イタリア, AUT: オーストリア, ENG: イングランド, COD: コンゴ民主共和国

監督 バダラ・アル・ディアロ

<スケジュール>

3月21日 公式トレーニング(サンガスタジアム by KYOCERA)
22日 国際親善試合 vs U-23日本代表(サンガスタジアム by KYOCERA)

■U-23ウクライナ代表 来日メンバー

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	ジョージ・イェルモコフ	FCオレクサンドリヤ	MF	オレクシー・カシュチュク	FCシャフタル
	キリル・フェジュン	FCコロス		アルテム・シュリアンスキー	FCオレクサンドリヤ
DF	オレクシー・シチ	FCルフ	イバン・ゼリズコ	FCレギア (POL)	
	オレクサンドル・マルティンク	FCオレクサンドリヤ	アルテム・クラコフスキー	FCオレクサンドリヤ	
	イェホル・マツェンコ	FCシロンスク (POL)	エルダル・クリエフ	FCジラ (AZE)	
	ロマン・ディディク	FCルフ	デニス・ショスタク	FCオレクサンドリヤ	
	アントン・ボル	FCゾリヤ	キリロ・シハイエフ	FCオレクサンドリヤ	
	マクシム・ディアチュク	FCディナモ	オレフ・フェドル	FCルフ	
	マリアン・ファリナ	FCメタリスト1925	FW	マイコラ・クハレビチ	FCスウォンジー・シティ (ENG)
	オレクサンドル・ナザレンコ	FCポリッシャ			

POL: ポーランド, AZE: アゼルバイジャン, ENG: イングランド

監督 ルスラン・ロタン

<スケジュール>

3月24日 公式トレーニング(北九州スタジアム)
25日 国際親善試合 vs U-23日本代表(北九州スタジアム)

第1戦

U-23日本代表 1 (前半1-1 後半0-2) 3 U-23マリ代表

●2024年3月22日 19:24 ●サンガスタジアム by KYOCERA ●試合時間:90分 ●審判員:[主審]ウィリアム・フィニー(ENG) [副審]シン・ジェファン(KOR)/ジョン・ジンヒ(KOR) [第4の審判員]中村太 ●マッチコミッショナー:北村俊 ●観衆:11,515人

日本(監督:大岩剛):[GK](12)野澤大志ブランドン [DF](2)半田陸(3)西尾隆矢(21)バンゲルナガンデ佳史扶<->64'(22)内野貴史>(26)高井幸大 [MF](6)川崎颯太<->76'(8)藤田謙輝チマ>(7)山本理仁(19)山田楓喜<->HT(11)細谷真大>(20)平河悠<->64'(24)小見洋太> [FW](9)藤尾翔太<->76'(10)佐藤恵允>(14)植中朝日<->HT(18)染野唯月>

控え:(1)藤田和輝(23)小久保玲央ブライアン(4)関根大輝(5)馬場晴也(13)荒木遼太郎(15)田中聡(16)松木玖生(17)大畑歩夢(25)鈴木海音

マリ(監督:バダラ・アル・ディアロ):[GK](1)ラシン・ディアラ [DF](5)イブライム・シセ<->59'(18)ムサ・ディアキテ>(15)シセ・モアムド・ララビ<->59'(2)フォデ・ドゥクレ>(17)アメド・ディオマンデ [MF](4)マドゥ・トゥンカラ(8)ブバカル・トラオレ(10)マドゥ・サンギャレ<->66'(6)コリ・サコ>(12)イスフ・ベンバ・シソコ [FW](7)ティエモコ・ディアラ<->74'(14)アマドゥ・ディアラ>(9)サマケ・ウィルソン・ラッサナ<->66'(20)フィリー・トラオレ>(24)シェイク・ウマル・アブドゥラ・フォファナ<->59'(13)ブライム・ディアラ>

控え:(16)ウマル・クリバリー(11)イスフィ・マイガ(19)アマドゥ・ラミン・バ(21)シェイクナ・アマドゥ・ディアキテ

得点:[日本]2'平河悠(1-0) [マリ]34'マドゥ・サンギャレ(1-1), 53'マドゥ・トゥンカラ(1-2), 90'ブバカル・トラオレ(1-3)

警告:[マリ]9'アメド・ディオマンデ, 86'ブバカル・トラオレ

第2戦

U-23日本代表 2 (前半0-0 後半2-0) 0 U-23ウクライナ代表

●2024年3月25日 19:19 ●北九州スタジアム ●試合時間:90分 ●審判員:[主審]ルイス・スミス(ENG) [副審]ジョン・ジンヒ(KOR)/シン・ジェファン(KOR) [第4の審判員]ウィリアム・フィニー(ENG) ●マッチコミッショナー:北村俊 ●観衆:11,756人

日本(監督:大岩剛):[GK](23)小久保玲央ブライアン [DF](4)関根大輝(5)馬場晴也(17)大畑歩夢<->85'(22)内野貴史>(25)鈴木海音 [MF](8)藤田謙輝チマ(10)佐藤恵允<->78'(24)小見洋太>(16)松木玖生<->78'(14)植中朝日>(19)山田楓喜<->HT(20)平河悠> [FW](13)荒木遼太郎<->67'(15)田中聡>(18)染野唯月<->HT(11)細谷真大>

控え:(1)藤田和輝(12)野澤大志ブランドン(2)半田陸(3)西尾隆矢(6)川崎颯太(7)山本理仁(9)藤尾翔太(21)バンゲルナガンデ佳史扶(26)高井幸大

ウクライナ(監督:ルスラン・ロタン):[GK](23)キリル・フェシュン<->60'(1)ジョージ・イエマコフ> [DF](3)アントン・ボル<->HT(13)マリアン・ファリナ>(6)オレクシー・シチ<->72'(19)イェホル・マツェンコ>(16)オレクサンドル・マルティニウク(22)ロマン・ディディク<->60'(4)マクシム・ディアチュク> [MF](5)イバン・ゼリズコ(10)アルテム・シュリアンスキー<->60'(11)オレクシー・カシュチュク>(14)オレクサンドル・ナザレンコ<->72'(7)オレフ・フェドル>(15)キリロ・シハイエフ(17)デニス・ショスタク<->HT(20)エルダルクリーエフ> [FW](9)マイコラ・クハレビチ<->72'(8)アルテム・クラコフスキー>

得点:[日本]48'佐藤恵允(1-0), 76'田中聡(2-0)

U-19日本代表 ヨルダン遠征

[スタッフ]

○団長:大平正軌(JFA技術委員) ○監督:船越優蔵(NCS) ○コーチ:菅原大介(NCS) ○GKコーチ:高原寿康(NCS) ○フィジカルコーチ:菅野淳(フィジカルフィットネスプロジェクト) ○テクニカルスタッフ:片桐実規(JFAテクニカルハウス)

<選手>

Table with 4 columns: Pos, 名前, 所属, Pos, 名前, 所属. Lists players for GK, DF, MF, and FW positions, including names like 中村圭佑, 保田堅心, and 大関友翔.

<スケジュール>

3月17日 集合
18日 成田発、イスタンブール経由
19日 アンマン着
20日 トレーニング (Al Salt Stadium)
21日 トレーニング (Polo Stadium)
22日 第1戦 vs U-19ヨルダン代表 (Khirbet El Souk Stadium)
23日 トレーニング (Al Salt Stadium)
24日 第2戦 vs U-19シリア代表 (Khirbet El Souk Stadium)
25日 トレーニング (Al Salt Stadium)
26日 第3戦 vs U-19ヨルダン代表 (Khirbet El Souk Stadium)
27日 ヨルダン発、イスタンブール経由
成田着、解散

第1戦

U-19日本代表 3 (前半1-0 後半2-1) 1 U-19ヨルダン代表

●2024年3月21日 23:00 ●Khirbet El Souk Stadium ●試合時間:90分

日本(監督:船越優蔵):[GK](12)後藤亘 [DF](5)柴原陸人<->HT(16)梅木侖>(15)土屋權大<->HT(18)木吹翔太>(22)小島凜士郎<->HT(2)尾野優日> [MF](4)林奏太郎(6)小倉幸成(7)早川隼平<->73'(21)高岡侑真>(8)保田堅心<->HT(20)佐藤龍之介>(17)中川育<->60'(13)花城琳斗>(19)廣井蘭人<->60'(11)平賀大空> [FW](9)後藤啓介<->HT(14)塩貝健人>

控え:(1)中村圭佑(23)張奥林(3)市原吏音(10)大関友翔

得点| 2'後藤啓介(1-0), 52'塩貝健人(2-0), 58'失点(2-1), 66'平賀大空(3-1)

第2戦

U-19日本代表 2 (前半0-1 後半2-1) 2 U-19シリア代表

●2024年3月23日 23:00 ●Khirbet El Souk Stadium ●試合時間:90分

日本(監督:船越優蔵):[GK](1)中村圭佑 [DF](3)市原吏音(16)梅木侖<->HT(5)柴原陸人>(18)木吹翔太(22)小島凜士郎 [MF](8)保田堅心<->HT(13)花城琳斗>(10)大関友翔(11)平賀大空<->62'(17)中川育>(20)佐藤龍之介<->84'(21)高岡侑真> [FW](9)後藤啓介(14)塩貝健人<->62'(19)廣井蘭人>

控え:(12)後藤亘(23)張奥林(2)尾野優日(4)林奏太郎(6)小倉幸成(7)早川隼平(15)土屋權大

得点| 39'失点(0-1), 46'平賀大空(1-1), 63'佐藤龍之介(2-1), 70'失点(2-2)

第3戦

U-19日本代表 0 (前半0-0 後半0-2) 2 U-19ヨルダン代表

●2024年3月25日 23:00 ●Khirbet El Souk Stadium ●試合時間:90分

日本(監督:船越優蔵):[GK](1)中村圭佑 [DF](3)市原吏音(5)柴原陸人<->90+1'(2)尾野優日>(16)梅木侖 [MF](4)林奏太郎(6)小倉幸成(10)大関友翔<->60'(8)保田堅心>(11)平賀大空<->60'(17)中川育>(13)花城琳斗<->HT(20)佐藤龍之介>(19)廣井蘭人<->72'(21)高岡侑真> [FW](14)塩貝健人

控え:(12)後藤亘(7)早川隼平(18)木吹翔太(22)小島凜士郎

得点| 50', 69'失点(0-1)(0-2)

U-16日本代表 トルコ遠征

【スタッフ】

○団長：大平正軌(JFA技術委員) ○監督：廣山望(NCS) ○コーチ：大畑開(NCS) ○GKコーチ：山岸範宏(NCS) ○フィジカルコーチ：佐藤哲哉(NCS) ○テクニカルスタッフ：白石通史(JFAテクニカルハウス)

<選手>

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	西川元基	柏レイソルU-15	MF	瀧口大翔	ヴィッセル神戸U-18
	渡邊麻舟	FC東京U-15 深川		山縣優翔	静岡学園高校
DF	佐藤桜久	柏レイソルU-15		木下永愛	鹿島学園高校
	横井佑弥	ガンバ大阪ジュニアユース		保科剛	飯塚高校
	吉田遥翔	スプレッド・イーグルFC函館		土井口立	ヴィッセル神戸U-15
	渡邊春来	東京ヴェルディジュニアユース		坂口佑樹	神戸フットボールクラブジュニアユース
	西村水岐	ヴィッセル神戸U-15	FW	葛西夢吹	湘南ベルマーレU-18
	児玉一成	京都サンガF.C. U-15		川端彪英	京都サンガF.C. U-15
	高橋温郎	浦和レッズジュニアユース		塩尻哲平	セレッソ大阪U-15
MF	廣岡瑛太	柏レイソルU-18		安西来起	さめき南中学校

<スケジュール>

2月24日 集合(高円宮記念JFA夢フィールド)
トレーニング(高円宮記念JFA夢フィールド)
羽田発
25日 イスタンブール経由
アンタルヤ着 移動
トレーニング(Emirhan Sport Center)
26日~27日 トレーニング(Emirhan Sport Center)
28日 第1戦 vs U-16スペイン代表(Emirhan Sport Center)
29日 トレーニング(Emirhan Sport Center)
3月1日 第2戦 vs U-16デンマーク代表(Emirhan Sport Center)
2日~3日 トレーニング(Emirhan Sport Center)
4日 第3戦 vs U-16フランス代表(Emirhan Sport Center)
アンタルヤ発
5日 イスタンブール経由
羽田着

<トレーニングパートナー>(2月24日JFA夢フィールドでのトレーニングのみ参加)

Pos.	名前	所属
DF	藤田明日翔	川崎フロンターレU-15生田
MF	小林柚希	大宮アルディージャU15
FW	奥田悠真	川崎フロンターレU-15生田

第1戦

U-16日本代表 0 (前半0-2, 後半0-0) 2 U-16スペイン代表

●2024年2月28日 12:00 ●Emirhan Sport Center ●試合時間:90分

日本(監督:廣山望):[GK](1)渡邊麻舟 [DF](4)横井佑弥<→89'(16)吉田遥翔>(5)渡邊春来<→89'(2)西村水岐>(17)佐藤桜久(18)児玉一成 [MF](6)山縣優翔<→58'(8)廣岡瑛太>(13)坂口佑樹<→58'(3)高橋温郎>(14)保科剛<→74'(15)木下永愛>(19)土井口立<→74'(11)安西来起> [FW](9)葛西夢吹<→58'(10)塩尻哲平>(20)川端彪英

控え:(12)西川元基(7)瀧口大翔

得点 6', 43'失点(0-1)(0-2)

第2戦

U-16日本代表 1 (前半1-1, 後半0-1) 2 U-16デンマーク代表

●2024年3月1日 12:00 ●Emirhan Sport Center ●試合時間:90分

日本(監督:廣山望):[GK](12)西川元基 [DF](2)西村水岐<→80'(5)渡邊春来>(3)高橋温郎(16)吉田遥翔(18)児玉一成<→HT(4)横井佑弥> [MF](8)廣岡瑛太(13)坂口佑樹<→HT(6)山縣優翔>(15)木下永愛<→86'(14)保科剛>(19)土井口立<→HT(9)葛西夢吹> [FW](10)塩尻哲平<→80'(17)佐藤桜久>(11)安西来起<→66'(20)川端彪英>

控え:(1)渡邊麻舟(7)瀧口大翔

得点 18'失点(0-1)、20'安西来起(1-1)、88'失点(1-2)

第3戦

U-16日本代表 1 (前半0-2, 後半1-3) 5 U-16フランス代表

●2024年3月4日 12:00 ●Emirhan Sport Center ●試合時間:90分

日本(監督:廣山望):[GK](1)渡邊麻舟 [DF](2)西村水岐<→HT(5)渡邊春来>(4)横井佑弥<→HT(16)吉田遥翔>(17)佐藤桜久<→66'(15)木下永愛>(18)児玉一成 [MF](6)山縣優翔(8)廣岡瑛太(14)保科剛<→HT(3)高橋温郎>(19)土井口立<→85'(13)坂口佑樹> [FW](10)塩尻哲平<→56'(9)葛西夢吹>(20)川端彪英<→66'(11)安西来起>

控え:(12)西川元基(7)瀧口大翔

得点 14', 34', 46', 51', 55'失点(0-1)(0-2)(0-3)(0-4)(0-5)、65'川端彪英(1-5)

データボックス

U-20日本女子代表 AFC U20女子アジアカップウズベキスタン2024

※70~71ページに関連記事あり

【スタッフ】

○団長：能仲太司(JFA女子委員会副委員長) ○監督：狩野倫久(NCS/SAGAWA SHIGA FC) ○コーチ：岡本三代(NCS) ○GKコーチ：小林忍(NCS) ○フィジカルコーチ：中西健一郎(NCS) ○テクニカルスタッフ：見原慧(JFAテクニカルハウス)、坂田匠海(JFAテクニカルハウス)

<選手>

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	大熊菫	ジェフユナイテッド市原・千葉レディース	FP	小山史乃観	ユールゴーデンIF(SWE)
	鹿島彩莉	ちふれASエルフェン埼玉		大島環菜	大宮アルディージャ VENTUS
	岩崎有波	ノジマステラ神奈川相模原		中谷莉奈	セレッソ大阪ヤンマーレディース
FP	天野紗	INAC神戸レオネッサ		久保田真生	INAC神戸レオネッサ
	白沢百合恵	アルビレックス新潟レディース		吉岡心	マイナビ仙台レディース
	土方麻椰	日テレ・東京ヴェルディベレーザ		岡村来佳	三菱重工浦和レッズレディース
	松窪真心※1※2	ノースカロライナ・カレッジ(USA)		樋渡百花	日テレ・東京ヴェルディベレーザ
	林愛花	サンタクララ大学(USA)		白垣うの	セレッソ大阪ヤンマーレディース
	佐々木里緒	マイナビ仙台レディース		辻澤亜唯	INAC神戸レオネッサ
	大山愛実	早稲田大学		松永来夢	日テレ・東京ヴェルディメニーナ
	米田博美	セレッソ大阪ヤンマーレディース			
	笹井一愛	ノジマステラ神奈川相模原			
	角田楓佳	三菱重工浦和レッズレディース			

<スケジュール>

2月19日~23日 トレーニング(重兵衛スポーツフィールド中台 陸上競技場)
練習試合(重兵衛スポーツフィールド中台 陸上競技場)
24日 トレーニング(芝山スポーツ広場)
25日 トレーニング(芝山スポーツ広場)
26日 成田発、イスタンブール経由
27日 タシケント着
トレーニング
28日~3月3日 トレーニング
4日 AFC U20女子アジアカップウズベキスタン2024
グループステージ第1戦 vs U-20ベトナム女子代表
(Jar Stadium)
5日~6日 トレーニング
7日 グループステージ第2戦 vs U-20中国女子代表
(Jar Stadium)
8日~9日 トレーニング
10日 グループステージ第3戦 vs U-20朝鮮民主主義人民
共和国女子代表(Jar Stadium)
11日~12日 トレーニング
13日 準決勝 vs U-20オーストラリア女子代表(Jar
Stadium)
14日~15日 トレーニング
16日 決勝 vs U-20朝鮮民主主義人民共和国女子代表
(Jar Stadium)
17日 タシケント発、イスタンブール経由
18日 成田着

USA: アメリカ, SWE: スウェーデン
※1: 2月27日にタシケントで合流
※2: 所属クラブ事情のため、途中離脱

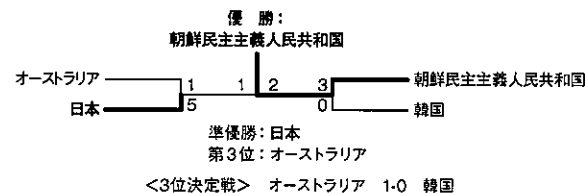
■グループステージ

順位	グループA	オーストラリア	韓国	チャイニーズタイペイ	ウズベキスタン	試合	勝	分	負	得点	失点	差
1	オーストラリア		2 0 1	3 0 0	2 0 0	9	3	0	0	7	1	6
2	韓国	1 0 2		6 0 0	13 0 0	6	2	0	1	20	2	18
3	チャイニーズタイペイ	0 0 3	0 0 6		2 0 0	3	1	0	2	2	9	-7
4	ウズベキスタン	0 0 2	0 0 13	0 0 2		0	0	0	3	0	17	-17

順位	グループB	DPR Korea	日本	中国	ベトナム	試合	勝	分	負	得点	失点	差
1	朝鮮民主主義人民共和国		1 0 0	1 Δ 1	6 0 0	7	2	1	0	8	1	7
2	日本	0 0 1		2 0 0	10 0 0	6	2	0	1	12	1	11
3	中国	1 Δ 1	0 0 2		6 0 1	4	1	1	1	7	4	3
4	ベトナム	0 0 6	0 0 10	1 0 6		0	0	0	3	1	22	-21

○:勝ち(勝ち点3)、△:引き分け(勝ち点1)、●:負け(勝ち点0)

■ノックアウトステージ



■大会各賞

フェアプレー賞: 日本
MVP: Chae Un-yong(朝鮮民主主義人民共和国)
得点王: 土方麻椰(日本/4得点)
最優秀ゴールキーパー: Chae Un Gyong(朝鮮民主主義人民共和国)

グループステージ第1戦

U-20日本女子代表 10 (前半3-0 後半7-0) 0 U-20ベトナム女子代表

●2024年3月4日 16:00 ●Jar Stadium ●試合時間:90分 ●審判員:[主審]KIM YU JEONG(KOR) [副審]LAUREN HARGRAVE(AUS)/CHODEN TSHERING(BHU) [第4の審判員]CHOKI OM(BHU) ●マッチコミッショナー:CHERI STEWART(GUM) ●観衆:60人

日本(監督:狩野倫久):[GK](1)大熊茜 [DF](2)吉岡心(3)米田博美(6)佐々木里緒 <-73'(7)小山史乃観> [MF](8)角田楓佳 <-23'(5)大山愛笑> (11)大島暖菜 <-HT(9)笹井一愛> (15)林愛花(16)天野紗 <-59'(12)中谷莉奈> [FW](10)松窪真心 <-59'(4)白沢百合恵> (13)辻澤亜唯(14)土方麻椰

控え:(18)鹿島彩莉(21)岩崎有波(17)白垣うの(19)松永未夢(20)樋渡百花(22)岡村来佳(23)久保田真生

ベトナム(監督:AKIRA IJIRI):[GK](1)LE THI THU [DF](2)LE THI BAO TRAM (4)HO THI THANH THAO(17)NGUYEN THI MAI HUONG <-71'(8)NGUYEN THI THUY NHI> (20)LE HONG YEU [MF](5)HOANG THI NGOC ANH <-85'(13)LY LINH TRANG> (6)YU THI HOA(7)TRAN NHAT LAN <-59'(14)NGUYEN THUY LINH> (9)LUU HOANG VAN <-85'(18)NGUYEN PHUONG ANH> (15)BUI THI THUONG <-71'(22)NGAN THI THANH HIEU> [FW](10)NGOC MINH CHUYEN

控え:(1)DANH THI KIEU MY(12)NGUYEN PHUONG THAO(3)NGUYEN THI NHU QUYNH(11)NGUYEN THI THUY LINH(16)LUU NHU QUYNH(19)TRUONG CAM LY(23)LE THI TRANG

得点 [日本]11'、31'、44'松窪真心(1-0)(2-0)(3-0)、56'、64'土方麻椰(4-0)(5-0)、66'辻澤亜唯(6-0)、70'佐々木里緒(7-0)、73'笹井一愛(8-0)、83'米田博美(9-0)、84'白沢百合恵(10-1)

グループステージ第3戦

U-20日本女子代表 0 (前半0-0 後半0-0) 1 U-20朝鮮民主主義人民共和国女子代表

●2024年3月10日 13:00 ●Jar Stadium ●試合時間:90分 ●審判員:[主審]CHOKI OM(BHU) [副審]CHODEN TSHERING(BHU)/BATTSETSEG UNURJARGAL(MNG) [第4の審判員]SUNITA THONGTHAWIN(THA) ●マッチコミッショナー:TRUONG HIEU HUONG(VIE) ●観衆:20人

日本(監督:狩野倫久):[GK](18)鹿島彩莉 [DF](3)米田博美(6)佐々木里緒(7)小山史乃観(17)白垣うの(22)岡村来佳 <-36'(14)土方麻椰> [MF](4)白沢百合恵 <-HT(5)大山愛笑> (9)笹井一愛 <-61'(19)松永未夢> (16)天野紗 <-85'(8)角田楓佳> [FW](10)松窪真心(20)樋渡百花 <-HT(13)辻澤亜唯>

控え:(1)大熊茜(21)岩崎有波(2)吉岡心(11)大島暖菜(12)中谷莉奈(15)林愛花(23)久保田真生

DPR Korea(監督:RI SONG HO):[GK](21)CHAE UN GYONG [DF](2)RI SU YANG(5)OH SOL SONG(6)KIM KANG MI(13)JON RYONG JONG(14)HWANG YU YONG [MF](9)KIM SONG GYONG(12)CHOE KANG RYON(20)CHAE UN YONG <-90+2'(11)HAM JU HYANG> [FW](10)PAK MI RYONG <-HT(4)HYON JI HYANG> <-66'(7)JONG KUM> (15)CHOE IL SON <-87'(22)KIM SONG OK>

控え:(18)KIM KYONG RIM(8)KIM YU GYONG(16)PAK HYO SON(17)JANG KYONG HUI(19)MIN KYONG JIN

得点 [DPR Korea]22'CHAE UN YONG
警告 [DPR Korea]38'PAK MI RYONG、86'CHOE IL SON

グループステージ第2戦

U-20日本女子代表 2 (前半1-0 後半1-0) 0 U-20中国女子代表

●2024年3月7日 16:00 ●Jar Stadium ●試合時間:90分 ●審判員:[主審]KIM YU JEONG(KOR) [副審]NUANNID DONJANGREED(THA)/LAUREN HARGRAVE(AUS) [第4の審判員]PARK SEJIN(KOR) ●マッチコミッショナー:TRUONG HIEU HUONG(VIE) ●観衆:85人

日本(監督:狩野倫久):[GK](1)大熊茜 [DF](3)米田博美(7)小山史乃観(17)白垣うの [MF](5)大山愛笑 <-62'(8)角田楓佳> (15)林愛花 <-HT(9)笹井一愛> (16)天野紗 (19)松永未夢 <-74'(13)辻澤亜唯> [FW](10)松窪真心 <-90'(4)白沢百合恵> (14)土方麻椰(23)久保田真生 <-HT(6)佐々木里緒>

控え:(18)鹿島彩莉(21)岩崎有波(2)吉岡心(11)大島暖菜(12)中谷莉奈(20)樋渡百花(22)岡村来佳

中国(監督:WANG JUN):[GK](1)LIU CHEN [DF](3)XIA LEJIAO(4)WANG SIQIAN (14)GUO NAN [MF](7)LI TINGYINGGE <-90'(23)HUANG XUEYANG> (8)JIANG CHENJING <-HT(10)YU JIAQI> (16)WANG AIFANG <-70'(18)ZHANG CHENXI> (17)HUO YUEXIN(21)CHEN JIAYU [FW](9)LU JIAYU <-78'(6)ZHANG YIQIAN> (11)OUYANG YUHUAN <-70'(13)WU YEJIA>

控え:(12)PAN HONGYAN(22)GUO XINYU(2)ZENG YUJIA(5)ZHAO XINYUE(15)YU XINGYUE(19)LIU LING(20)WANG ZHEN

得点 [日本]27'土方麻椰(1-0)、88'天野紗(2-0)
警告 [中国]87'LI TINGYINGGE

準決勝

U-20日本女子代表 5 (前半1-1 後半4-0) 1 U-20オーストラリア女子代表

●2024年3月13日 16:00 ●Jar Stadium ●試合時間:90分 ●審判員:[主審]DONG FANGYU(CHN) [副審]XIE LIJUN(CHN)/SUPAWAN HINTHONG(THA) [第4の審判員]PANSА CHAISANIT(THA) ●マッチコミッショナー:CHERI STEWART(GUM) ●観衆:100人

日本(監督:狩野倫久):[GK](18)鹿島彩莉 [DF](3)米田博美(6)佐々木里緒(7)小山史乃観(17)白垣うの [MF](8)角田楓佳(15)林愛花 <-HT(5)大山愛笑> (16)天野紗 <-73'(9)笹井一愛> [FW](13)辻澤亜唯 <-88'(12)中谷莉奈> (14)土方麻椰 <-90+2'(20)樋渡百花> (23)久保田真生 <-HT(19)松永未夢>

控え:(1)大熊茜(21)岩崎有波(2)吉岡心(4)白沢百合恵(11)大島暖菜(22)岡村来佳

オーストラリア(監督:LEAH BLAYNEY):[GK](1)CHLOE LINCOLN [DF](15)ALEXIA APOSTOLAKIS(21)NAOMI CHINNAMA(23)SASHA GROVE [MF](10)DAMELA GALIC(14)ZARA KRUGER <-83'(6)SHAY HOLLMAN> (17)MADELEINE CASPERS <-63'(16)CLAUDIA CICCIO> (20)INDIANA DOS SANTOS <-77'(11)KAHLI JOHNSON> [FW](5)JESSIKA NASH(7)MILLY BOUGHTON <-HT(19)LARA GOOCH> (13)PETA TRIMIS <-77'(8)ALANA MURPHY>

控え:(12)TAHLIA FRANCO(18)GRACE WILSON(2)TIJAN MCKENNA(3)TEGAN BERTOLISSIO(4)GEMMA FERRIS(9)JYNAYA SANTOS(22)GEORGIA CASSIDY

得点 [日本]3'米田博美(1-0)、63'白垣うの(2-1)、83'土方麻椰(3-1)、88'笹井一愛(4-1)、89'オウングール(5-1) [オーストラリア]13'PETA TRIMIS(1-1)

決勝

U-20日本女子代表 1 (前半1-1 後半0-1) 2 U-20朝鮮民主主義人民共和国女子代表

●2024年3月16日 18:00 ●Jar Stadium ●試合時間:90分 ●審判員:[主審] DONG FANGYU (CHN) [副審] XIE LIJUN (CHN) / SUPAWAN HINTHONG (THA) [第4の審判員] LE THI LY (VIE) ●マッチコミッショナー: CHERI STEWART (GUM) ●観衆:160人

日本(監督:狩野倫久):[GK](18)鹿島彩莉 [DF](3)米田博美(6)佐々木緒緒(7)小山史乃 観(17)白垣うの [MF](5)大山愛笑<-77'(11)大島暖菜>(8)角田楓佳(16)天野紗(23) 久保田真生<-HT(20)樋渡百花> [FW](13)辻澤亜唯(14)土方麻椰<-HT(9)笹井一愛>

控え:(1)大熊茜(21)岩崎有波(2)吉岡心(4)白沢百合恵(12)中谷莉奈(15)林愛花(19)松永未夢(22)岡村来佳

DPR Korea(監督:RI SONG HO):[GK](21) CHAE UN GYONG [DF](3) HAN HONG RYON (5) OH SOL SONG (6) KIM KANG MI (13) JON RYONG JONG (14) HWANG YU YONG [MF](9) KIM SONG GYONG (20) CHAE UN YONG (22) KIM SONG OK <-79'(12)CHOE KANG RYON> [FW](10)PAK MI RYONG <-82'(7) JONG KUM >(15)CHOE IL SON

控え:(18)KIM KYONG RIM(2)RI SU YANG(4)HYON JI HYANG(8)KIM YU GYONG (11)HAM JU HYANG(16)PAK HYO SON(17)JANG KYONG HUI(19)MIN KYONG JIN

得点 [日本]20'辻澤亜唯(1-0) [DPR Korea]44', 86'JON RYONG JONG(1-1)(1-2)

警告 [DPR Korea]90+1'OH SOL SONG

©2024 AFC



決勝・U-20日本女子代表 vs U-20朝鮮民主主義人民共和国女子代表

U-17日本女子代表候補 国内トレーニングキャンプ(千葉)

[スタッフ]

○監督:白井貞義(NCS) ○コーチ:金野結子(NCS) ○GKコーチ:井嶋正樹(NCS) ○フィジカルコーチ:山田庸(びわこ成蹊スポーツ大学) ○テクニカルスタッフ:寺口謙介(JFAテクニカルハウス)

<選手>

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	坂田湖琳	開志学園JAPANサッカーカレッジ高校	MF	本多桃華	十文字高校
	永井愛理	日テレ・東京ヴェルディメニナ		菊地花奈	マイナビ仙台レディースユース
	福田真央	JFAアカデミー福島		榊愛花	JFAアカデミー福島
DF	鈴木温子	日テレ・東京ヴェルディメニナ	FW	平川陽菜	三菱重工浦和レッズレディースジュニアユース
	太田美月	大商学園高校		福島望愛	JFAアカデミー福島
	牧口優花	セレッソ大阪ヤンマーガールズU-18		木下日菜子	セレッソ大阪ヤンマーガールズU-18
	岩城恋音美※1	マイナビ仙台レディースユース		根津里莉日	ジェフユナイテッド市原・千葉レディースU-18
	朝生珠実	日テレ・東京ヴェルディメニナ		佐藤ももろんウエキ	大商学園高校
MF	青木夕菜	日テレ・東京ヴェルディメニナ	辻あみる	三菱重工浦和レッズレディースユース	
	菅原千嘉※2	マイナビ仙台レディースユース	津田愛乃音	マイナビ仙台レディースユース	
	眞城美春	日テレ・東京ヴェルディメニナ	花城恵唯	JFAアカデミー福島	
	古田麻子	セレッソ大阪ヤンマーガールズU-18			
	原ひばり	JFAアカデミー福島			

<スケジュール>

3月11日 トレーニング(高円宮記念JFA夢フィールド)
 12日 練習試合 vs 日体大SMG横浜(稲毛海浜公園球技場)
 トレーニング(高円宮記念JFA夢フィールド ジム)
 13日 トレーニング(稲毛海浜公園球技場)
 練習試合 vs 筑波大学(稲毛海浜公園球技場)
 14日 トレーニング(稲毛海浜公園球技場)

※1:ケガのため不参加
 ※2:追加招集

フットサル日本女子代表 ポルトガル遠征 (Futsal Women's A National Teams 4-team preparation tournament)

[スタッフ]

○団長:小西鉄平(JFAフットサルテクニカルダイレクター) ○監督:須賀雄大(NCS) ○コーチ:藤田安澄(JFAフットサルインストラクター/湘南ベルマーレ) ○GKコーチ:富澤孝(JFAフットサルGKプロジェクト/バルドラール浦安/東急SレイエスFC) ○フィジカルコーチ:大森知(JFAフットサルフィジカルプロジェクト/フウガドールすみだ/東急SレイエスFC)

<選手>

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	井上ねね	立川アスレティックFCレディース	FP	四井沙樹	Poio Pescamar FS (ESP)
	須藤優理亜	フウガドールすみだレディース		江川涼	SWHLレディース西宮
FP	笹井りさ	バルドラール浦安ラス・ポニータス	松本直美	バルドラール浦安ラス・ポニータス	
	網城安奈	SWHLレディース西宮	塚本夏希	バルドラール浦安ラス・ポニータス	
	宮原ゆかり	バルドラール浦安ラス・ポニータス	追野沙羅	SWHLレディース西宮	
	伊藤果穂	バルドラール浦安ラス・ポニータス	齊下遼音	SWHLレディース西宮	
	江口未珂	バルドラール浦安ラス・ポニータス	池内天紀	福井丸岡ラック	

ESP:スペイン

<スケジュール>

3月10日 トレーニング(高円宮記念JFA夢フィールド)
 羽田発
 11日 イスタンブール経由、ポルト着
 12日 トレーニング
 13日 トレーニング
 練習試合
 14日~15日 トレーニング
 16日 Futsal Women's A National Teams 4-team preparation tournament
 第1戦 vs フットサルポルトガル女子代表 (Pavilhão Multiusos de Fafe)
 17日 第2戦 vs フットサルブラジル女子代表 (Pavilhão Multiusos de Fafe)
 18日 トレーニング
 19日 第3戦 vs フットサルスペイン女子代表 (Pavilhão Multiusos de Fafe)
 20日 ポルト発、イスタンブール経由
 21日 羽田着

第1戦

フットサル 日本女子代表 0 (第1ピリオド0-2 第2ピリオド0-3) 5 フットサル ポルトガル女子代表

●2024年3月16日 17:00 ●Pavilhão Multiusos de Fafe ●試合時間:40分(プレイングタイム)

位置	番号	出場	選手名	位置	番号	出場	選手名
GK	1	○	井上ねね	FP	10	△	網城安奈
GK	2		須藤優理亜	FP	11	○	筏井りさ
FP	3	○	江口未珂	FP	14	○	松本直美
FP	4	△	四井沙樹	FP	15	△	伊藤果穂
FP	6	○	塚本夏希	FP	16	△	池内天紀
FP	7	△	追野沙羅	FP	20	△	音下遼音
FP	8	△	宮原ゆかり				
FP	9		江川涼	監督			須賀雄大

得点 | 7', 16', 27', 33', 39' 失点 (0-1) (0-2) (0-3) (0-4) (0-5)

第2戦

フットサル 日本女子代表 1 (第1ピリオド1-3 第2ピリオド0-2) 5 フットサル ブラジル女子代表

●2024年3月17日 17:00 ●Pavilhão Multiusos de Fafe ●試合時間:40分(プレイングタイム)

位置	番号	出場	選手名	位置	番号	出場	選手名
GK	1		井上ねね	FP	10	○	網城安奈
GK	2	○	須藤優理亜	FP	11	△	筏井りさ
FP	3	△	江口未珂	FP	14	△	松本直美
FP	4	○	四井沙樹	FP	15	△	伊藤果穂
FP	6	△	塚本夏希	FP	16	○	池内天紀
FP	7	△	追野沙羅	FP	20	△	音下遼音
FP	8	△	宮原ゆかり				
FP	9	○	江川涼	監督			須賀雄大

得点 | 4', 4', 11' 失点 (0-1) (0-2) (0-3), 15' 江口未珂 (1-3), 34', 37' 失点 (1-4) (1-5)

第3戦

フットサル 日本女子代表 2 (第1ピリオド1-0 第2ピリオド1-0) 0 フットサル スペイン女子代表

●2024年3月19日 16:00 ●Pavilhão Multiusos de Fafe ●試合時間:40分(プレイングタイム)

位置	番号	出場	選手名	位置	番号	出場	選手名
GK	1	○	井上ねね	FP	10	○	網城安奈
GK	2	△	須藤優理亜	FP	11	△	筏井りさ
FP	3	△	江口未珂	FP	14	△	松本直美
FP	4	○	四井沙樹	FP	15	△	伊藤果穂
FP	6	△	塚本夏希	FP	16	△	池内天紀
FP	7	○	追野沙羅	FP	20	△	音下遼音
FP	8	△	宮原ゆかり				
FP	9	○	江川涼	監督			須賀雄大

得点 | 1' 井上ねね (1-0), 23' 網城安奈 (2-0)

U-17日本高校サッカー選抜 第39回静岡県ヤングサッカーフェスティバル

【スタッフ】

○団長: 二見元(大宮東高校) ○監督: 富居徹雄(旭川実業高校) ○コーチ: 小野貴裕(関東第一高校) ○GKコーチ: 木村大地(矢板中央高校) ○トレーナー: 赤羽達也(横浜リゾート&スポーツ専門学校) ○主務: 加藤悠(東久留米総合高校)、田淵常夫(熊谷高校)

<選手>

Pos.	名前	所属	学年	Pos.	名前	所属	学年
GK	佐々木智太郎	昌平高校	2	MF	大谷湊斗	昌平高校	2
	ギマラエス・ニコラス	市立船橋高校	2		柚木創	流通経済大柏高校	2
	早川ウワブライ	日本体育大学柏高校	2		木村有磨	履正社高校	2
DF	山田佳	前橋育英高校	2	FW	嶋本悠大	大津高校	2
	谷口輝	西武台高校	2		新垣陽盛	神村学園高等部	2
	森奏	堀越高校	2		福島和毅	神村学園高等部	1
	岡崎礼暉	関東第一高校	2		清水彪雅	旭川実業高校	2
	山本圭晋	帝京長岡高校	2		オノノジュ 慶史	前橋育英高校	2
MF	鈴木悠仁	神村学園高等部	2	久保原心優	市立船橋高校	2	
	笹修大	札幌大谷高校	2	宮地陸翔	京都橋高校	2	
	大内完介	尚志高校	2	大石脩斗	鹿児島城西高校	1	
	平林尊琉	前橋育英高校	1				

<スケジュール>

2月29日 トレーニング(草薙総合運動場球技場)
 3月1日 トレーニング(草薙総合運動場球技場) 練習試合
 vs 静岡産業大学(草薙総合運動場球技場)
 トレーニング(草薙総合運動場陸上競技場)
 3日 第39回静岡ヤングサッカーフェスティバル
 vs 静岡県ユース選抜(草薙総合運動場陸上競技場)

U-17日本高校サッカー選抜 第6回J-VILLAGE CUP U18

【スタッフ】

○団長: 二見元(大宮東高校) ○監督: 富居徹雄(旭川実業高校) ○コーチ: 小野貴裕(関東第一高校) ○GKコーチ: 木村大地(矢板中央高校) ○トレーナー: 赤羽達也(横浜リゾート&スポーツ専門学校) ○主務: 加藤悠(東久留米総合高校)、田淵常夫(熊谷高校)

<選手>

Pos.	名前	所属	学年	Pos.	名前	所属	学年
GK	佐々木智太郎	昌平高校	2	MF	大谷湊斗	昌平高校	2
	ギマラエス・ニコラス	市立船橋高校	2		柚木創	流通経済大学付属柏高校	2
	早川ウワブライ	日本体育大学柏高校	2		木村有磨	履正社高校	2
DF	山田佳	前橋育英高校	2	FW	嶋本悠大	大津高校	2
	谷口輝	西武台高校	2		新垣陽盛	神村学園高等部	2
	森奏	堀越高校	2		福島和毅	神村学園高等部	1
	岡崎礼暉	関東第一高校	2		清水彪雅	旭川実業高校	2
	山本圭晋	帝京長岡高校	2		オノノジュ 慶史	前橋育英高校	2
MF	鈴木悠仁	神村学園高等部	2	久保原心優	市立船橋高校	2	
	笹修大	札幌大谷高校	2	宮地陸翔	京都橋高校	2	
	大内完介	尚志高校	2	大石脩斗	鹿児島城西高校	1	
	平林尊琉	前橋育英高校	1				

<スケジュール>

3月14日 トレーニング(Jヴィレッジ)
 15日 ミーティング
 第6回J-VILLAGE CUP
 予選第1戦 vs 鹿島アントラーズユース(Jヴィレッジスタジアム)
 16日 予選第2戦 vs 大宮アルディージャU18(JヴィレッジP3)
 17日 予選第3戦 vs 川崎フロンターレU-18(Jヴィレッジ全天候型練習場)
 18日 順位決定戦 vs 川崎フロンターレ(Jヴィレッジ)
 試合終了後解散

日本高校サッカー選抜 第38回デンソーカップチャレンジサッカー 福島大会

【スタッフ】

○団長：蔵森紀昭(成城学園高校) ○監督：米澤一成(京都橘高校) ○コーチ：有村圭一郎(神村学園高等部) ○GKコーチ：太田渉(京都橘高校/インテルナショナルジャパン)
○トレーナー：和泉彰宏(京都橘高校) ○総務：村山孝博(川島高校) ○主務：宮坂拓弥(駒込中学校・高校)、青柳友哉(浦和東高校)

<選手>

Pos.	名前	所属	学年	Pos.	名前	所属	学年
GK	鈴木将永	青森山田高校	3	MF	杉本英誉	青森山田高校	3
	雨野颯真	前橋育英高校	3		芝田玲	青森山田高校	3
	平塚仁	岡山芸芸館高校	3		神田拓人	尚志高校	3
DF	小泉佳絃	青森山田高校	3	長準喜	昌平高校	3	
	山本虎	青森山田高校	3	太田隼剛	市立船橋高校	3	
	渡邊優空	尚志高校	3	松田悠世	桐光学園高校	3	
	市川和弥	尚志高校	3	北藤朔	神戸弘陵高校	3	
	塩川椋道	流通経済大柏高校	3	名和田我空	神村学園高等部	2	
	布施克真	日大藤沢高校	2	FW	網代陽勇	尚志高校	3
	野田隼太郎	藤枝東高校	3		小田暁平	昌平高校	3
池戸柊宇	京都橘高校	3	宮下拓弥		桐光学園高校	3	
				高岡伶颯	日章学園高校	2	

<スケジュール>

2月25日～26日 トレーニング
27日 第38回デンソーカップチャレンジサッカー 福島大会
グループリーグ第1戦 vs 東北選抜 (Jヴィレッジ 1番ピッチ)
28日 グループリーグ第2戦 vs 関東選抜A (Jヴィレッジ 3番ピッチ)
29日 グループリーグ第3戦 vs プレーオフ選抜 (Jヴィレッジ 1番ピッチ)
3月1日 トレーニング
2日 5・6位決定戦 vs U-20全日本選抜 (Jヴィレッジ 1番ピッチ)

第38回デンソーカップチャレンジサッカー 福島大会

一般財団法人全日本大学サッカー連盟およびJFAが主催する本大会は、JFAおよび全日本大学サッカー連盟登録選手(原則3年生以下の者)に参加資格が与えられた。今大会は2月20日～3月2日に開催され、8チームが出場した。

■グループリーグ

順位	グループA	関東選抜B	関西選抜	U-20全日本選抜	東海選抜	勝	分	負	得点	失点	差
1	関東選抜B		1●2	2○1	1○0	6	2	0	14	3	1
2	関西選抜	2○1		1●3	2○1	6	2	0	15	5	0
3	U-20全日本選抜	1●2	3○1		1●2	3	1	0	5	5	0
4	東海選抜	0●1	1●2	2○1		3	1	0	3	4	-1

順位	グループB	プレーオフ選抜	関東選抜A	日本高校選抜	東北選抜	勝	分	負	得点	失点	差
1	プレーオフ選抜		3○2	3○1	5○0	9	3	0	11	3	8
2	関東選抜A	2●3		1○0	7○0	6	2	0	10	3	7
3	日本高校選抜	1●3	0●1		0△0	1	0	1	2	4	-3
4	東北選抜	0●5	0●7	0△0		1	0	1	2	12	-12

○:勝ち(勝ち点3)、△:引き分け(勝ち点1)、●:負け(勝ち点0)

■順位決定戦

<決勝戦> 関東選抜B 3-1 プレーオフ選抜
<3位決定戦> 関西選抜 1-4 関東選抜A
<5位決定戦> U-20全日本選抜 1-0 日本高校選抜
<7位決定戦> 東海選抜 2-1 東北選抜

【参加選手】

<東北選抜> 監督:鳴尾直軌

泉竜聖、菅野稜斗、佐藤健美、奥野睦生、山内琳太郎、原涼太、菅野聖斗、本多晴瑠斗、堀田玲穂、福田拳龍、寺島アミール、藤田弥、横溝広太、寺崎朋範、須藤栄二、小笠原陽、本田真斗、斉藤拓、ベベニヨ日高オギュステュ祐登、中村太紀、佐々木真之介

<関東選抜A> 監督:深井正樹

彼島優、小川嵩翔、根本健太、沖田空、五十嵐聖己、角昂志郎、笠井佳祐、駒沢直哉、桑山侃士、中村草太、半代将都、ヒル袈依廉、入江幹介、林晴己、田中幹大、加藤玄、中島舜、小澤亮太、大森慧斗、松橋啓太、木内達也

<関東選抜B> 監督:川本大輔

西澤翼、小林菜太、梅津龍之介、松本太一、池谷銀姿郎、川上航立、吉野陽翔、川畑優翔、渡邊啓吾、五木田季晋、中川敦瑛、松本峻汰、高橋輝、山市秀翔、家坂葉光、熊倉弘達、猪狩祐真、松永颯汰、神橋良汰、植木颯、常藤奏

<東海選抜> 監督:堀尾郷介

山口欽良、武藤寛、大磯竜輝、岡島翔生、河田波大、清水和馬、深澤太、元田陸、前田寛太、村田達哉、池田虎弘、福本悠、有働夢叶、長井結矢、押富大輝、大石真輝、屋嘉比奏汰、那須健一、柴田大誠、市村駿成、久保周太郎

<関西選抜> 監督:石間寛人

倉原将、大串昇平、木邨優人、金沢一矢、峰田祐哉、横皇皇太、木戸柊摩、中野瑠馬、関田隼人、古山兼悟、鹿取勇斗、波多野崇史、村上景司、戸水利紀、菅野翔斗、川島功奨、杉本蓮、松井匠、吉田有志、箱崎達也、佐伯清之助

<U-20全日本選抜> 監督:佐藤健

佐藤瑠星、島田春人、多久島良紀、田口空我、佐藤颯真、渋谷諒太、廣井蘭人、島野怜、内野航太郎、藤森颯太、小湊絆、デューフ エマニエル凜太郎、森本空斗、三木仁太、香取潤、飯島大地、松村晃助、塩貝健人、諏訪間幸成、伊藤翼、山之内佑成

<日本高校選抜> 監督:米澤一成

鈴木将永、野田隼太郎、小泉佳絃、塩川椋道、市川和弥、長準喜、神田拓人、芝田玲、宮下拓弥、網代陽勇、松田悠世、高岡伶颯、渡邊優空、杉本英誉、山本虎、太田隼剛、平塚仁、名和田我空、布施克真、北藤朔、池戸柊宇、小田暁平、雨野颯真

<プレーオフ選抜> 監督:永富裕也

中野翔、吉川敬進、磯谷駿、江崎智哉、秋元琉星、村田迅、熊野敬二郎、松尾亮汰、加藤大晟、橋本悠、吉田晃盛、野知凜平、片山颯人、井出龍志、松本天夢、松元瑠磨、酒井大斗、矢野佑介、細井響、松岡誓祈、坂井悠真

JFA 第35回O-40女子サッカーオープン大会

本大会は、JFAが主催し、1983(昭和58)年12月31日以前生まれのJFA登録選手(女性)によって構成されたチームに出場資格が与えられた。今大会は3月8日～10日、福島県のJヴィレッジで開催された。

※72ページに関連記事あり

■1次ラウンド

順位	グループA	小平	大津	TOYOTA	TON	勝	分	負	得点	失点	差
1	小平サッカークラブ(関東/東京)		2○1	5○0	5○0	9	3	0	12	1	11
2	スポーツの森・大津マリノス(九州/熊本)	1●2		1△1	6○0	4	1	1	8	3	5
3	LFC TOYOTA(東海/愛知)	0●5	1△1		5○0	4	1	1	6	6	0
4	FC TONレディース(北信越/石川)	0●5	0●6	0●5		0	0	3	0	16	-16

順位	グループB	長野	フロンティア	成田	岩手	勝	分	負	得点	失点	差
1	長野ファミリー(北信越/長野)		0△0	1○0	4○1	7	2	1	5	1	4
2	FCフロンティア(関東/神奈川)	0△0		1○0	1○0	7	2	1	0	2	2
3	オール成田(関東/千葉)	0●1	0●1		0△0	1	0	1	2	0	-2
4	岩手けっぱレディースO-40(東北/岩手)	1●4	0●1	0△0		1	0	1	2	1	5

順位	グループC	VIDA	Feminino	VIGORE	清水	勝	分	負	得点	失点	差
1	FC.VIDA Feliz (関東/千葉)	3●2	1●0	1●0	9	3	0	0	5	2	3
2	Feminino (東北/宮城)	2●3	1●2	1●0	3	1	0	2	4	5	-1
3	FC VIGOREレディース (関東/東京)	0●1	2●1	0●1	3	1	0	2	2	3	-1
4	オール清水レディース (東海/静岡)	0●1	0●1	1●0	3	1	0	2	1	2	-1

順位	グループE	KIDI	神戸	Aomori	千葉北	勝	分	負	得点	失点	差
1	KIDI FC (関東/東京)	1●0	1△1	6●0	7	2	1	0	8	1	7
2	ポルト神戸 (関西/兵庫)	0●1	3●0	3●0	6	2	0	1	6	1	5
3	Aomori Happy Bamboo (東北/青森)	1△1	0●3	1●0	4	1	1	1	2	4	-2
4	千葉北GATINHA (関東/千葉)	0●6	0●3	0●1	0	0	0	3	0	10	-10

順位	グループG	SOCIOS	マミーズ	V.イレブン	Jewel	勝	分	負	得点	失点	差
1	SOCIOS.FC VENGA (関東/東京)	1●0	0△0	4●1	7	2	1	0	5	1	4
2	FCマミーズ (関東/神奈川)	0●1	4●0	6●0	6	2	0	1	10	1	9
3	F.C.V.イレブン (東北/福島)	0△0	0●4	4●1	4	1	1	1	4	5	-1
4	FC Jewel (北信越/新潟)	1●4	0●6	1●4	0	0	0	3	2	14	-12

順位	グループD	おいでやす	茨城	千葉	リトルスターズ	勝	分	負	得点	失点	差
1	おいでやす京都&滋賀 (関西/京都)	1●0	3●1	3●0	9	3	0	0	7	1	6
2	オール茨城 (関東/茨城)	0●1	3●0	0△0	4	1	1	1	3	1	2
3	千葉・ベイサワーズ (関東/千葉)	1●3	0●3	2●0	3	1	0	2	3	6	-3
4	リトルスターズ (東北/宮城)	0●3	0△0	0●2	1	0	1	2	0	5	-5

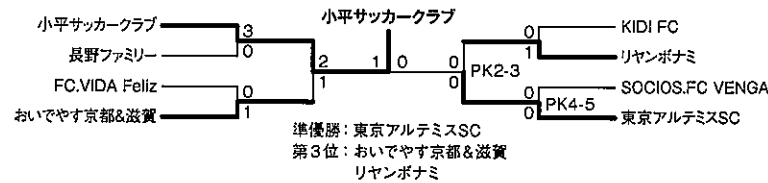
順位	グループF	リヤンボナミ	べにばな	JUVEN	とちおとめ	勝	分	負	得点	失点	差
1	リヤンボナミ (関西/兵庫)	0△0	1●0	4●0	7	2	1	0	5	0	5
2	FCべにばな (東北/山形)	0△0	0△0	4●0	5	1	2	0	4	0	4
3	JUVEN.FC.FLOR (東海/岐阜)	0●1	0△0	3●0	4	1	1	1	3	1	2
4	とちおとめ (関東/栃木)	0●4	0●4	0●3	0	0	0	3	0	11	-11

順位	グループH	アルテミス	沖縄	LIPS	CRUSADERS	勝	分	負	得点	失点	差
1	東京アルテミスSC (関東/東京)	0△0	3●1	3●0	7	2	1	0	6	1	5
2	沖縄県レディース (九州/沖縄)	0△0	2●0	1●0	7	2	1	0	3	0	3
3	LIPS(北海道)	1●3	0●2	0△0	1	0	1	2	1	5	-4
4	FOOT CRUSADERS (関東/千葉)	0●3	0●1	0△0	1	0	1	2	0	4	-4

○:勝ち(勝ち点3)、△:引き分け(勝ち点1)、●:負け(勝ち点0)

■2次ラウンド

<1位グループ 順位決定戦>



<2位グループ 順位決定戦>

- スポーツの森・大津マリノス 5-0 FCフロンティア
- Feminino 2-1 オール茨城
- ポルト神戸 1-1 FCべにばな
- FCマミーズ 4-0 沖縄県レディース

<3位グループ 順位決定戦>

- LFC TOYOTA 1-0 オール成田
- FC VIGOREレディース 2-0 千葉・ベイサワーズ
- Aomori Happy Bamboo 0-0 JUVEN.FC.FLOR
- F.C.V.イレブン 0-0 LIPS

<4位グループ 順位決定戦>

- FC.TONレディース 0-1 岩手けっぱレディース0-40
- オール清水レディース 3-0 リトルスターズ
- 千葉北GATINHA 1-0 とちおとめ
- FC Jewel 1-1 FOOT CRUSADERS

【参加選手】

<LIPS> 監督:山下雅美

大信田美香、坂田弘美、小林絵里子、福島るり子、河上いつみ、水本理恵、伊藤めぐみ、武田智美、山下雅美、氣境聖子、井下麻梨乃、杉本麻衣、山田美雪

<Aomori Happy Bamboo> 監督:築場武見

桜田佳子、竹中ユキ、田澤裕子、相馬真以、伊藤さとみ、築場由美子、櫻田早苗、館祐子、志田志津香、上田恵、田中あゆみ、清水十百実、角浜洋子

<岩手けっぱレディース0-40> 監督:佐々木麻美

佐々木智栄子、伊藤由理香、菊池美沙、石川真希、花坂由紀、藤川知美、稲草寛子、菅野美香、山内雅子、正木小雪、庭千栄子、島絵里子、中机順子、佐々木潤子、畠山祐子、家村睦美、高橋早織

<リトルスターズ> 監督:加藤義明

木村友美、加藤眞理子、上野時子、阿部美華、岡本奈緒美、門脇薫、木村彩子、瀬戸美子、中村恵美、加藤理枝、江口美佐江、熊谷ゆう子、山口志津子

<Feminino> 監督:阿部祐紀

梧桐綾、澤井扶美子、藤原春美、小林美由紀、廣瀬あゆみ、三浦弘美、佐藤夏美、阿部めぐみ、石黒聡美、波多野翠、齋藤史子、林理恵、大塚康子、中野更紗、菅原律子、安達志保子

<FCべにばな> 監督:五十嵐あゆ子

仁藤千晶、斎藤藤、渡邊とも子、青木美和、波部祥子、柴田祐子、友野朋子、鈴木朱美、菅野博子、五十嵐あゆ子、松村奈津子、鈴木未来

<F.C.V.イレブン> 監督:片桐美智哉

植松みゆき、山本裕子、山崎美由紀、大和田久実、松本喜代子、高野愛子、小関紀子、大部智絵美、横山圭子、菅本統子、高田道子、今井暁琳、堀尚美、鈴木聖子、鈴木祥子、嵐田みか、青木史江、荒川真理、佐藤浩子、舟城敬子

<オール茨城> 監督:小林梨恵

松山司、小林美由紀、長谷川律子、小林梨恵、金子理恵、田井弥生、齊藤典子、本橋香織、河村和美、齋藤理恵、榎村美帆、会沢まゆみ、出浦久美子、大久保香織、千本明子、福田裕枝、山中はるか、高口フミエ、村上寛才英

<とちおとめ> 監督:津田千明

高橋祥子、大関扶美、赤石澤めぐみ、永松美佳、岩瀬美紀、瓦薫、倉田有子、小荒井英恵、田中睦子、上野圭子、齊藤久美子、豊田京美、沼寿子、桑野美由紀、福田幸子、関正江、津田千明、斎藤清美

<千葉北GATINHA> 監督:桜井孝夫

佐藤ともえ、徳永朱巳、山根充世、山中里絵、志賀朝子、河野映、市村真未、吉本明美、田中久美子、立花良子、前田裕子、徳満敦子

<FOOT CRUSADERS> 監督:浅川千草

木佐實史恵、平山智子、岩田智恵、戸田夕子、峰岸美保子、近藤夕子、小橋恭子、染井真美子、中山麻衣子、勢司孝代、渡野眞理、市川綾子

<千葉・ベイサワーズ> 監督:渡邊学

伊藤美恵子、野口由美子、山下弘子、古谷昌代、高橋優子、村山理恵、相澤聖香、渡部孝子、柴田那都子、新村麻乃、風岡佐和子、中村静香、阿部美由紀、内藤八千穂

<オール成田> 監督:宇野雅人

宍倉麻子、仁科蘭美、二瀬麻美、保科紀子、櫻井博枝、安井智子、篠塚百里、森田弥麻、下田加奈江、松田光子、佐藤弘美、アネリア・アルデケ、山田裕美子、中村かおり、坂田七月、佐藤彩子

<FC.VIDA Feliz> 監督:田村永

小林舞子、伴野聖子、小西佳子、有田美幸子、松岡佳世子、齋藤奈々、宮方君枝、田村美和、小堀舞、梅田淳子、佐藤有里子、渡邊奈津子、植木恭

<小平サッカークラブ> 監督:滝澤實一郎

鈴木美帆、石川恵理子、滝澤志房、増川リカ、増永邦子、小橋志乃、阿多珠美、豊増由美子、泉美幸、手塚椋、長谷川千歳、長澤忍

<SOCIOS.FC VENGA> 監督:柴世記

斎藤綾、三村理恵、松村志穂美、川島純子、秋元まり子、伊藤麻奈美、吉川紗代、関根真香子、五十嵐章恵、桜井恵、森岡寛美、宇津木みる、上田原真紀子、藤澤亜希、坂下亜実、阿部寿詠、豊田香織、内田麻衣、松本幸枝、高橋麻衣子

<KIDI FC> 監督:樋口好章
金子由美子、山下奈々子、影浦智美、佐野絵美、仁禮靖子、小山直子、野沢支乃、下山田麻美、吉野礼、長澤佳代子、平岡博美、長塚綾、梶元亜紀

<東京アルテミスSC> 監督:阿部成雅
名嘉地麻美、石田美雪、小田島雪枝、住谷恵理子、高柳紀代江、森本鶴、柿沢和美、鈴木梢、能代谷恵、秋山美帆、高田節乃、金子えり、阿部三恵、笠嶋由恵、小谷野八重、祝岡尚子

<FC VIGOREレディース> 監督:篠澤幸輝
高橋由美子、内藤淳子、馬場奈緒子、宮田笑子、藤井菜穂子、村田啓子、松浦智子、石川美穂子、池田淳子、鈴木友季子、高松美香、三浦美智代

<FCフロンティア> 監督:福本伊佐子
山本幸恵、村上奈津子、小林直美、三田恭子、田久保倫子、清原美里、眞砂野みどり、安成千恵、吉浜真由子、崎谷美枝子、村上早苗、鍋島まき、古澤綾子、竹内純子、坂田知栄子、篠原和子、中村恵智子、佐藤史香、小林水穂、津山幸、今井崎理沙、福本伊佐子

<FCマミーズ> 監督:三上真季
片倉麻紀、中島理恵、菅沼祥代、石垣寿子、中道陽子、石塚ふみ江、渡辺美穂、佐溝裕子、永井有乃、井上千愛、遠藤聡子、高橋マミ、豊嶋京子、遠山美智、長田菜美子、對馬和恵、北村恵子

<FC Jewel> 監督:佐藤好美
中山智美、柳幸枝、秋山あゆみ、佐野裕子、上原江利子、齋藤弘美、山中佳代、山本麻子、滝沢祥子、秋山真佑美、大谷淳子、久矢保玲子、坂井淑子、菊地千恵、山家愛、山崎栄子、枝並素子

<長野ファミリー> 監督:川原幸子
千國幸子、松澤道代、川原幸子、宮之尾寛子、関川まゆ、小林千穂、小泉真知子、太田綾子、山口由香、三澤喜子、小澤真由美、山本裕美子、坂本佳子

<FC.TONレディース> 監督:松嶋幸治
久保由紀、篠原百合子、本田優子、西川真美、成瀬睦美、大木かずみ、越野慎子、菅野泰子、下田悦子、崎田志津香、片山裕子、宮本希世子、萬谷暁子、土屋晶子、松本恵美子、坂田由紀子、仁平貴子、佐藤栄子、橋本沙織

<オール清水レディース> 監督:林由紀
薩川浩子、猪浦美紀、矢野加奈子、山田光恵、小泉雪子、渡邊優美、林由紀、伏見有希、川崎幸美、安池友美、望月真理子

<LFC TOYOTA>
寺倉正恵、磯村理恵子、井上希美、川瀬ふみ、佐々木友美、山崎美智子、窄美根子、竹内さゆり、山本奈美、河村ひで美、佐々木里香、後藤まき

<JUVEN.FC.FLOR> 監督:深尾茂樹
河口百花、山田亜沙美、浦田江里、山下暁美、畑中敬子、水上幸子、小野田伊佐子、石原要紀、石田京子、曾根亜弓、栗本智子、深尾直美、浅畑絵里花、渡邊裕乃、安田なみえ

<おいでやす京都&滋賀> 監督:林憲子
松本優穂、道下愛子、林憲子、田中咲江、松田瑠美、奥村由香利、神谷あずさ、狩野優子、榎原久見子、出村安希子、川中里恵、世良記子、東川彩、村上桃

<ポルト神戸> 監督:加治真弓
小林美加、岩邑沙樹、中山英恵、小笠原としみ、稲垣昌子、清水環、田中真由美、泉紀子、吉田智美、金田明子、中川香、吉田万帆、桂美知世

<リヤンボナミ>
沢田裕美、坂野理江、内田典子、鈴木理恵、岡田縁、城田律子、樋口愛、梶山直子、西林光、古谷久代、位田由佳子、塩田裕子、井奥美紀子、岡部博子、竹下由起、高嶋玲奈、上林のり子、服部博子、清水あつ子

<スポーツの森・大津マリノス> 監督:今村美香
鈴木里美、緒方美恵、藤田由美子、高見恵子、田代智美、今村美香、西嶋弥生、峯知美、奥村紗代、福田史、内藤千晴、南沙由梨

<沖縄県レディース> 監督:倉原英弘
川井裕美、高良桃子、金城恵、仲程七絵、江藤真生子、上原沙織、植村敦子、山城貴子、當眞暉、久志美野、與古田歩

JFA 第35回全日本O-30女子サッカー大会

JFA が主催する本大会は、1993(平成5)年12月31日以前生まれのJFA登録選手(女性)によって構成されたチームに出場資格が与えられた。今大会は、3月16日～18日に静岡県裾野市で開催された。

※73ページに関連記事あり

■1次ラウンド

順位	グループA	大阪	SOCIOS	刈谷	リトルスターズ	勝ち点	勝	分	負	得点	失点	差
1	ジュビロニ大阪(関西/大阪)		2○1	1○0	2○0	9	3	0	0	5	1	4
2	SOCIOS FC VENGA(関東/東京)	1●2		2○0	4○0	6	2	0	1	7	2	5
3	刈谷FCプロジェクトソニア(東海/愛知)	0●1	0●2		3○0	3	1	0	2	3	3	0
4	リトルスターズ(東北/宮城)	0●2	0●4	0●3		0	0	0	3	0	9	-9

順位	グループC	大和	Arancio	室蘭	Aomori	勝ち点	勝	分	負	得点	失点	差
1	大和シルフィード98(関東/神奈川)		2○1	2○0	1○0	9	3	0	0	5	1	4
2	Arancio Giocare Fiore(四国/高知)	1●2		1○0	2○0	6	2	0	1	4	2	2
3	室蘭アイスパース(北海道)	0●2	0●1		2○0	3	1	0	2	2	3	-1
4	Aomori Happy Bamboo(東北/青森)	0●1	0●2	0●2		0	0	0	3	0	5	-5

順位	グループB	槻島	京都	べにばな	呉羽	勝ち点	勝	分	負	得点	失点	差
1	FC槻島Lifelong(関東/埼玉)		2○1	5○0	1△1	7	2	1	0	8	2	6
2	おいでやす京都(関西/京都)	1●2		3○0	4○0	6	2	0	1	8	2	6
3	FCべにばな(東北/山形)	0●5	0●3		4○3	3	1	0	2	4	11	-7
4	スフィーリア呉羽FC(北信越/富山)	1△1	0●4	3●4		1	0	1	2	4	9	-5

順位	グループD	Legame	KUMAMOTO	横須賀	広島	勝ち点	勝	分	負	得点	失点	差
1	Legame(東海/三重)		0●1	1○0	8○0	6	2	0	1	9	1	8
2	ENSOWA KUMAMOTO(九州/熊本)	1○0		0●1	3○0	6	2	0	1	4	1	3
3	横須賀シーガルズレディース(関東/神奈川)	0●1	1○0		4○2	6	2	0	1	5	3	2
4	広島Jaken(中国/広島)	0●8	0●3	2●4		0	0	0	3	2	15	-13

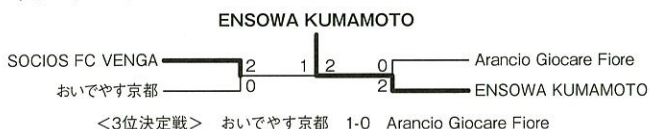
○:勝ち(勝ち点3)、△:引き分け(勝ち点1)、●:負け(勝ち点0)

■2次ラウンド(順位別ノックアウト)

<1位トーナメント>



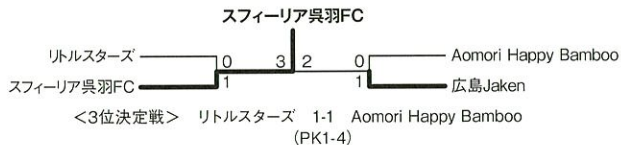
<2位トーナメント>



<3位トーナメント>



<4位トーナメント>



【参加選手】

<室蘭アイスパース> 監督:武藤貴啓

高橋遼、今野真衣、中村麻衣、末永千草、山崎しおり、菅井優香、加地百代、赤間奈津美、穴戸育子、伊原このみ、大門春奈、渋谷美紅、柴山真由美、深沢美希、小池未来、小林重樹子、武藤希代美、小松良子、冨田舞、三澤絢子、中川美咲、柴田恵見、福森律子、村本結子、松山愛、松山智、高橋李奈、則松由美子、浅利清美、伊原八重子

<Aomori Happy Bamboo> 監督:相馬真以

鈴木千尋、川村香織、相馬真以、成田千秋、石村良美、田澤裕子、桜田佳子、秋元早紀、伊藤さとみ、平栗詩乃、櫻田早苗、上田恵、荒川千紘、館祐子、小野寺美咲、鳥谷道梢、岩崎真子、奥寺史乃、寺沢千絵美、奥村のどか、志田志津香、高内沙枝

<リトルスターズ> 監督:加藤義明

木村友美、加藤眞理子、高橋綾、門脇薫、金須彩葉、上野時子、阿部美華、篠原巳佳、加藤愛里、石塚奈々、鎌田友里菜、瀬戸美子、相澤優子、加藤理枝、瀬戸聖子、村上奈奈、高橋絵里、江口美佐江、山口志津子、落合恵、佐々木エリカ、青島優里

<FCべにばな> 監督:五十嵐あゆ子

菅野理、岡部真依、渡邊とも子、本間理紗、菅本統子、高田道子、遠藤千明、横山圭子、青木美和、山本奈内子、三坂麻紀、柴田祐子、鈴木朱美、大都智絵美、五十嵐あゆ子、小田千絵美、菅野博子、横山ちなみ、友野朋子、渡部祥子、秋吉秀美、鈴木咲、仁藤千晶、鈴木未来、松村奈津子

<FC楓昂 Lifelong> 監督:溝口悠己

村井美穂、吉田葵、赤木ゆい、山田由紀、後藤可琳、北間紫乃、白土佳那、中村安希、増田麻美、片野沙也加、神永真千子、並木杏奈、関根亜史沙、高橋さやか、一谷朋子、橋本夏那子、長島しおり、岩崎若奈

<SOCIOS FC VENGA> 監督:柴世記

三村理恵、武末彩子、野牧小夏、岡田あやめ、三間陸美、飯村亜美、戸枝美咲、征矢野未奈、日高佑貴乃、新井梨恵、黒川晃、鈴江紗希、田子亜貴、庵原碧、遠藤珠美、大美賀華子、安久遙、嶋田萌、川原布紗子、山崎小百合、山崎香奈、坂下亜実、本間美妃

<横須賀シーガルズレディース> 監督:早坂啓三郎

齋田由貴、箕輪文緒、岩田美之里、静川有希、加瀬葉子、早坂優、大島瑞稀、西村由紀子、鈴木藍子、柴田真奈未、小原由梨愛、堂下弥里、高橋奈緒子、山本加奈、小林真弓、山本絵美、吉田瑞季、高木理菜、鈴木薫子

<大和シルフィード98> 監督:橋本紀代子

岩田信歩、落合友里奈、伊藤祐子、杉本萌、鈴木麻衣、佐藤千紘、太田望、浅見綾香、菅原明香、本谷さち、水島久美、橋本紀代子、常盤亜樹、新倉美穂、高畑愛梨、工藤奈津美、木村杏子、長谷川明子、冨山謙、竹村麗

<スフィーリア呉羽FC> 監督:酒井美貴

石崎真奈美、左尾真依子、前谷奈津紀、松田歩夢、中本彩香、佐伯千明、河上めぐみ、杉本佑佳、長谷川梨紗、谷澤麻子、小林優加、前田亜矢子、松崎奈、大柴明、水守里衣、帯刀敬子、中里知紗、竹中祐子

<刈谷FCプロジェクトソニア> 監督:山本益生

井上絵美子、小坂美貴、森本弘子、神野磨季、佐竹美保、飯田由衣、小山秀美、平野亜実、竹内さゆり、松田知子、今田彩乃、水野祐里、三品久美子、加藤郁香、浅岡裕美、黒野麻子、井口知子

<Legame> 監督:田中千代

佐藤麻陽、鬼塚絢子、宮迫たまみ、道倉宏子、西岡七奈、佐藤愛、清原祐子、小林海咲、那須麻衣子、宮本ともみ、田中千代、松達裕子、堤早希、乃一綾、宮川葉月、平岡彩希絵、小山美佳、堀内愛美、吉澤ひかり、中嶋喜美

<おいでやす京都> 監督:西村慶太

佐々木香織、増田志乃、道下愛子、吉田優美、阿漕洋子、辻本里英香、生本あゆみ、島津知佳、柳原久見子、福岡あかね、塚田愛菜、南麻菜、伊東祥穂、神社藍、谷原ゆかり、吉岡霞、四宮真里亜、尾本玲亜、人見早恵、宇留島里歩、谷口絵美、酒井孝子、児玉麗奈

<シュペーニ大阪> 監督:尾崎夏実

門西亜紀子、森美佳、宮本裕加、中西朋子、奥田亜希子、大平彩加、尾崎夏実、齊藤仁美、齋藤敏子、山本裕美、野間文美加、私市友貴、齋藤玲奈、松野みゆき、高橋悠、櫻井千尋、松崎愛、荒川友恵、小坂夏希、六車美紀、黒田千賀、三輪由衣

<広島 Jaken> 監督:難波明子

米廣明子、西岡恭子、日高利江、上谷久美子、難波明子、倉本さえ、大塚涼子、石川暁子、重本祐佳、大垣直美、西川ほたる、本藤理佐、坪島絵未、木下由喜、伊折浩実、石丸圭子、田邊友恵、今津美代、足立英梨子

<Arancio Giocare Fiore> 監督:江澤みずほ

山下志保、酒井美穂、秋山信恵、入交美緒、高瀬葵、中西ひろ、矢野恵理、岡林直子、八坂美並、江澤みずほ、宮本真奈、岡田由花里、福島雪恵、水野妙子、川久保香

<ENSOWA KUMAMOTO> 監督:山下克己

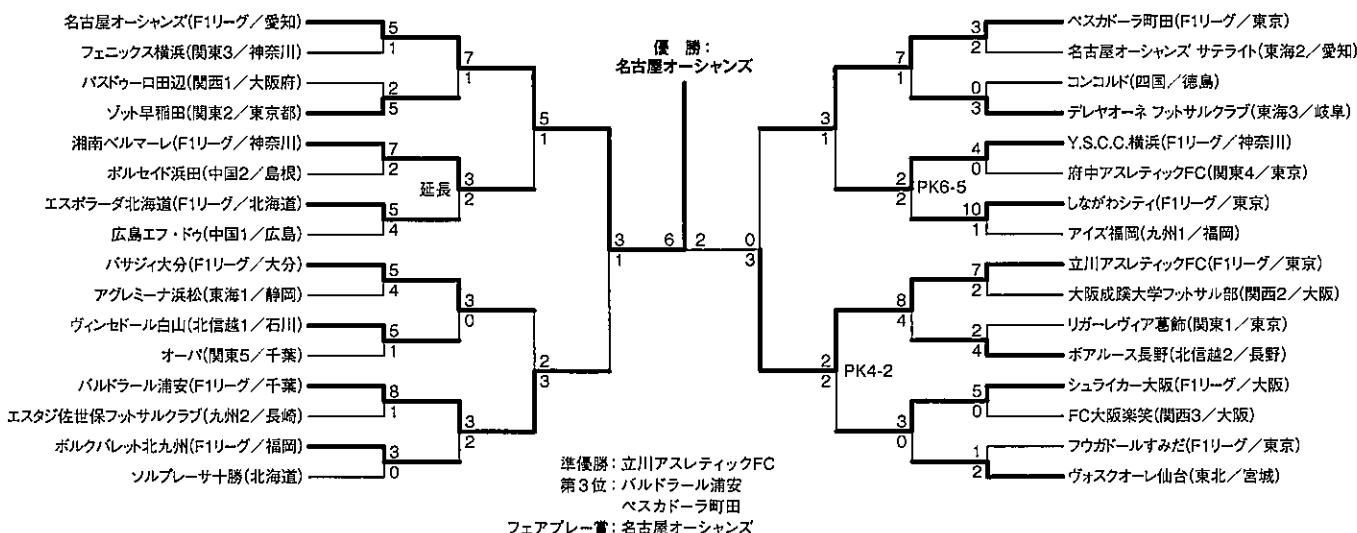
竹内佑希、島田佳由子、堀夏実、寺澤希、西村望、内藤千晴、濱田恵里奈、櫻岡裕美、磯金みどり、木村絵梨、播正菜花、北川みなも、吉川亜希、原啓子、奥村紗代、松山由佳、田頭陽子、武富波路、草野瑞樹、久保田麻美、伊藤ゆい

データボックス

JFA 第29回全日本フットサル選手権大会

JFAが主催する本大会は、フットサル1種または2種の種別で加盟登録を行い、2008年4月1日以前に生まれた選手で構成されるチームに出場資格が与えられた。1回戦：2回戦は2月24日～25日に愛知県、大府市、兵庫県、福岡県で、準々決勝～決勝は3月1日～3日に東京都・駒沢オリンピック公園総合運動場体育館で開催され、32チームが出場した。

※74ページに関連記事あり



準決勝

名古屋オーシャンズ 3 (第1ピリオド1-0, 第2ピリオド2-1) 1 バルトラルール浦安

●2024年3月2日 12:05 ●駒沢オリンピック公園総合運動場屋内球技場 ●試合時間: 40分 ●審判員:[主審]山崎聖也 [第2審判]常國広平 [第3審判]池田幸弘 [タイムキーパー]藤田武志 ●マッチコミッショナー:五十川和也 ●観衆:670人

Table with columns: 選手名, 出場, 番号, 位置, 位置, 番号, 出場, 選手名. Lists players for both teams and their stats.

得点 [名古屋オーシャンズ]4'鬼塚祥慶(1-0)、29'オウンゴール(2-0)、33'ダルラン(3-1) [バルトラルール浦安]30'東出侑椰(2-1)

警告 [名古屋オーシャンズ]6'鬼塚祥慶、25'アンドレシート

○:先発、△:交代出場

【参加選手】

<エスポラーダ北海道> 監督:嵯峨祐太

関口優志、山下颯大、本郷輝、伊藤慶人、小原風輝、室田祐希、木村優太、鈴木裕太郎、近藤一哉、仁科佑太、山田優介、山本航平、水上玄太、福田亮、佐藤明生、亀谷啓太、堀米将太、西村啓

<バルトラルール浦安> 監督:小宮山友祐

ピレス・イゴール、小野寺優介、福重勝徳、大島旺洋、長坂拓海、東出侑椰、本石猛裕、加藤竜馬、ディウドゥ、田中晃輝、石田健太郎、吉田圭吾、伊東陽希、柴山圭吾、宇野伊織、空涼介、外林綾吾、染野伸也

<フウガドールすみだ> 監督:北陽智宙

岸将太、入江悠斗、本地一貴、諸江剣鋸、星龍太、清水誠也、田口元気、島山勇気、根本佑、栗本博生、北村弘樹、甘利斗亜、羽生恒平、中田秀人、垂井斗我、安藤大智

<しながわシティ> 監督:松田次郎

岩永汰紀、山崎総徳、黒木ギレルメ、瀬澤大將、佐藤達也、芝野創太、荒木辰文、中村友亮、白方秀和、サカイダニエル、ユウジ、美馬亘輝、藤川侑哉、笠篤史、丹羽脩人、カイオ、熊谷利紀

<立川アスレティックFC> 監督:比嘉利カルド

榎山昇吾、西渡太、浅井凱斗、新井裕生、皆本晃、上村充哉、完山徹一、南雲颯太、菅谷知寿、横山巧、中村充、永田周也、柴田孝平、岩本大輝、出川翔、湯浅拓斗、ボラ、酒井遼太郎

<ベスカドーラ町田> 監督:甲斐修侍

ジオヴァニ、土岡優晟、日根野谷建、高橋裕大、山中翔斗、伊藤圭汰、クレバウジ・ヴィニシウス、原辰介、磯貝飛那大、阿部瑠依、中村心之佑、雲切啓太、荒川勇気、倉科亮佑、遠藤颯、野村啓介

<Y.S.C.C.横浜> 監督:鳥丸太作

矢澤大夢、井戸孔愚、福川琢磨、伊藤玄、高橋響、ロドリゲス・リッツィ・ガブリエル、北野聖夜、田村佳翔、安井嶺芽、小林拓夢、小林歩夢、堤優太、菅原健太

<湘南ベルマーレ> 監督:伊久間洋輔

中澤航、フィウザ、前川尚志、林田フェリペ、佐藤玲雅、デ・モラレス・ナタン・フェリペ、内村俊太、山崎歩夢、津田京一郎、牧野謙心、牛迫蒼海、高橋広大、堀内迪弥、菊池大介、本田真琉、萩原真夏

<名古屋オーシャンズ> 監督:フエンテス

篠田龍馬、田淵広史、鬼塚祥慶、水谷颯真、宮川泰生、安藤良平、アンドレシート、ギレルマオ、清水和也、ダルラン、吉川智貴、八木聖人、金澤空、甲斐穰人

<シュライカー大阪> 監督:永井義文

樋口就大、矢内大介、眞野翔太、安彦憲史郎、齋藤日向、野村悠翔、加藤未浩宏、磯村直樹、加藤翼、清水寛治、島山功志、計盛良太、笠島大輝、田村友貴、中井駿斗、井口謙太郎、樋口未樹也、田村研人

<ホルクバレット北九州> 監督:中嶋孝行

伊名野慎、今給黎空、浦上浩生、岡田大毅、星野祐作、安嶋健至、大澤将士、玉井勇輝、クシヤマイザケ、田村龍太郎、中嶋倫太郎、宮崎岳、松川網汰、花崎悠

<バサジィ大分> 監督:狩野新

上原拓也、戸田貴英、野口茅斗、青大祐、ルアン、陣川凌、三浦憂、リシ、仁部屋和弘、小林謙太、橋本澤良、小門勇太、高溝黎磨、村山幸資

準決勝

ベスカドーラ町田 0 (第1ピリオド0-1, 第2ピリオド0-2) 3 立川アスレティックFC

●2024年3月2日 14:30 ●駒沢オリンピック公園総合運動場屋内球技場 ●試合時間: 40分 ●審判員:[主審]小林裕之 [第2審判]大矢翼 [第3審判]向山信 [タイムキーパー]横山高志 ●マッチコミッショナー:藤田正幸 ●観衆:714人

Table with columns: 選手名, 出場, 番号, 位置, 位置, 番号, 出場, 選手名. Lists players for both teams and their stats.

得点 [立川アスレティックFC]15'、36'菅谷知寿(0-1)、38'中村充(0-3)

警告 [ベスカドーラ町田]15'日根野谷建、18'伊藤圭汰、29'クレバウジ・ヴィニシウス、31'磯貝飛那大

○:先発、△:交代出場

決勝

名古屋オーシャンズ 6 (第1ピリオド2-1, 第2ピリオド4-1) 2 立川アスレティックFC

●2024年3月3日 13:05 ●駒沢オリンピック公園総合運動場屋内球技場 ●試合時間: 40分 ●審判員:[主審]藤田武志 [第2審判]横山高志 [第3審判]山崎聖也 [タイムキーパー]常國広平 ●マッチコミッショナー:大目佳久 ●観衆:871人

Table with columns: 選手名, 出場, 番号, 位置, 位置, 番号, 出場, 選手名. Lists players for both teams and their stats.

得点 [名古屋オーシャンズ]2'、32'ダルラン(1-0)(6-1)、11'アンドレシート(2-0)、26'、28'清水和也(3-1)(4-1)、31'金澤空(5-1)

[立川アスレティックFC]15'湯浅拓斗(2-1)、37'中村充(6-2)

警告 [立川アスレティックFC]8'比嘉利カルド

○:先発、△:交代出場

<ソルプレーサト勝> 監督:山本真太郎

鶴岡広之、瀬賀秀哉、和田陽輝、米村拓夢、富永勲太、花井輝、鎌野聖哉、吉田愁平、山本真太郎、小松勇斗、大塚寛己、高山剛寛、富田岳、椿和真、仁科宥哉、相内大佑、英翔太、神山泰、佐藤光貴

<ヴォスコオーレ仙台> 監督:清水誠

佐藤寛太、税田拓基、山本佳輝、金須恭弥、鎌一城、小野寺那央、平澤凌、今井翔、井上卓、浅野岬、藤山翔太、浅野翼、本間海音、山野隼、中村章、橋本裕貴、丸山将輝、森村孝志

<リガールヴィア葛飾> 監督:北智之

藤川優佑、太田圭、石崎尚、佐々木拓海、平井雅大、岡部直樹、川崎修音、森岡薫、高橋健、江本賢也、八木流輝、千野慧太、黒田智輝、加世田叶大、二宮秀文、小林晋明

<ゾット早稲田> 監督:清野潤

白鳥俊介、杉本亮、柳川結星、安岡暁、高瀬剛、宮原尚大、宮崎暁、中井健介、藤井一真、神田亜典、本田拓、雪島洋樹、戸島駿之介、池田啓利、大澤寛治、伊藤広樹、森慶太

<フェニックス横浜> 監督:小山優

鶴岡剛泰、井上稜夫、松坂侑樹、河原井隆、高橋協、小泉大河、藤川泰次、森本怜太郎、塩浜ヒデキ、遠藤惠介、坂間大晃、長谷川翔、坂垣音、木全秀剛、原田凌甫、中川詠介、高橋健也、松坂瑞樹

<府中アスレティックFC> 監督:小林勇貴

成田宇弘、西出祐斗、酒井蒼太、中分斗基、福森剛琉、大野侑基、安達颯介、安東直生、大石温人、清水湧斗、成田美光、影山正樹、葦島颯汰、大橋竣次郎

データボックス

<オーバ> 監督:花田孝法

渡邊良太、平田睦、黒谷一成、大田和寿、花田孝法、小堀将人、和田優人、遠藤陸男、林賢治、後藤篤也、吾郷翼、入山龍太郎、小沼真仁、藤本和、石井孝典

<ヴィンセドル白山> 監督:杉木陽介

杉元達樹、冨田祐耶、高橋康平、奥直仁、池上竣也、山口敬太、中嶋亮人、三上優貴、廻智樹、川辺寛信、藤井陽平、小竹銀蔵、板橋琉聖

<ボアルース長野> 監督:山薫一弘

長田侑大、橋野司、岡島工、三笠貴史、渡辺大輔、岡本生成、飯内涼也、丸山裕輝、松永翔、鳥羽泰平、椛島出海、中村亮太、米村尚也、上林快人、田中智基

<アグレミーナ浜松> 監督:高橋優介

三浦弘暉、ミヤモト キレルメ、菅根颯来、鷲北一輝、萩原洪拓、山桐正護、柳訓生、巽優太、生駒瑠唯、川本樹弥、内野脩麻、山田健太、巽翔矢、石川颯、尾崎珠利、熊谷貴太郎

<名古屋オーシャンズ サテライト> 監督:若山伸太郎

川上翼、物部呂敏、佐藤涼、大久保大翔、田原将、渡辺健太郎、尾筋健、伊集龍二、野尻大和、伊藤悠悟、マンザト ヒアン エイジ、藤田航輝、平下文慈、宇佐美俊哉、山下欽史、ワタナベ ロドリゴ エイジ、岡本太一、杉山晴一、イゴール・リカルド・デ・アルメイダ・ポスティゴ、リマイグチ ヒロシ

<デレヤオーネ フットサルクラブ> 監督:荒川博行

手塚博文、田中深太郎、真辺凌也、木村圭佑、林比呂、吉田達矢、日高真吾、荒川博行、清原孝介、星友彬、稲垣秀恭、池山和司、宮藤陽平、稲葉琥太郎、野村祥太

<バスターウーロ田辺> 監督:宮田樹

濱海秀、齋藤豊、上村凜太郎、石倉真、原田一樹、木村龍耶、野口大輝、花崎有哉、宮田樹、浅井一真、木下光弘、石塚弥友樹

<大阪成蹊大学フットサル部> 監督:佐藤亮

横田翔、片岡浩太、野中綾太、松原聖々希、道下楓生、吉迫武陸、村上圭吾、萩原欣之介、吉田怜生、鈴木大輝、菊地尚斗、山下聖翔、中島友貴、杉本朝紀、下條真海、山縣隼夫、大野頼基、川原那月、加藤朝陽

<FC大阪楽笑> 監督:今井寛

藤田雄平、澤野亮太、黒川誠也、片岡冬弥、永井将太、江崎誠、牟田口勇人、血谷淳、佐藤修一、永島天太、石井博己、横山達哉、山本和也、酒本洗斗、嶋田賢史郎、西邸賢一、稲田瑞穂

<広島エフ・ドウ> 監督:加藤亜士

茂呂翔也、阿部寛大、鈴木雄大、和田友、大竹啓生、濱田浩司、宮原勇哉、大野大、岩田裕矢、小松遊斗、青山稷太、石川彰人、喜多村優、内田大晴、眞鍋優斗

<ボルセイド浜田> 監督:村松裕樹

後藤駿介、飯田千馬、原京介、久保研二、野本太一、三浦祐人、布田有祐、橋岡翔大、中川智貴、高木颯太、松山尚輝、庄登央成、石井宗人、宮本晃成

<コンコルド> 監督:喜多亮介

山形岳志、元木寛之、桃谷岳大、福井啓史、武田潤平、大村拓弥、宮本恭輔、井上流星、井形祐馬、眞鍋大貴、平島一起、岸蓮輝、井形祐大、濱崎良藍、小泉翔、堀口賢揮、河野匠亮

<アイズ福岡> 監督:大久保太陽

井上貴太、緒方裕士、百田光平、大中卓也、保田昌輝、鎌田修平、坂本大樹、大久保太陽、桐原秀東、瀧口雄臣、波多野達哉、扇瑞希、扇健月、雨宮巧磨、武田彰、深川葉太

<エスタジ佐世保フットサルクラブ> 監督:林田慎司

後藤祥斗、福井崇大、川崎安嵐、本山博航、才木俊介、市瀬凜、高木謙、岡歩都、本多竜二、松添俊樹、石田崙人、園田遼介、村田真輝、橋原聡、寺崎教彦、林魁仁、中里彪雅

AFC U20女子アジアカップウズベキスタン2024

※70~71ページに関連記事あり

■グループステージ 試合結果

グループ	日時	対戦結果	会場
A	3月3日	13:00 韓国	1-2 (1-0) オーストラリア Do'Stik Stadium
		16:00 ウズベキスタン	0-2 (0-0) チャイニーズ・タイペイ Jar Stadium
	3月6日	13:00 チャイニーズ・タイペイ	0-6 (0-2) 韓国 Do'Stik Stadium
		16:00 オーストラリア	2-0 (2-0) ウズベキスタン Jar Stadium
	3月9日	13:00 ウズベキスタン	0-13 (0-6) 韓国 Jar Stadium
		13:00 オーストラリア	3-0 (2-0) チャイニーズ・タイペイ Do'Stik Stadium
B	3月4日	13:00 朝鮮民主主義人民共和国	1-1 (0-0) 中国 Do'Stik Stadium
		16:00 日本	10-0 (3-0) ベトナム Jar Stadium
	3月7日	13:00 ベトナム	0-6 (0-5) 朝鮮民主主義人民共和国 Do'Stik Stadium
		16:00 中国	0-2 (0-1) 日本 Jar Stadium
	3月10日	13:00 日本	0-1 (0-1) 朝鮮民主主義人民共和国 Jar Stadium
		13:00 中国	6-1 (3-0) ベトナム Do'Stik Stadium

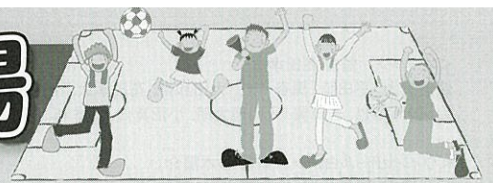
■ノックアウトステージ 試合結果

	日時	対戦結果	会場
準決勝	3月13日	13:00 朝鮮民主主義人民共和国	3-0 (1-0) 韓国 Do'Stik Stadium
		16:00 オーストラリア	1-5 (1-1) 日本 Jar Stadium
3位決定戦	3月16日	13:00 オーストラリア	1-0 (0-0) 韓国 Jar Stadium
決勝	3月16日	18:00 日本	1-2 (1-1) 朝鮮民主主義人民共和国 Jar Stadium

※キックオフ日時は現地時間

データボックス

サッカーファミリー広場



One Shot 今月のワンショット



3月27日に開催された2023-24WEリーグ第20節・三菱重工浦和レズレディース対アルビレックス新潟レディース戦で新記録が生まれた。ホームの浦和は34分、ロングボールに抜け出した清家貴子が相手DFを振り切ってGKとの1対1に持ち込むと、これを制して先制点を挙げる。これがWEリーグ新記録となる6試合連続ゴールとなった。後半にも追加点を奪った浦和は2-0で勝利。この日、1ゴール1アシストの活躍を見せた清家は次節でも得点し、今シーズンの得点を12に伸ばして得点ランキングでも首位をキープしている(3月31日時点)。

JFA × 三井不動産、初の価値共創イベント 「三井不動産フットボールスクエア」を開催

JFAは3月20日、JFAメジャーパートナーの三井不動産株式会社との共催により、「三井不動産フットボールスクエア」を三井ショッピングパークアーバンドックらぽーと豊洲(東京都)で開催した。

運動の機会が減少している子どもたちのため、スポーツを通じた交流の機会を設けることでコミュニティの創出や、サッカーやフットサルなどの経験がない子どもたちにサッカーとの偶発的な出会いをもたらすこと、人とつながる場を提供することで心身の健康状態を保つことを目的として実

施。スペシャルゲストとして、元サッカー日本代表の松井大輔さん、元フットサル日本代表の稲葉洸太郎さん、元なでしこジャパン(日本女子代表)の阪口夢穂さんも駆け付けた。当日は500人を超える子どもたちが参加し、フットボール未経験者も含めて楽しく汗を流した。



JFA小学校体育サポート研修会～2024年度実施校の募集を開始

JFAは現在、「JFA小学校体育サポート研修会」の2024年度実施校を募集している。

2014年から実施しているこの研修会は、「新学習指導要領」に沿った内容となっており、JFAとしては特に体育や運動の苦手な先生に受けてもらいたいと考えている。「体育の授業でやったスポーツが楽しかった」と子どもたちが実感できるように、教える先生にサッカーの楽しさを知ってもらい、「これならできる」と手応えを感じてもらうための研修会だ。講

師にかかる費用は全てJFAが負担し、実施校には体育の授業等で使用できるソフトスポンジボール10球(モルテン社製)とテキスト2冊を贈呈する。

●申し込み方法などの詳細は下記参照

<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSdaKvI2JILTIRJ8MkPLhphPeXGLPP62mA7jATvc-xJHAo2qpA/viewform>



サッカーファミリー復興支援金

日本サッカー協会(JFA)は、東日本大震災で被災した地域のサッカーファミリーが、これまで通り、サッカーを楽しむことができるよう、サッカー環境の復興を目的に「サッカーファミリー復興支援金」口座を開設しています。集まった復興支援金は、運用細則に基づいて運用されます。

銀行口座 三菱UFJ銀行(0005) 渋谷支店(135)
普通預金 口座番号0290451 公益財団法人日本サッカー協会
サッカーファミリー復興支援金口
※ご利用金融機関が設定する振込手数料はご負担願います。

「暴力等根絶相談窓口」を設置しています

日本サッカー協会(JFA)は、サッカーの活動現場で生じた暴力行為に関する通報を受け付ける窓口として「暴力等根絶相談窓口」を設置しています。

【電話】050-2018-1990 ※平日 10:00~17:30

【フォーム】https://forms.office.com/pages/responsepage.aspx?id=jpDYk_b8f0-O_dkmS7IjH3cFKGINhKNBpVZIXnRIR4VUNldQNFJDMFRORDU2NihFU0M2TkplUJFPUS4u ※24時間対応

利用方法の詳細は、JFA公式ウェブサイトをご確認ください。
https://www.jfa.jp/violence_eradication/



スポーツ 夢 実現!!

アスリートのためのスポーツ食

ミズマ

MIZUMA

「MIZUMA」はアスリートとして世界で戦った経験と知識を持つ開発者が商品を考案しました。「MIZUMA」にはそんなアスリートとして活躍した開発者の豊かな経験と知識が生きています。

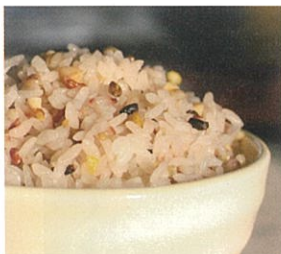
毎日の体づくりの基本に

1小袋につき
アミノ酸
4,284
mg



穀物の力
スポーツ雑穀米

16種類の穀物をスポーツ愛好家のためにブレンドしたアミノ酸スコア100の雑穀米。大豆の配合量が多く、豊富なたんぱく質を手軽に摂取できます。12種類を発芽させて栄養価をアップ。白米と炊くだけで歯ごたえのよい食感に。毎日の食事に雑穀米をプラスしてバランスの良い食生活を。



栄養成分(100g中)		アミノ酸スコア100	
エネルギー	351kcal	亜 鉛	2.3mg
たんぱく質	19.4g	ビタミンB1	0.48mg
脂 質	5.5g	ビタミンB6	0.86mg
糖 質	50.6g	ナイアシン	4.9mg
食物繊維	10.7g	パントテン酸	1.26mg
食塩相当量	0.0g	γ-アミノ酪酸	9mg
カリウム	730mg	たんぱく構成アミノ酸	21.420mg
カルシウム	61mg	総ポリフェノール	320mg
マグネシウム	150mg	大豆イソフラボン	54mg
鉄	2.5mg		

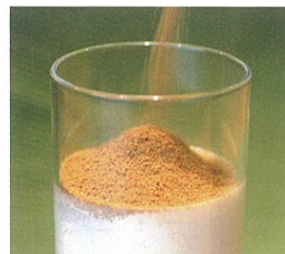
食品から得られる運動前のエネルギー補給・
運動後のリカバリーに

1小袋につき
アミノ酸
3,788
mg



穀物の力パウダー

16種類の穀物をブレンドした、栄養バランスに優れた雑穀パウダー。持ち歩きに便利な小袋タイプで、そのまま食べてもおいしく水に混ぜてもOK。黒糖と雑穀の豊富な栄養から手軽にエネルギーを補給。程よい甘さが空腹感を和らげます。(穀物が溶けないので、混ぜながらお飲みください。)



栄養成分(100g中)		亜 鉛	
エネルギー	384kcal	亜 鉛	2.1mg
たんぱく質	20.1g	ビタミンB6	0.37mg
脂 質	6.7g	ビタミンB12	2.36μg
糖 質	57.2g	ナイアシン	1.7mg
食物繊維	7.0g	パントテン酸	1.16mg
食塩相当量	0.4g	γ-アミノ酪酸	7mg
カリウム	1,600mg	たんぱく構成アミノ酸	18,940mg
カルシウム	220mg	総ポリフェノール	830mg
マグネシウム	190mg		
鉄	4.9mg		

※総ポリフェノールには大豆イソフラボンを含みます。 ※赤字は健康増進法に基づく栄養表示基準において、豊富と言える栄養素

国内産にこだわった安全・安心な商品で皆様の健康をサポートいたします。

ベストアメニティ

〒830-0102 福岡県久留米市三潴町田川32-3

TEL 0120-580-359

ご注文・お問合せは
こちらから →



勝ち点3を積み重ね グループ首位を維持

2026年のFIFAワールドカップに向けたアジア2次予選が再開した。2試合を終えてグループBのトップに立つSAMURAI BLUE（日本代表）は3月21日、国立競技場で朝鮮民主主義人民共和国代表（DPR Korea）と対戦し、1-0の勝利を収めた。

※SAMURAI BLUEメンバーおよび朝鮮民主主義人民共和国代表来日メンバー、公式記録は51～52ページに掲載
※選手の所属は試合時



サムライブルーは、昨年11月に行われた第1節のシリア戦、第2節のシリア戦をいずれも5-0で勝利し、8大会連続のFIFAワールドカップ出場に向けて好スタートを切った。

チームを指揮する森保一監督

は3月14日、「アウェイでは想定外のことが多々あるだろうが、最善の準備をして持てる力を最大限に発揮する」と述べ、DPR Koreaとの連戦に臨むメンバー26人を発表。長友佑都（FC東京）はFIFAワールドカップカタール2022以来、約1年4カ月ぶり、小川航基（NEC）は約4年3カ月ぶ

りに代表復帰を果たした。18日にはけがのため佐野海舟（鹿島）が不参加となった。

チームは3月18日から高円宮記念JFA夢フィールドなどで2日間トレーニングを行い、20日の公式練習を経て国立競技場での一戦に臨んだ。

4-2-3-1の布陣でスタートした日本は、早々にスコアを動かす。2分、左サイドでボールをキープした上田綺世（フェイエノールト）が田中碧（デュッセルドルフ）につなぐ。田中は素早く逆サイドにクロスを上げると、堂安律（フライブルク）が頭で落とし、南野拓実（モナコ）がシュート。相手

選手に当たったボールに反応した堂安が中央にパスを送り、田中がワントッチで先制点を挙げた。

直後の3分には、前田大然（セルティック）が相手からボール奪い、そのままシュート。11分には右サイドでの崩しから守田英正（スポルティング）が、その2分後には中央から攻め込んで堂安がそれぞれシュートを放つ。

ペースをつかんだ日本は、前線からの積極的



センターバックの板倉滉（ボルシアMG）らを中心に集中した守備で6試合ぶりに無失点で終えた



SAMURAI BLUE



は左サイドからクロスを上げられてヘディングシュートを、直後の56分にはミドルシュートを打たれるなど、DRP Koreaにゴールに迫られる場面が増えていく。

日本は58分、遠藤航（リバプール）をピッチに送り、布陣を4-3-3に変更。さらに74分には谷口彰悟（アルラヤン）、橋岡大樹（ルートン）、浅野拓磨（ボーフム）を投入して5バックにし、「守備を安定させてカウンターアタックを仕掛ける」（森保監督）戦いに切り替えた。これが奏功し、上田や浅野、前田が相手ディフェンスラインの裏に抜け出してチャンスをつくり出していく。後半は押し込まれる場面もあったが、最後まで得点を与えず、1-0で勝利。勝ち点を9に伸ばしてグループ首位をキープした。

試合後、決勝点を挙げた田中は、「AFCアジアカップ（カタール



前田は相手ディフェンスラインの裏への抜け出しやドリブルなどスピードを生かしたプレーで相手に脅威を与えた

2023)で勝てなかったのが、リスタートは大事だった。今日はホームで勝って良かったが、もっとやらなければならぬ。反省しながら次に進んでいきたい」と語った。

2次予選は、6月6日のミャンマー戦、同日のシリア戦で終了する予定だ。

日本のアジア最終予選進出が決定

3月21日の試合終了後、JFAの田嶋幸三会長(当時)から、26日に予定されていた第4節が、DRP Koreaの意向で開催が難しくなったと明かされた。アジアサッカー連盟(AFC)に対してDRP Koreaからレターが送られていたもので、翌22日にはAFCと国際サッカー連盟(FIFA)による協議の結果、26日の試合は平壤でも中立地でも開催しないことが発表された。そして30日、JFAはFIFAの規律委員会から、この試合を没収試合とし、3-0で日本の勝利とするとの通知を受けた。この決定により2次予選を4戦4勝とした日本は、6月の2試合を残して最終予選進出を決めた。

森保監督は、「選手たちの大切な出場機会が失われたことに変わりないが、一つ前に進んだとポジティブに捉えている。当然この結果に満足することなく、6月の代表活動、ワールドカップのアジア最終予選、本戦へと力を積み上げていきたいと思う」とコメントした。

森保一監督 試合後コメント (要約)

開始早々に先制できたことが大きかった。選手はスタートから積極的に戦い、相手ゴールに向かうという選択がゴールにつながった。その後はなかなか得点できず、厳しい戦いが続いた。特に後半は、相手がシンプルにパワーをかけてきたことで押し込まれる場面もあったが、選手は粘り強く戦い、勝利を引き寄せた。AFCアジアカップでの悔しい結果を受け、また、過去の課題を踏まえて戦う中で、選手はもう一度自信を持つことができたと思う。追加点を奪うなど試合巧者として結果を出せるように、今後も成長していきたい。

2024年3月21日 19:23
東京 国立競技場

日本 **1-0** 朝鮮民主主義人民共和国

2' 田中碧 1-0-0

GK ③ 鈴木彩艶	MF ⑥ 南野拓実
DF ② 菅原由勢	→ 74' ⑩ 浅野拓磨
	→ 74' ③ 谷口彰悟
④ 板倉晃	⑩ 堂安律
⑤ 町田浩樹	→ 74' ③ 谷口彰悟
⑦ 伊藤洋輝	⑭ 田中碧
MF ⑤ 守田英正	FW ⑨ 上田綺世
→ 58' ⑥ 遠藤航	→ 81' ⑪ 小川航基
	⑪ 前田大然

U-23日本代表、 強豪2チームとの対戦で 1勝1敗



U-23日本代表は3月22日にU-23マリ代表、同25日にU-23ウクライナ代表と国際親善試合を戦った。マリには逆転負けを喫したが、ウクライナには2-0で勝利。4月に待ち受けるパリオリンピックのアジア最終予選に向けて課題と収穫を得た。

※U-23日本代表メンバーおよびU-23マリ代表、U-23ウクライナ代表の兼任メンバー、公式記録は52〜53ページに掲載（選手の所属は試合時）

**アジアカップを見据え
メンバーを入れ替えて臨む**

U-23日本代表にとって3月の活動は、パリオリンピック出場権の懸かるAFC U-23アジアカップ前最後の準備期間となる。大岩剛監督も合宿前に「これまでの積み上げの確認とともに選手を見極めるための機会としたい」と語っていた。

3月18日に京都でスタートした合宿には26人が参加。うち5人が海外組、21人が国内組と、これまでの活動に比べて海外組の招集人数は少なかった。というのも、今回のアジアカップの開催期間はインターナショナルマッチウィークではない。しかもこの時期はヨーロッパの主要リーグが佳境を迎えるため、海外組の招集が難航することが予想される。大岩監督は「最終予選を考えた選考」と話し、さまざまなことを想定して今回のメンバーを招集した。

**マリ戦
アフリカの強豪に
逆転負けを喫する**

U-23日本代表は4日間の合宿を経て、22日にサンガスタジアムでU-23マリ代表と国際親善試合を戦った。2022年3月のチーム立ち上げ以来、ヨーロッパ勢とは何度も対戦してきたが、アフリカのチームと戦うのは今回が初めて。パリオリンピックを見据え、重要な一戦となる。

先発メンバーには、山本理仁（シントトロイデン）や西尾隆矢（C大阪）、藤尾翔太（町田）ら大岩監督が言う「招集回数が多いコア」メンバーと、野澤大志（ブランドン（FC東京））や植中朝日（横浜FM）ら招集歴の少ない選手が並んだ。チームはベクトルを合わせて試合に臨む、攻守にアグレッシブにプレーするというコンセプトで勝利を目指した。

日本は開始直後から積極的な姿勢を示す。ハイプレスで相手の出足を止め、素早い攻守の切り替え

からボールを前に運んだ。2分に早速、先制する。右ウイングの山田楓喜（東京V）が倒されてFKを獲得すると、そのままキッカーを務めてニアサイドにボールを送る。

トップ下で先発した植中が頭でフリークしたところに左ウイングの平河悠（町田）が入り込み、右足でゴールネットを揺らした。

幸先の良いスタートを切った日本だったが、直後に雲行きが怪しくなる。アフリカ予選3位でパリオリンピック出場を決めているマリが、時間の経過とともに日本の

マリ戦で先制ゴールを挙げた平河。ウクライナ戦でも途中出場し、攻守にわたって存在感を示した





JAPAN NATIONAL TEAM

■国際親善試合
2024年3月22日 19:24
京都 サンガスタジアム by KYOCERA

日本 **1-3** マリ

2'平河悠

1-1
0-2

34'マドゥ・サンギャレ
53'マドゥ・トゥンカラ
90'バカル・トラオレ

GK ⑫ 野澤大志ブランドン MF ⑩ 山田楓喜
DF ② 半田陸 → HT ①細谷真大
③ 西尾隆矢 ⑳ 平河悠
① バンクーナガンデ佳史扶 → 64' ㉒小見洋太
→ 64' ㉒内野貴史 FW ⑨ 藤尾翔太
⑥ 高井幸大 → 76' ㉑佐藤恵允
MF ⑥ 川崎颯太 ⑭ 植中朝日
→ 76' ㉑藤田譲智マ → HT ㉑染野唯月
⑦ 山本理仁

■国際親善試合
2024年3月25日 19:19
福岡 北九州スタジアム

日本 **2-0** ウクライナ

48'佐藤恵允
76'田中聡

0-0
2-0

GK ㉓ 小久保玲央ブライアン MF ⑩ 松木玖生
DF ④ 関根大輝 → 78' ㉑植中朝日
⑤ 馬場晴也 ⑨ 山田楓喜
⑦ 大畑歩夢 → HT ②平河悠
→ 85' ㉒内野貴史 FW ⑬ 荒木遼太郎
⑥ 鈴木海音 → 67' ㉑田中聡
MF ⑥ 藤田譲智マ ⑱ 染野唯月
⑩ 佐藤恵允 → HT ①細谷真大
→ 78' ㉒小見洋太

プレッシャーに慣れ、パスをつなぎ始めたのだ。そして球足の長さでテンポを変えて攻めの形をつくっていく。追加点を狙う日本をさらに阻んだのは相手の強烈なプレスだった。34分には組み立ての起点となっていた川崎颯太（京都）が狙われ、ペナルティーエリアのすぐ外でボールをロスト。センターバックの西尾が対応したものの、最後はサンギャレに決められて同点とされた。

前半は相手の猛攻をしのいだが、53分に逆転を許してしまう。サンギャレのミドルシュートをGK野澤が前にはじき、トゥンカラに詰められて2失点。終了間際の90分にはドリブルでペナルティーエリア左まで持ち込まれ、折り返されてバカル・トラオレにダメ押しゴールを奪われた。

「自分たちのミスがあり、慌ててしまったことで相手に流れを持っていかれてしまった」とキャプテンを務めた山本は振り返り、「（ミスは）最終予選に向けて小さくしなければいけない。（相手に）引かれたときに崩し切れない自分たちの質の低さも改善する必要がある」と課題も口にした。

■ウクライナ戦 Jリーグ勢が躍動して ウクライナに勝利

マリ戦の翌日にチームは北九州に移動した。大岩監督は、マリ戦で相手のプレスを回避できずにミスを重ねた点と、消極的になって縦パスが前線に入らなかったことを反省点に挙げていた。

2日間のトレーニングを経て、今度は、ヨーロッパ代表としてパリオリンピック出場を決めているU-23ウクライナ代表と対戦した。マリ戦から先発メンバーを10人入れ替えたこの試合では、スタートから迫力あるプレーが見られた。高い位置からプレッシャーをかけてボールを奪うと、選手が前線へ飛び出してパスコースを増やす。縦パスを入れる意識も高く、30分を過ぎた頃には最終ラインからも狙いのあるパスが何度か前線に通った。

中でも際立っていたのが、インサイドハーフとして時にパスの受け手となり、前線にも積極的に絡んで攻撃を活性化させた荒木遼太郎（FC東京）だ。今回は2年ぶりの招集となったが、前を向いて仕掛ける意識が高く、常にウクライナ守備陣の脅威となった。

先制点もその荒木が入れたボールから生まれた。後半開始直後の48分、右CKの場面で荒木からのボールをニアサイドで関根大輝（柏）がそらす。それをファーサイドに詰めていた佐藤恵允（ブレメン）が押し込んだ。マリ戦のゴールにも似た形で「このチームはセットプレーが得意」という大岩監督の言葉通り、再びセットプレーからゴールを決めた。

76分には荒木に代わって後半途中からピッチに入った田中聡（湘南）が得点を重ねる。佐藤の縦パスを受けた細谷真大（柏）は相手DFに阻まれたが、こぼれ球に鋭く反応した田中が左足を一閃。マリ戦ではチームとして2点目を奪えなかったことが響いて逆転されたが、この日は追加点をしっかりと決めて2-0で勝ち切った。

「選手の姿勢、ゲームに入る意気込み、メンタル面を含め、チームとしてやるべきこと、個々が1試合目で感じたことを生かしてくれ」と大岩監督。収穫と課題は全ての活動と試合に付きものだが、最終予選前のこのタイミングで手にしたのは、いずれもポジティブなものだった。課題はチームがより良くなるための、収穫は自信を深めるための材料になることを指揮官は示唆した。

今回招集した26人について「可能な限り起用したい」と話していた大岩監督は、GK藤田和輝（千葉）を除き、2試合で25人を起用。海外組の招集が不安視される中、荒木や関根、田中らがアピールし、Jリーグ勢の気迫と力が示されたという点でも実りある活動になった。

試合後、両チームが平和を願うメッセージを携え記念撮影を行った



U-20日本女子代表は準優勝 FIFA U-20女子ワールドカップ 出場権を獲得

U-20日本女子代表はウズベキスタンで行われたAFC U20女子アジアカップに出場し、上位4チームに与えられるFIFA U-20女子ワールドカップ行きの切符を獲得した。決勝では朝鮮民主主義人民共和国(DPR Korea)に惜敗。大会4連覇はならなかった。

※U-20日本女子代表メンバーおよび公式記録は54~56ページ、大会結果一覧は63ページに掲載(選手の所属は試合時)

**アジア4連覇、そして
世界大会を目指して**

AFC U20女子アジアカップでは直近3大会で優勝している日本。4連覇を目指して臨んだ。狩野倫久監督は、国内外の幅広いカテゴリーから23選手を招集。「選手たちは複数のポジションとシステムをこなすことができ、試合中に変えることもできる。戦術的柔軟性を持って、個々がピッチで躍動できるように組み合わせや配置を考えたい」と大会への意気込みを語った。

チームは2月19日から国内で最終調整して同26日に日本を出発、翌27日に首都のタシケントに到着した。

■グループステージ 2勝1敗で首位通過し、 準決勝へ進出

約1週間の調整を経て、3月4日にベトナム戦に臨んだU-20日本女子代表、この日は、4-1-2のフォーメーションを採用した。GKは大熊茜(千葉シ)、最終ラインは右から吉岡心(マイ仙台)、米田博美(C大阪)、林愛花(サンタクララ大)、佐々木里緒(マイ仙台)。角田楓佳(浦和)と天野紗(一神戸)がダブルボランチを組み、サイドハーフは左に辻澤亜唯(一神戸)、右に大島暖菜(大宮V)、トップに土方麻椰(東京NB)、シャドーに松窪真心(ノースカロライナ、



8度目となるFIFA U-20女子ワールドカップ出場を決めたU-20日本女子代表

カレッジ)が入った。

日本は立ち上がりからベトナムを圧倒する。11分、角田のスルーパスを受けた松窪がゴールを決めて先制。松窪は31分、44分にも得点し、前半だけでハットトリックを達成した。後半も連係プレーや個人の突破など多彩な形でゴールに迫り、56分と64分に土方、66分に辻澤、70分には佐々木が加点する。73分には途中交代の笹井一愛(N相模原)がドリブルから強烈なシュート。83分には米田、84分には途中出場の白沢百合恵(新潟シ)が決めて10-0と大勝した。キャプテンの林は「練習で取り組んできた攻撃の崩しのバリエーションやコンビネーションを出すことができた」と手応えを口にした。

中2日で行われた中国戦は、先発メンバー5人を入れ替え。最終ラインに小山史乃観(ユールゴーデンF)と白垣うの(C大阪)、ボランチには大山愛笑(早稲田大)が入り、両サイドは左に松永未夢(東京NBメニナ)、右は久保田真生(一神戸)を起用した。序盤こそ長身選手が多い相手チームとの間に苦戦する場面も見られたが、徐々にペースをつかむ。すると27分、大山の展開から久保田のクロスに合わせた土方が先制ゴール。その後、179cmのGKが控える中国のゴールをこじ開けられない時間が続いたが、88分、天野が直接FKを鮮やかに決めて2-0で勝利した。日本は、他試合の結果を受けて準決勝進出を

決め、同時に上位4チームに与えられるFIFA U-20女子ワールドカップの出場権も獲得した。

第3戦は、朝鮮民主主義人民共和国(DPR Korea)と対戦した。自力でのノックアウトステージ進出には勝利が必要なDPR Koreaに対し、すでに進出を決めている日本は、狩野監督がコンディション面を考慮して先発メンバーの過半数を変更。GKの鹿島彩莉(EL埼玉)、右サイドバックの岡村来佳(浦和)、左サイドの植渡百花(東京NB)は大会初出場、トップに入った笹井、ボランチの白沢は初先発となった。そして、代表チームではサイドバックを主戦場としてきた小山をトップ下に起用する4-5-1を採用。序盤は主導権の奪い合いとなったが、日本は少しずつパスミスやサポートの遅れが目立つようになり、22分に最終ラインの連係ミスからボールを奪われて失点。36分には前線に土方を投入し、後半は大山や辻澤、松永らをピッチに送って攻撃の活性化を図ったが、守備を固めた相手の牙城を崩すことはできず、0-1で敗れた。

試合を終え狩野監督は、「失点前の流れが悪く、良い流れを構築できなかったことは私の責任。(相手守備の)ブロックの中に入って仕留めるところまでいけなかった」と自戒した。その日の夜、主将を中心とした選手からの提案で選手だけのミーティングを開くと、スタッフが見守る中、選手た

ベトナムとの第1戦、松窪(写真)のハットトリックを含む10得点で快勝スタートを切った



©2024 AFC

第2戦は先制してからなかなか中国ゴールをこじ開けられなかったが勝ち星を挙げて2連勝



©2024 AFC

第3戦はミスから失点して苦しい展開に。後半に巻き返しを図ったがゴールをこじ開けられず(写真は17歳の松永)



©2024 AFC

ちはそれぞれ優勝への決意を語った。気持ちを新たにしたチームは中2日で準決勝に臨んだ。

■ノックアウトステージ 「この景色を忘れない」 同じ相手に2度敗戦

オーストラリアとの準決勝は、中盤に辻澤と久保田を起用し、トップ下に天野を置く4-5-1でスタートした。日本は試合開始から相手を押込み、3分にはCKから米田がヘディングで決めて先制に成功する。13分にはカウンターから失点したが、その後も攻撃の手を緩めず、63分にCKから白垣が勝ち越しゴール。83分には土方が今大会4ゴール目を記録した。88分には松永のクロスが相手に当たってゴールネットを揺らし、5-1と大勝した。

4連覇へあと一步と迫った決勝の相手は、再びDPR Korea。しかも4大会連続での顔合わせとなった。会場はJar Stadium。結果として日本は決勝までの全5試合をこのスタジアムで戦った。

日本は準決勝から先発メンバーを1人代え、ボランチの一角に大山が入った。「思い切ってピッチの上でチャレンジしていこう」という指揮官の言葉に送り出された選手らは、攻守に積極的なプレーを見せる。20分、久保田がドリブルで持ち込んで右の土方へ、土方のクロスにファーサイドの

辻澤が頭で合わせて先制する。ところが44分に左サイドからクロスを上げられ、JONRYONG JONGにヘディングで決められてしまう。

1-1で迎えた後半、日本は笹井、植渡、大島とドリブラーを投入して打開を試みたが、86分、再びDPR Koreaに左サイドを突破され、クロスにJONRYONG JONGが頭で合わせるという同じ形で逆転を許す。試合はこのまま1-2で終了し、DPR Koreaが2007年大会以来2度目の優勝を果たした。辻澤は、「この景色を忘れずに、ワールドカップではもっと強くなって良い結果を残せるように頑張りたい」と、さらなる成長を誓った。

日本は4大会連続のフェアプレー賞を受賞し、土方は得点ランキングでトップタイの4得点を記録して得点王に輝いた。U-20日本女子代表は、今年8月にコロンビアで開幕するFIFA U-20女子ワールドカップでの優勝を目指し、ここからまた挑戦を続けていく。

- <日本の試合結果>**
- グループステージ
 - 3月4日 第1戦 10-0(3-0) ベトナム
 - 3月7日 第2戦 2-0(1-0) 中国
 - 3月10日 第3戦 0-1(0-1) DPR Korea
 - ノックアウトステージ
 - 3月13日 準決勝 5-1(1-1) オーストラリア
 - 3月16日 決勝 1-2(1-1) DPR Korea

準決勝は開始早々、米田(写真左)がヘディングシュートを決めてチームを勢いつける



©2024 AFC

決勝で辻澤の先制点をアシストした土方は4得点で得点ランキングトップタイに



©2024 AFC

DPR Koreaに2度目の敗戦を喫し、悔しさを浮かべる選手たち



©2024 AFC

JFA 第35回O-40女子サッカーオープン大会



【大会概要】

3月8日～10日、Jヴィレッジ(福島県)で開催。32チームが4チームずつ8グループに分かれてリーグ戦(1次ラウンド)を戦った後、2次ラウンドを戦う。2次ラウンドでは、各グループ1位チームが上位グループに進出し、ノックアウト方式で順位を決定(3位決定戦は行わない)。2位以下のチームは2位から4位グループに分かれて1試合の順位決定戦を行う。試合は8人制、試合時間は40分(20分ハーフ)。



小平サッカークラブが2度目の出場で初優勝!

開幕初日に雪と冷たい雨、2日目は暴風に見舞われたが、視察した金田喜稔JFAシニアサッカーアンバサダーの「みんな天候に左右されず、サッカーを心底楽しんでいた」という言葉通り、参加者たちは節目となる35回目の全国大会を満喫した。

1次ラウンドでは、各グループで首位に立った8チームのうち2チームが得失点差で勝ち上がった。グループBでは、3試合を終えて長野ファミリー(北信越/長野)とFCフロンティア(関東/神奈川)が勝ち点で並んだ。第2戦の直接対決はスコアレスドローで、最終戦は共に1-0で勝利したが、初戦で4得点していた長野ファミリーが首位通過を果たした。グループHの東京アルテミスSC(関東/東京)と沖縄県レディース(九州/沖縄)は第2戦の直接対決を引き分けた後、最後は勝ち点で並び、総得点で上回った東京アルテミスが首位通過を果たした。グループCでは全6試合が1点差で決着するという熱戦が繰り広げられ、FC.VIDA Feliz(関東/千葉)が接戦を勝ち抜いて全勝突破を果たした。

晴天に恵まれた最終日、1位グループは準々決勝でも接戦が続いた。リャンボナミ(関西/兵庫)はKIDI FC(関東/東京)に押される展開が続いたが、前半終了間際の中ドルシュー

トが決まって1-0で勝利。4試合のうち唯一無得点のままPK戦に入った東京アルテミスとSOCIOS.FC

VENGA(関東/東京)の一戦は、東京アルテミスが勝利し、その勢いそのまま準決勝もPK勝ちして決勝へ進んだ。

小平サッカークラブ(関東/東京)と東京アルテミスによる決勝は、両チーム無得点のまま前半を終える。試合が動いたのは37分、小平は相手陣内で得たFKから泉美幸が折り返し、小楠志乃が押し込んだ。このゴールが決勝点となり、1-0で接戦を制した小平が頂点に立った。ゴールを決めた小平の小楠キャプテンは、「昨年は7人で臨んだが、今年は8人そろった。絶対に優勝しようと言っていたので良かった」と喜んだ。



キャプテンマークを巻いた小平の小楠志乃(写真中央)は決勝で優勝を手にし、ゴールを記録



大会3日目は1次ラウンドの順位別に順位決定戦が行われた。写真は3位グループのF.C.V.イレブン(ユニフォーム白)対LIPSより



試合が終わると互いの健闘を称え合い、笑顔で握手



大会常連のやす京都&滋賀(ユニフォーム白)は1位ノックアウトに進出したが、準決勝で小平サッカークラブに敗れた

JFA 第35回全日本O-30女子サッカー大会



【大会概要】

3月16日～18日、時之栖スポーツセンター(静岡県裾野市)で開催。16チームが4チームずつ4グループに分かれてリーグ戦(1次ラウンド)を行った後、順位別ノックアウトを実施する。試合時間は50分(25分ハーフ)で行う。

シュピーニ大阪が大会連覇を達成!

グループステージは、いずれも最後まで激戦が繰り広げられた。最もし烈な戦いとなったのはグループD。いずれも優勝経験があり、元日本女子代表を擁するLegame(東海/三重)と横須賀シーガルズレディース(関東/神奈川)が2勝1敗の勝ち点6で並んだが、得失点差でLegameが首位に立った。Legameは第2戦でENSOWA KUMAMOTO(九州/熊本)に0-1で敗れて3位に後退。最終戦で8ゴールをたたき出したことで、横須賀を抑えて1位グループのノックアウトステージに進んだ。

グループBでは、FC楓昂Lifelong(関東/埼玉)が首位で通過した。初戦は前回大会の3位決定戦でも対戦したおいでやす京都(関西/京都)と再戦。前回はPK戦の末にFC楓昂が競り勝っており、今回も2-1で勝ち星を挙げた。この勝ち点3が最終順位に大きく影響。最終戦で大勝を収めた両者だったが、FC楓昂が勝ち点で1上回った。

グループCでは前回大会準優勝の大和シルフィード98(関東/神奈川)が3連勝。グループAでは前回王者のシュピーニ大阪(関西/大阪)が接戦を制して全勝でノックアウトステージへ進んだ。

1位グループの準決勝、シュピーニとFC楓昂の一戦は0-0のま

ま時間が経過。しかし、終盤にシュピーニのロングシュートが決まり、1-0で決着。もう一方の大和シルフィードとLegameの準決勝は、Legameが前後半に1点ずつを奪って2-0で決勝進出を決めた。

シュピーニは連覇を、Legameは6大会ぶりの優勝を目指して相まみえた決勝戦。序盤からペースを握ったのはLegameだった。小気味良いパスワークで相手ゴールに迫っていく。一方のシュピーニも体も張ってゴールを守り、高い位置でボールを奪ってゴールを狙う。緊張感に満ちた試合は残り5分を切ろうとしたところでスコアが動いた。シュピーニは、Legameのゴール前に生じたエアポケットを見逃さず、ボールを拾った森美佳が冷静にループシュートを放ち、これが決勝点となった。終盤の猛反撃もしのぎ切ったシュピーニの奥田亜希子キャプテンは、「せっかくの全国大会、今年も楽しめたらいいなと思って大会に臨んだら最高の結果がついてきた」と連覇を喜んだ。



見事に連覇を達成したシュピーニ大阪。決勝ではGK登録の森美佳(写真奥)が殊勲のゴールを挙げた



2位グループではENSOWA KUMAMOTO(ユニフォーム赤)が優勝を果たした



富士山の麓で3日間にわたって行われた大会は全チームが5試合を戦い抜いた



1次ラウンドは上位進出を目指して白熱の戦いが続いた。写真はSOCIOS FC VENGA対刈谷FCプロジェクトソニアより



JFA 第29回全日本フットサル選手権大会



JFA
FUTSAL
CHAMPIONSHIP

【大会概要】

2月24日から3月3日にかけて開催。1・2回戦は名古屋金城ふ頭アリーナ(愛知県)、岸和田市総合体育館(大阪府)、グリーンアリーナ神戸(兵庫県)、久留米アリーナ(福岡県)の4会場で行い、準々決勝からは駒沢オリンピック公園総合運動場 屋内球技場(東京都)で開催。32チームがノックアウト方式で優勝を争う(3位決定戦は行わない)。



JFA 第29回全日本フットサル選手権大会
WINNERS



2024.3.3

駒沢オリンピック公園総合運動場 屋内球技場

優勝

名古屋オーシャンズが 5年ぶり7度目の優勝!

2023-24シーズンを締めくくる大会で、名古屋オーシャンズ(F1リーグ/愛知)が圧倒的な強さを見せつけた。今季のFリーグオーシャンカップとFリーグで優勝を飾った名古屋は、1回戦で関東1部リーグのフェニックス横浜(関東3/神奈川)に5-1で勝利すると、続く関東1部リーグのソット早稲田(関東2/東京)戦も7-1で勝ってベスト8に進んだ。

地域リーグのチームによるジャイアントキリングは同大会の見どころの一つだが、今大会はFリーグ勢が強さを見せ、番狂わせは起きなかった。その中で来シーズンのF1昇格を決めたヴォスクオーレ仙台(東北/宮城)が、初戦で前回王者のフウガドルすみだ(F1リーグ/東京)を破ってポテンシャルを示した。

名古屋を筆頭に2023-24シーズンのF1で上位リーグを戦った全6チームがベスト8に残った。名古屋は東京に舞台を移した準々決勝以降も盤石の戦いぶりを見せ、準々決勝では湘南ベルマーレ(F1リーグ/神奈川)に5-1で、準決勝ではバルドラール浦安(F1リーグ/千葉)を3-1で下した。

もう一方の山では、立川アスレティックFC(F1リーグ/東京)が、シュライカー大阪(F1リーグ/大阪)とのPK戦までも

つれる激闘を制し、準決勝でもベスカドーラ町田(F1リーグ/東京)を破って2大会ぶりの決勝進出を果たした。

決勝の第1ピリオドは拮抗した展開となった。名古屋は2分、高い位置でボールを奪ったダルランが先制ゴールを決めると、11分に鬼塚祥慶のスルーパスからアンドレシートが加点。立川も湯浅拓斗のゴールで1点を返し、1点差でハーフタイムを迎える。しかし、第2ピリオドに入ると連戦による疲労の影響から体力面での差が表れ始める。名古屋は26分、28分と清水和也が連続ゴールを決めて4-1と大きくリードすると、金澤空とダルランもそれに続いて一気に差を広げる。立川も終盤に意地を見せて中村充が1点を返したが、6-2で名古屋が勝利をつかんだ。

名古屋の吉川智貴は「この1年は本当に苦しかった。リーグでは苦しんだが、今大会はプレッシャーから解放され、こういう(自分たちが圧倒する)大会になると思っていた」と胸を張った。



名古屋オーシャンズの清水和也(写真右)は決勝で相手を突き放す2ゴールの活躍を見せた



1回戦では前回大会王者のフウガドルすみだ(ユニフォームエンジ)がヴォスクオーレ仙台に敗れる波乱の幕開けとなった



Y.S.C.C.横浜は2回戦で優勝経験のあるしながわシティと対戦。PK戦の末に勝利を収めた



準決勝でベスカドーラ町田と対戦した立川アスレティックFCは菅谷知寿(写真左)の2ゴールなどで決勝進出を決めた

第26回 日本フットボールリーグ開幕

**栃木シティが7年ぶりの復帰
全16チームで頂点を争う**



昨年の天皇杯ベスト16の勢いそのままに、高知ユナイテッドSCが開幕3連勝を飾る(写真は第3節・高知ユナイテッドSC vs 横河武蔵野FC)



7年ぶりに復帰を果たした栃木シティは第2節、JFL初開催となるホームスタジアムで今シーズン初勝利を挙げた

3月10日に幕を開けた日本フットボールリーグ(JFL)。26回目のシーズンを迎える今大会は、11月24日の第30節まで、北は青森から南は沖縄までの各試合会場でホーム&アウェイ方式でのリーグ戦を行う。

今季は、昨シーズンを戦った15チームに加え、新たに1チームが参加。2010年から2017年までJFLで戦っていた栃木シティ(2019年に改称。JFL在籍当時の名称は栃木ウーヴァFC)が地域チャンピオンズリーグ2023で優勝し、7年ぶりにJFL復帰を果たした。全16チームのアマチュア最高峰の全国リーグとして、今シーズンも熱戦を繰り広げる。開幕から第3節までで幸先の良いスタートを切ったのは、昨年

の天皇杯JFA全日本サッカー選手権大会でJ1クラブに2連勝してベスト16入りした高知ユナイテッドSC。開幕3連勝で首位に躍り出た。それに次ぐ2勝1分けで2位につけたのは、昨シーズン、地域リーグとの入れ替え戦を経験した沖縄SVだ。復帰した栃木シティも第2節、3年前に完成したホームスタジアム「CITY FOOTBALL STATION」でJFLで7年ぶりとなる勝利を挙げた。その他接戦となる試合もあり、今シーズンも混戦が予想される。

**それぞれの目標を掲げ、
熱気あふれる戦いの渦へ**

昨季は、J3リーグ下位2チームとの入れ替え戦が導入された(J3リーグへの参加意思がありJ3ライセンスを持つチームが優勝または準優勝した場合のみ)。入れ替え戦への注目が集ま

る中、4年ぶり10回目の優勝を果たしたのはHonda FC。HondaはJリーグへの参入意思がないことから、リーグ参入は残り1枠。準優勝を懸けて最終節まで熾烈な戦いが繰り広げられ、ライセンスを持たないブリオベッカ浦安が準優勝を収めた。Jクラブがまだない滋賀県からのJリーグ入りを目指すレイラック滋賀は、勝ち点1差で3位となったため、昨季はJ3との入れ替え戦は行われなかった。

昨季の戦況と混戦模様の近況を踏まえ、JFLが掲げた今シーズンのキャッチフレーズは「熱気の帯から翔け(はばたけ)」。アマチュアとしての誇りを持って優勝を目指すチーム、Jリーグ加盟を目指すチームが混在するJFL。熱気あふれる混戦の中から抜け出し、それぞれが掲げる目標に向かって「翔く」ことができるのは、どのチームか。

JFL参加チーム(16チーム)

- Honda FC(静岡県)
- ブリオベッカ浦安(千葉県)
- レイラック滋賀(滋賀県)
- ソニー仙台FC(宮城県)
- ラインメール青森(青森県)
- ヴェルスバ大分(大分県)
- 高知ユナイテッドSC(高知県)
- FCマルヤス岡崎(愛知県)
- アトレチコ鈴鹿(三重県)※1
- ヴィアティン三重(三重県)
- クリアソン新宿(東京都)
- FCティアモ枚方(大阪府)
- 横河武蔵野FC(東京都)※1
- ミネベアミツミFC(宮崎県)
- 沖縄SV(沖縄県)
- 栃木シティ(栃木県)※2

※1: チーム名変更
※2: 新加盟チーム

【第26回日本フットボールリーグ 大会概要】

主催: 公益財団法人日本サッカー協会、
一般社団法人日本フットボールリーグ
開催方式: 16チームによる2回戦総当たりリーグ方式
(ホーム&アウェイ方式)
開催期間: 第1節/3月10日(日)~第30節/11月24日(日)

<JFL・地域サッカーリーグチームの入れ替え>
入会チームは、JFLへの入会を希望し、入会条件を満たすチームの中から、全国地域サッカーチャンピオンズリーグの1位チームを自動昇格とする。JFL 16位チームは、地域リーグへ降格。JFL 15位チームは、全国地域サッカーチャンピオンズリーグ2位チームと入れ替え戦を行う。



昨シーズンは惜しくもJ3との入れ替え戦を逃したレイラック滋賀。初開催となったホームの平和堂HATOスタジアムにはチーム最多となる4,152人が来場し声援を送った

2024プレナスなでしこリーグ（21部）開幕

24チームが参戦、元日本女子代表も監督に

日本女子サッカーのアマチュア最高峰リーグであるプレナスなでしこリーグ。今シーズンは1部12チーム、2部12チームがホーム&アウェイ方式による2回戦総当たりのリーグ戦を戦う（全22節）。

高田春奈理事長（WEリーグチエ

ア）は3月11日にJFAハウスで行われた開幕記者会見で「なでしこリーグのチームが日本中にあり、地域を盛り上げる女子サッカー選手がいることが重要」と、その存在価値を強調した。なでしこリーグの全24チームのホームタウンは、WEクラブがない山陰地方、四国地方、九州地方にも点在している。WEリーグの開幕とコロナ禍の影響で2020年に観客数は大幅に下落したが、直近の2シーズンはV字回復を見せている。1部と2部の平均観客数の差がわずか75人であることから、各チームがホームタウンに根付いていることがうかがえる。

開幕記者会見では、1部12チームの選手と監督が抱負を語った。注目を集めたのはスベランツァ大阪の大野忍監督。2011年になでしこジャパン（日本女子代表）が世界一になったときのメンバーの一人で、監督として指揮を執るのは初めて。「結果

にこだわり、勝てるチームを目指す。攻守において攻撃的にいきたい」と話した。スベ大阪は今シーズンから活動拠点を大阪府河内長野市に移しており、本拠地となる新サッカースタジアムも2025年に完成する予定だ。

静岡SSUポニータの本田美登里監督はサブライズ登場となった。2月までウズベキスタン女子代表の監督を務めていた本田氏は、3月にジュビロ女子サッカースーパーバイザーに就任。ジュビロ磐田と静岡スポーツユニテッド（静岡SSUポニータ）とのパートナーシップ契約に基づき、2年ぶりに同チームの監督に就いた。「老若男女がブルーのユニフォームを着て、土曜日はJリーグ、日曜日はなでしこリーグで磐田がサッカーの街になっていくための第一歩をスタートさせたい」と、磐田市に女子サッカーを根付かせようという意気込みでいる。

昨シーズン2位に躍進した朝日インテック・ラブリッジ名古屋は、三浦桃選手が「今シーズンの目標は優勝。朝日インテック・ラブリッジ名古屋に関わる全ての人々と共に22試合を戦っていきたい」と力強く語った。

なでしこリーグ 1部

新顔・新体制が
新しい風を吹かせるか

ディフェンディングチャンピオンのオルカ鴨川FCは、辛島啓珠氏が新たに監督に就任し、リスタートを切った。開幕戦は磐田市に乗り込んで静岡と対戦、1244人が来場したヤマハスタジアムで地元の声援を受ける静岡を相手に1・1で引き分けた。

1部に初昇格したヴィアマテラス宮崎は、人口約1万6000人の新富町がホームタウンだ。J3のテゲバジャーロ宮崎がホームスタジアムとして使用しているいちご宮崎新富サッカー場にスフィード世田谷FCを迎えた第1節は、会場に詰めかけた1246人の前で3・1と勝利。2部昇格以来、なでしこリーグでは負け知らずで、無敗記録を19に伸ばす好スタートを切った。選手の多くは、地域おこし協力隊として地域課題に関わる仕事に従事している。多様性や女性活躍の面からもこの小さな町の女子サッカークラブに注目が集まっている。

1部では、どのチームも技術、戦術、強度が底上げされ、実力は拮抗している。最後まで優勝争いから目が離せない。



2024 プレナスなでしこリーグ1部 全132試合を実況付きライブ配信、 YouTube配信公式テーマソングも決定

日本女子サッカーリーグは3月11日、「2024 プレナスなでしこリーグ1部」の全試合（各節6試合／計132試合）をYouTubeで全試合実況付きライブ配信することを発表した。実況は、各チーム専属の担当者が務める。

また、試合配信の際に使用する公式テーマソングが、ソロ・アーティストとして活躍するまるりさんの「brave」に決定したことも発表された。楽曲は、なでしこリーグのビジョンに共感したまるりさんがなでしこリーグのために書き下ろしたものの。歌詞のフレーズ「恋せよ走れ乙女」には“なでしこ”らしさが込められているほか、みんなで声を出せるパートがあるなど、「最初から最後まで全力疾走しているような」躍動感にあふれている。

●なでしこリーグビジョン

なでしこリーグには、
地域を愛し、地域に愛される人がいる。
なでしこリーグは、
ひとりひとりのサッカーを叶え、
未来を切り拓く場所。
なでしこリーグとは、
サッカーと幸せに生きること。

●YouTube「なでしこリーグチャンネル」で 実況付きライブ配信

URL : <https://www.youtube.com/channel/UCImu8qJ7v1TOdZFe7JbFbxw>

com/channel/

UCImu8qJ7v1TOdZFe7JbFbxw



●2024 プレナスなでしこリーグ1部 YouTube配信 公式テーマソング概要

- ・楽曲 : brave (ブレイブ)
- ・アーティスト : まるり
- ・所属 : 株式会社ゼスト
- ・使用用途 : YouTube「なでしこリーグチャンネル」で配信される2024 プレナスなでしこリーグ1部の試合中継におけるオープニングムービーやハイライト映像で使用予定。

■2024 プレナスなでしこリーグ1部

日程 : 3月16日(土) ~ 10月20日(日)
12チームによる2回戦総当たり(22節)

チーム名
パニース群馬FCホワイスター
オルカ鴨川FC
スフィーダ世田谷FC
日体大SMG横浜
ニッパツ横浜FCシーガルズ
静岡SSUポニータ
朝日インテック・ラブリッジ名古屋
伊賀FCノース三重
スベランツァ大阪
ASハリマアルビオン
愛媛FCレディース
ヴィアマテラス宮崎(昇格)

■2024 プレナスなでしこリーグ2部

日程 : 3月16日(土) ~ 10月26日(土)
12チームによる2回戦総当たり(22節)

チーム名
つくばFCレディース
大和シルフィード
SEISA OSAレイア湘南FC(新規参入)
FCふじざくら山梨
JFAアカデミー福島
ヴィアティン三重レディース
ディオッサ出雲FC(新規参入)
岡山湯郷Belle
吉備国際大学Charme岡山高梁
ディアヴォロッソ広島
FC今治レディース(新規参入)
福岡J・アンクラス



2024 プレナスなでしこリーグ2部 第1節・SEISA OSAレイア湘南FC vs ヴィアティン三重レディース

2024 プレナスなでしこリーグ2部 第1節・FCふじざくら山梨 vs 岡山湯郷Belle

東日本大震災の発生以来、静岡県で活動していたJFAアカデミー福島は、今シーズンから福島県に帰還し、ホームゲームをJヴィレッジスタジアムで開催する。

昇格争いの軸になるのは岡山湯郷Belleだろう。なでしこジャパンの経験もある坂本理保ら11人が加わった。主将の横山久美は昨シーズン、18試合に出場し22得点。アメリカ女子プロサッカーリーグのNWSLで培った高い得点能力は健在で、地元の熱い視線を集める。

WEリーグチームから移籍した選手ら10人が加入した。また、入替戦で2位となり、今季からなでしこリーグ2部に参入したFC今治は、ホームゲームの約半分を今治里山スタジアムで開催する。開幕戦では、1部から降格した大和シルフィードに0-1で敗れて黒星スタートとなった。

なでしこリーグ
2部

初参入3チームを加え
激戦必至

2部では、SEISA OSAレイア湘南FC、ディオッサ出雲FC、FC今治レディースを新たに迎え、12チームが優勝または1部昇格を目指して戦う。R湘南は2006年、中学生年代の女子選手のプレー環境を創るという目的で活動をスタートさせたクラブで、過去にはなでしこジャパンの宮澤ひなたがU-15チームに在籍していたことでも知られる。

9度目の挑戦で悲願のなでしこリーグ参入を果たしたD出雲は、WEリーグチームから移籍した選手ら10人が加入した。また、入替戦で2位となり、今季からなでしこリーグ2部に参入したFC今治は、ホームゲームの約半分を今治里山スタジアムで開催する。開幕戦では、1部から降格した大和シルフィードに0-1で敗れて黒星スタートとなった。

©adidas/JFA
東会場での集合写真

中学生年代の女子チーム創設を推進 14チームが東西に集結し、初のイベントを実施



JFA女子サッカーデー2024の一環として、初の「アディダス・JFA HER TEAM CUP 2024」が3月23日、24日に高円宮記念JFA夢フィールド（千葉県）、同30日、31日にはJ-GREEN堺（大阪府）で開催された。アディダス・JFA共同プロジェクト「HER TEAM」によって誕生した女子チームが東西に集結し、特別ゲストも交えて充実した2日間を過ごした。



なでしこジャパンのレジェンドのプレーを間近で見ることができる時間は特別なものに
(写真右は澤さん) ©adidas/JFA

岩淵さん(右)が直々にアドバイス ©adidas/JFA

2020年プロジェクト始動 女子中学生に活動機会を

日本サッカー協会（JFA）とアディダスジャパン株式会社は2020年、中学生年代の女子チームの創設を後押しする活動に着手した。

JFAは19年5月の理事会で、国際女性デーの3月8日を「JFA女子サッカーデー」に定め、女子サッカーの普及と発展に関わる取り組みを全国で展開することを決定した。翌20年の2月に記者会見を開いてその具体的な内容を説明。その一つがJFAとアディダスの共同プロジェクト「HER TEAM」だった。

日本では、中学生年代の男子サッカーと比べて女子のサッカーチームが圧倒的に少ない。バスケットボールやバレーボールと比較しても十分な受け皿がない。それが理由でU-15（中学生）年代では女子選手の競技人口が急激に落ち込んでしまうことが長年の課題だった。

一方、アディダスは「スポーツを通して、私たちに人々の人生を変える力がある」という理念の下、18年からアメリカやフランスなどで女性スポーツの発展に向けたプロジェクトを展開。日本国内では女子中高生のスポーツ継続率の向上を目指していた。そして20年、JFAとのパートナーシップの下で、国内プロジェクトの第一弾となる「HER TEAM」を立ち上げることを決めた。「HER TEAM」プロジェクトでは、サッ

アディダス・JFA 共同プロジェクト「HER TEAM」

JFAとアディダス ジャパン株式会社とのパートナーシップの下に2020年に立ち上げたプロジェクト。中学生年代の女子選手がサッカーを続けられる環境を広げることを目的とし、これまで30チームの創設をサポートしてきた（2023年12月末時点）。チーム創設に際し、メンバー募集のための告知ツールやユニフォームの提供、サッカークリニックの開催、47FA女子普及コーディネーター、FAコーチによるチームサポートなどを行う。

<https://shop.adidas.jp/football/herteamproject/>



カーを続けたい女子選手、サッカーを始めた少女が、サッカーを楽しみ、継続できる環境を増やすため、女子中学生のチーム創設を支援。そのために必要なツールを提供したりチーム運営に関するさまざまなサポートを行ったりするなどしてチーム立ち上げを後押ししている。22年11月にはなでしこジャパン（日本女子代表）の長野風花選手を迎えて「Fuka Talk!ー長野風花とHER TEAM サッカーガールズトーク」を、今年3月には「アディダス・JFA HER TEAMプロジェクトキックオフオ



今年3月のキックオフオンライン交流会には、なでしこジャパンの池田太監督も登場（上写真左。同右は今井純子JFA女子副委員長/当時）。参加者の質問に池田監督が直接回答するなど有意義な機会となった



西会場での集合写真



参加選手と澤さん(左)、岩淵さん(右) c adidas/JFA



クイズ大会ではFIFAワールドカップ公式試合球や代表ユニフォームなどが景品として贈られた c adidas/JFA



会場にはオリジナルフレームを使って撮影できる企画も c adidas/JFA



レジェンドたちとのトークでは積極的に質問し、クイズに手を挙げる選手たち c adidas/JFA

【開催概要】

名称：アディダス・JFA HER TEAM CUP 2024

主催：アディダス ジャパン株式会社、
公益財団法人日本サッカー協会

日程：①2024年3月23日(土)～24日(日) 1泊 2日
【東会場】高円宮記念JFA夢フィールド(千葉県)
②2024年3月30日(土)～31日(日) 1泊 2日
【西会場】J-GREEN堺(大阪府)

ゲストアンバサダー：澤穂希、宮間あや、岩淵真奈(敬称略)

<参加チーム>

- | | |
|------------------|--------------------------|
| ●東会場 (8チーム) | ●西会場 (6チーム) |
| ・Bollamigo新潟 | ・ENHEARTORYレディース |
| ・フィオーレ | ・トルペリーノ |
| ・OSAKA PIONE U15 | ・FC Sol・Tesoro Girls U15 |
| ・スフィダ仙南 | ・ICG宮崎 |
| ・上田FCフィリア | ・FC徳島女子選抜チーム |
| ・鴻巣フットボールクラブ | ・FC.Reviale |
| ・さいたま市立常盤中学校 | |
| ・Kuruli girls | |

<スケジュール(抜粋)>

●1日目

【オンピッチプログラム】

- オープニング
- ウォーミングアップ(アイスブレイク)
- グループトレーニング
- ミニゲーム

【オフピッチプログラム】

- ゲストとの交流企画(選手向け)
- 女子サッカーの未来や女子プレイヤーの指導方法について(代表者・指導者向け)

●2日目

【オンピッチプログラム】

- オープニング
- 試合形式(8人制/5人制)
- 閉会

**初のイベント開催
選手たちの笑顔が溢れる**

「HER TEAM」プロジェクト発足から4年を迎えた今年、プロジェクトによって創設されたチームが東西の会場に一堂に集って交流を図る「アディダス・JFA HER

日本女子サッカーの未来をより良いものにしようと立ち上げられた「HER TEAM」プロジェクト。これからもJFAとアディダスが共同して中学生年代の女子サッカーチーム創設に取り組んでいく。

オンライン交流会を開催し、チーム間の交流や有益な情報を届ける場も提供してきた。同プロジェクトによって誕生したチームは30に上る(2023年12月末時点)。チーム代表者からは「男子に交じってプレーすることにためらいのある選手たちから大きな反響があった」「地域の少年団から女子の受け皿として大歓迎されている」「選手からは『サッカーを続ける環境ができて良かった』と言ってもらえている」という声が届いている。

TEAM CUP 2024」が初開催された。14チームが参加し、東西に分かれてそれぞれ2日間の日程で合同トレーニングや試合を実施。選手たちにはオリジナルユニフォームが提供された。また、特別ゲストとして元なでしこジャパンの澤穂希さん、宮間あやさん、岩淵真奈さんが参加し、サッカーの手ほどきをしたり、テクニク溢れるプレーを披露するなどした。

1日目の夜には特別ゲストとのトークセッションやクイズ大会なども行われ、参加者たちは2日間を通して充実した時間を過ごした。

読者プレゼント

応募締切：2024年5月15日(水)当日消印有効

アディダス ジャパン(株) 提供

日本代表のオフィシャルサプライヤーであるアディダス ジャパン(株)より、「TIRO L ボールネット」を1名様にプレゼント。



(使用イメージ)

JFA STORE 提供

「JFA STORE」は日本代表のグッズなどがそろったJFAのオフィシャルeコマースサイトです。さまざまなシーン、目的に合わせてグッズを確認できるページに加え、特集ページも用意しました。

今号では「PILOTバティント/シャープペン(2本セット)」と「PILOTフリクションボール4(SAMURAI BLUE)」を各1名様にプレゼント。



PILOTバティント/シャープペン



PILOTフリクション
ボール4
(SAMURAI BLUE)

JFA STORE



<https://official-store.jfa.jp/>

プレゼント応募方法

■Web

プレゼント応募URL

<https://forms.gle/hMDvi1jyhNwdFBq6>

上記URLもしくはQRコードよりアクセスしてご応募ください。



■はがき

〒112-0004

東京都文京区後楽1丁目4-18 トヨタ東京ビル

公益財団法人日本サッカー協会 コミュニケーション本部 広報部
「JFAnews プレゼント応募」係

①名前、②郵便番号・住所、③電話番号、④希望プレゼント名、⑤JFAnewsのご感想・ご意見などを明記の上、郵送でお送りください。

当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます。発送は2024年6月上旬から中旬の予定です。

※収集した個人情報は厳重に管理し、他の目的には使用しません。また、お送りいただいた葉書は返却しません。

JFA公式アプリ JFA Passport いつでも、どこでもあなたの楽しみかたでサッカーとつながろう！

「JFA Passport」は、ご自身のサッカーへの関わり方に合わせて、あなたに合ったニュースや動画、イベント情報、お知らせなどを閲覧できる、日本サッカー協会(JFA)公式アプリです。

- 会員限定で参加できるイベント情報が満載
- アプリでしか見られないオリジナル動画を配信
- お得なクーポンやプレゼントをゲット



【今月の配信コンテンツ】

✓ 毎月第2・4水曜日にサッカークイズを更新中！

4月トピックス予定：

AFC U23アジアカップ、キッズ・普及関連

✓ アプリ限定動画を配信しています

- ・SAMURAI BLUE 遠藤航と富安健洋がプレミアリーグを語る
- ・U-22日本代表 vs U-22アメリカ代表(10月18日)フルマッチなど

✓ 日本代表グッズが当たるプレゼントキャンペーン

●JFA Passportの詳細・ダウンロードはこちら▶▶▶

<https://www.jfa.jp/jfapassport>



公益財団法人日本サッカー協会 機関誌

JFA news

発行人：湯川和之

発行所：公益財団法人日本サッカー協会

〒112-0004

東京都文京区後楽1丁目4-18 トヨタ東京ビル

TEL.050-2018-1990(代)

URL <https://www.jfa.jp>

監修：公益財団法人日本サッカー協会 コミュニケーション本部

編集：編集長 加藤秀樹

JFAnews編集部/(株)ウォールニクス

印刷：サンメッセ(株)

定価：600円/本体545円

次号2024年5月情報号は、2024年5月20日発売予定

[特集]

JFA新体制の発足

※特集テーマ・内容は変更となる場合があります

ご購入のお知らせ

・インターネットからのご購入

日本サッカー協会 Official Online Shop

<https://webshop.jfa.jp/fs/jfagoods/c/top>

※クレジットカード決済のみ。

上記サイトでは本誌のほかJFA関連発行物の購入が可能です。

・年間購読

JFAnewsの年間購読料は、送料・税込みで1年間(12冊)5,000円で、年間2,200円お得です。

ご希望の方は上記URLよりお申し込みください。

・チーム登録をされているご購入者さまへ

JFAnews発送における住所変更、名義変更を希望される場合は、JFA公式ウェブサイトの「JFAへの登録」よりJFA IDシステムにログインしていただき、変更をお願いします。

※<https://www.jfa.jp/registration/>



よろこびがつなぐ世界へ

KIRIN

春の体調管理に、 おいしい免疫ケア。

新発売



機能性表示食品 ※免疫の機能性表示食品として届出された日本初の機能性関与成分

おいしい免疫ケア、おいしい免疫ケア カロリーオフ **【届出表示】** 本品には、プラズマ乳酸菌 (*L. lactis* strain Plasma) が含まれます。プラズマ乳酸菌はpDC(プラズマサイトイド樹状細胞)に働きかけ、健康な人の免疫機能の維持に役立つことが報告されています。おいしい免疫ケア 睡眠 **【届出表示】** 本品には、プラズマ乳酸菌 (*L. lactis* strain Plasma) とGABAが含まれます。プラズマ乳酸菌はpDC(プラズマサイトイド樹状細胞)に働きかけ、健康な人の免疫機能の維持に役立つことが報告されています。GABAは睡眠の質(眠りの深さ、すっきりとした目覚め)の向上に役立つことが報告されています。●食生活は、主食、主菜、副菜を基本に、食事のバランスを。●本品は、国の許可を受けたものではありません。●本品は、疾病の診断、治療、予防を目的としたものではありません。

のんだあとはリサイクル。



oishii-meneki.kirin.co.jp

キリンビバレッジ株式会社

げんきな免疫
プロジェクト

